ネスタア　もしお前さんがあの人を見れア、お前さんでもきつと、すぐにあゝいふ人だといふ事がわかるよ。シビイ・フアヒイ。きつとお前さんは今までに、あゝいふ、この村の半分でも買つてしまふ程澤山の金を持つた人を見た事はあるまいよ。

シビイ　一番澤山金を持つてゐる人がいつでも一番立派ななりをしてゐるもんぢあねえだからね。しかし、その人はきつと、とにかくええ黒の服を着て、ぴかぴかの靴をはいて、金の鎖を胸の上へぶらぶらさせてゐなさつただらうねえ。

ネスタア　（意地悪さうに）さうだらうな。金の指輪に金のピン。そしてまるで、フランスかエスパニア國の王様のやうに。

クウニイ登場。帽子もなく、煤と石灰とですつかりよごれてゐる。だまつてゐるがしかし元氣よく、そして手には孵りたての雛の入つてゐる巣を持つてゐる。

ネスタア　一體クウニイさん、それアまアお前さんどうしたといふのだな！

クウニイ　まあ見てくらつせ。わしのもつてゐるものを！

ネスタア　巣ぢあないかな。

クウニイ　三匹、この中に雛が入つてゐるのだわな。

ネスタア　（力なき聲で）そこでお前さんも、ジャックダウだ、と云はうとしてゐなさるのかな！

クウニイ　わしはあんたに敎へてもらつたやうにして……

ネスタア　ところでそれうあんたアどうするちうだな？

クウニイ　あの水車の煙突の中にア一杯ゐると云ひなさつたで……

ネスタア　それで一體どうするちうだね？

クウニイ　熊手はこはして高い所へ置いて來てしまつただよ。……わしの帽子はあの堰水の中へ落ちてしまひ……上着は石でかつさいてしまつただよ……そして石灰は目の中へ入るし……

ネスタア　あーあ堪らん。神様、神様、わしらをお助け下さりませ。

クウニイ　だがしかし、この通り、丈夫なぴんぴんした鳥を持つて來たぢあねえかな。まあまあ一寸見なせえ。みんな口を開けてゐるよ。（みんなこのまはりに集る）三つだけが無事で生捕れたわけだよ……一つは塀を攀ぢ上つてゐる時に落してしまつただよ。……それはさうと、一體これを買つて呉れる人はどこにゐるのだね？

シビイ　（ネスタアを指しながら）それアあの人が敎へてくれるだよ。

クウニイ　それぢや早速その人をわしのところへ連れて來て下つせ。ぐづぐづしてゐたら、わしが手で握つてゐる中に死んでしまふと困るから。

ネスタア　そんなものを買ふ人なんかないちう事をよーくあんたの腹へ入れなさろ。

シビイ　買ふ人はねえ！　そんな馬鹿な、あると云つたのは現在お前自身ぢあねえか。
ネスタア　わしが云つても云はんでも、そんな人はゐねえのだ。
シビイ　あつ！　あれだ。その人の指輪やピンの話をしてから、まだ二分ともたたねえのに。
ネスタア　とにかくそんな人はないのだよ。
クウニイ　それぢあ今度、あいつはどんな事を企らんでわしを欺して卷上げるつもりなのだ。
シビイ　そんな事アあんた自分であの人に聞いてみなさろ。何と云ふか聞いてみなさろ。
クウニイ　どうして嘘を云つてる男なぞに聞く事が出來るもんだ。
ネスタア　わしは嘘なぞ少しも云つちあをらん。私は何でもお前さんの訊く事に答をする事が出來る。そして本當の事を話す事も出來るのだ。
クウニイ　それぢあ、この家の婆樣にやつたやうに、わしにもこの鳥を現金で買つてくれる人は一體どこにゐるだか話しなせえ。
シビイ　さうだ、さうだ。さあさあ今から、それを云はつせ。
クウニイ　一體あんたア俺に何べん同じ事を云はすのだ。俺アほんとに怒つたら邪が非であらうと云はさすだぞ！
ネスタア　わしィこれぢあまるで、稻村へ火をつけてしまつたやうな事になつた。だがわしは今にこれをやす〳〵と消す事が出來るのだ。いいかね、南アフリカなどに誰も居りはせぬのぢや。又、そんなとこから來た人などはありませぬのぢや。そこで鑛山をもつてる人などいふのは皆うそぢや。ところで、鳥を買つた人はどこにゐる、とあんたア訊くだらう。その人ア、ここにわしらと一緒に、ほらここに立つてゐる（クウニイを指さす）これがその人さ。その人だよ！
クウニイ　（一足進み出して）お前云つてるのは何だ？
ネスタア　わしはね、ここへ來た人は、お前さんの外にはないと云つてるのだよ。
クウニイ　あいつは一體、ここへ金持が來たと云つたのか云はねえのか？
シビイ　確かに、來たと云つただ。
ネスタア　つまり計企を立てて……
クウニイ　わかつてるよ。俺ア貴樣ア腹あつてしたちう事アよく知つてるぞ。
ネスタア　それう一寸もひとに知れんやうにと思つて……
クウニイ　つまり貴樣ア、これうひとに知られまいとしてゐるのだな！
ネスタア　それうあの婆さんに感づかれぬやうに……
クウニイ　それでも俺ア感づいた。感づく立派なわけがあるだ。十磅、俺にかへせ。さうすれあへえ俺ア文句ウ何にもねえ。

ネスタア　どうしてそれが返せるもんか。
クウニイ　それう前に自分の手でやつたやうにして。
ネスタア　それあもうへえ、すつかり使ひはたして殘つちあゐないだ。
クウニイ　さあ、返すか返さぬか！　俺を自分の餌食にしようとして夢中になつてゐる貴樣の腹ン中、俺にアその中へ入つてゐるやうによくわかつてゐるだぞ。だが俺が正氣に戻してやる。裁判所へ俺ア貴樣を引つぱり出してやる。いいや牢屋へでも入れてやるぞ。
クウニイ　いいかね、そいつアわしが、後家婆さんにやつただよ。

ミセス・ブロデリック現はる。

クウニイ　さアあの人に自分のした事を話すがいい。
ミセス・ブロデリック　一體何事だね。何事が起つただね、ジョセフ・ネスタアさんが立ちん坊ともごろつきともつかねえ奴に怒鳴られてゐるなんちう事は！
ネスタア　立ちん坊かごろつきならまだしも、この人のやる事を堪忍出來るだか。
ミセス・ブロデリック　それぢあ酒でも食つてるのだよ。酒ちうものは恐ろしい力のあるもんだ。一方にア地獄の焰が見えてゐても一方ぢや酒をくらつてゐるだ、酒の方へ目をむけさせる力アあるだ。

クウニイ　くだらねえ事しやべるのはもうやめろ、メリイ・ブロデリック。今から俺がこの惡者に本當の事を白狀させてやるだから。
ミセス・ブロデリック　わしの名知つてるのは誰だ。あれ！　それあミカエル・クウニイでねえか！　ミカエル・クウニイ、あゝ阿兄さんか！　あーあ、ミカエル、そんな風をして町へ出て來ちあみんなアお前の事を何と思ふか知れねえ、まるで一日野良へ出て鳥でも追つてゐた杖の先の襤褸のやうな風をして出て來ちあ！
クウニイ　（ネスタアを指しながら）この惡者のいふ事を聞いて水車の上へはひ上つて、俺アこんなぁりになつてしまつただ。
ミセス・ブロデリック　酒え食つてゐるものなぞが、何で高い水車の上なぞへ這ひ上らにアならなかつただ？　お前のやうに平素根性のねぢけた人ア、酒など飲んぢあ尙よくねえわな。
クウニイ　ええ、よくまあ聞きあがれ。俺アへえこの十年餘り、飲場で猪口など持つたちう事アただの一度だつてあれアしねえ。
ミセス・ブロデリック　あーあお前のやうな人アちつとネスタアさんの所へ行儀ちうものを習ひに行くとええわな。
クウニイ　ええッ！　この男は、俺を欺して金を卷きあげた奴でねえか！　さあこの事に何か

ジャックダウ

云へるか云つてみろ。お前、ムーアの八卦暦の中から何磅かの札を見つけ出しただか？

ミセス・プロデリック　何にも見つけねえ、本當に何にも見つけねえ。そんなものはどこにもなかつた。

ネスタア　わしがそれう暦の間にはさまうとしてゐるとそこへ、あの人ア這入つて來てしまつただ。

クウニイ　それぢあ暦を見てみるがええ、さうすれあ、この男、惡者だか正直だかがわかつて來る。

ネスタア　それあ見るまでの事アない。

ミセス・プロデリック　（暦の頁を繰りながら）何にもねえ。ここん中にある事は、お月様が幾日に變るかちう事と、この月にアどんな事が起つて來る、どんな事ア起らねえ——

クウニイ　（暦を引ったくつてふつてみせる）さあ、これやどうだ！　（ネスタアに）さあかうなれあ俺が手前を惡者だと云つたとて間違つてるたあ云へめえが！

ネスタア　おかみさん、まあわしの云ふ事を一通り……

クウニイ　いいやお前、俺の云ふ事を聞けつちア！　俺アお前に金を持つて來てやつただ。

ネスタア　さうかもしれんが、おかみさん、この人アあんたの事は信用しなかつただ。

クウニイ　俺アお前を助けてやらうと思つてしただ。

ネスタア　この人アおかみさん、あんたがもし自分と一緒にライメリックへついて來れあ困ると云つてゐただよ。

ミセス・プロデリック　なに、わしこんな人とライメリックなどへついて行くもんだ。この人ア、他人様アフリカからどさつてわしを助けて下されても自分は知らん顏してゐた樣な人でねえか。

クウニイ　俺ア金をやつただ……

ネスタア　だからわしがそれをジャックダウの代金としてあんたに拂つてあげたのでねえか。さあこれでも腹に入らねえだが、メリイ・プロデリック、わかつたか。

ミセス・プロデリック　腹に入つただかと！　こんな事がわしの腹へ入つてたまるもんでねえ。妹の頭の上にア呼び出し狀叩きつけられてるうちに、その兄弟は鳥なぞに金を使つてゐる！わしがこんな風でゐるのにミカエル・クウニイは自分の事を鑛山持ちだなどと云つて、法螺吹いて通すなんちう事が、何でおらに、承知出來るもんでねえ。

クウニイ　俺が何を欲しいと云つた？　よく聞けつちあ、俺アな鳥など、黑いのも青いのも白いのも、一寸も欲しいなどたア云つた事アねえぞ！

ミセス・プロデリック　お前はまあ、今になつてよくそんな事が云ひ出せるだなあ！　お前自分

の手にしつかりと鳥を握つてゐるでねえか！　（クウニイいまいましさうにその巣を投げすててしまふ）自分の姉妹は家ん中に針一本買ふ錢もねえちうに、ジャックダウをさがしまはつてゐるたあ一體何ちうこつた！　よくまあ考へてみるがええだア、ミカエル・クウニイ。お前は今にも死んでしまやあ裸で土ん中に埋けられるだ。それう金だとかしんしやうだとかいふものを、さういふ浮世の淺間しい贅澤に使ふ事にばかり夢中になつて、風や氷の中をふらふらと迷つて歩りく。さうしてお前と一緒に一つ家で育つた妹は、今にも救民院へ連れ込まれやうとしてゐるちうだ。一體ジャックダウがこんな時何になるだとお前は思つてるだか！

クウニイ　おゝ！　俺こそ貴様らみんなでどんな事を企らんでるだか知りてえだ！　こんな油斷の出來ねえ世の中ぢあ、これあへえなかなかどうして、他人のいふ事などをまにうける事はいつになつたとて出來さうもねえ。

ミセス・ブロデリックは腹立しさうに涙をふく。トミイ・ナアリイがまだ鳥の入つてゐる籠をもつて出て來る。

ナアリイ　鳥の買手はどこにゐるだね。ここへ來れあゐるちう話だつたが。とにかくここへ來てみるがええと思つてね。もう三十分もしたら、村中のものがみんなここへ來るに違ひねえよ。今、どこもかしこも鳥を捕まへたり捜したりしてる人で一杯だ。だがどうだい、皆の衆一寸くらこれを見て下せえ。何とうらが一番であらずがな。

ネスタア　お前さん一體何を云つてるんだ。

ナアリイ　村中に人のゐる家ア一軒もねえよ。チモシイ・ワードも自分のゐるべき場所を逃げ出してしまふ。判事さんたちまで、そのあとを逐つて、席をはなれてしまひなされたといふ騒ぎだ。

ネスタア　あーあ何ちう事だ、空氣の中に毒でもあるだか祟りでもあるだか。

ナアリイ　鳥を取つてる人ア數へ切れねえ。年寄りも子供も！　鳥買ひはどこにゐるだ。一體わしに金を拂つてくれるちう人はどの人だね？

籠をたかだかとさしあげる。

クウニイ　火のないところに煙の立つちう道理はねえ。これあどうしてもどつかに買手がある に相違ない。どうもこいつらア自分たちだけでその買手をつかんでゐようと思つてゐるのだな。

（戸口へ行く）それぢあこんな奴らはどうでもいい、俺は自分だけ儲けて來よう。

町の上手下手を見ながら表の戸口から出て行く。

ミセス・ブロデリック　あれ！　トミイ・ナアリイのもつてゐるものを見なせえ。あれアわしの鳥ぢアねえか！

ジャックダウ

ナアリイ　いいやそんな事アない、俺の鳥だ！
ミセス・ブロデリック　あれはわしの籠だ！
ナアリイ　いいやそんな事アない、俺のだ！
ミセス・ブロデリック　自分の籠や自分の鳥がわしにわからぬと思ふだか。なんでそんな嘘をこくだ！
ナアリイ　俺嘘なんかいふものか。この鳥の入つた籠は、わしア贈り物にもらつたのだ。
ミセス・ブロデリック　それアわしのものだもの誰がそれをお前に贈り物なぞにやる事が出來るもんだ！
ナアリイ　いいやネスタアさんがこれを俺に呉れたのだ。
ミセス・ブロデリック　あれア本當の事ですかジョセフ・ネスタア？　何の必要があつてあんたアわしの鳥を贈り物などにしてしまつただア？
ネスタア　だが、あれアわしが貴方から買つてしまつたものぢあないか。
ミセス・ブロデリック　たとへあんた買つたあとだたア云つても、それア自分で買つたのぢやなくて、南アフリカにゐるちう氣の毒な人の代りにあんたア買つたのでねえか、それう何のゆかりもねえ男にやつてしまつたでは、あんたアその人を瞞すわけだ。

ネスタア　わしは全く誰のために買つたのでもねえと云つてゐるのに、あんたにアわからねえだかなア。
ミセス・ブロデリック　トミ・ナリ、さあそれを離せ！　離さなけアわしは貴様、牢屋へぶちこんでしまふぞ！
ナアリイ　お！、おかみさん。お前さまそんな恐ろしい。そんな恐ろしい！
ミセス・ブロデリック　いいや、わしはする、きつとする。泥棒にして踏車の上へ乗せてやる。
ナアリイ　オウオウオウ。これアどうだ、ネスタアさん。あんたアわしを泥棒として牢屋ん中へぶちこんでしまつただか！
ネスタア　えーえツ！　貴様なんぞは神様ア牢屋へでも入れて下さるとええだ。ここがさつぱりしてええだア。
ナアリイ　おーう！　あんたそんな恐ろしい事をいふもんでねえ。貧民院でも牢屋よりはどの位ええかわかりましねえ！　尼様アゐて極樂へ行けるやうにして下さる、お彌撒さまは毎朝毎朝つとまるし……
ネスタア　えーえツ！　いつまでもいつまでもしやべつたり理窟を云つたりしてゐると、本當に貴様、牢屋へぶちこんでしまふぞ。

ジャックダウ

ナアリイ　水曜日と金曜日には牛乳がつく。それから、じやがたら芋はまことにへえ具合よくふかしてある……みんなの話にア牢屋ん中であんたア食はにアなんねえものはいもの皮だといふぢあねえか。あーあツ！　ネスタアさん。お前なんさあ頭の上、あの鳥がおつかぶさつて來て、つぶされて死んでしまへ！

ネスタア　（籠を引つたくつて、戸をあけて鳥を逃がしてしまふ）　悪りい種からええ木は生えん！　俺アもうこんなもの二度と見たくも聞きたくもねえ！

ミセス・ブロデリック　あれエ、お前さん何をしてしまつただ。あの鳥をもとのやうにして返へせ！　もとのやうにわしの手へあれを取つて來て返へせちうに！　あれう買ふちう人が表まで來てゐるだものわしあれうすぐ賣らにアならんでねえか。さうすれアその金アわしがポケットの中に入れておく事の出來た金でねえか！

ナアリイ　あれうへえ三文にもならねえ空の中へ逃がしてしまふ位えなら、あの鳥わしのええやうにまかしておいてくれたとてよささうなもんでねえか！

ミセス・ブロデリック　（ネスタアの腕をつかんで）さああれをもとのやうに捕へて來てくれといふに！　あゝあのとねりこの木の高い所にとまつてゐる。枝にとまつて、翅でばたばた羽ばたいてゐる。

ネスタア　お前さんどうしても氣がすまんちうのなら籠をよこしなさるがええ、何とかしてわし鳥がこの中へ入るやうにさそつてみるだから。

クウニイ　（入つて來る）みんなあつちこつち走りまはつてゐる。いふまでもねえ、みな鳥を捕つてゐるのだ。それえほしいちう人が本當にどこにもゐねえのなら、みんながあんなに骨を折つてかけまはつてゐるはずがねえ。

ネスタア　（クウニイを押しのける）あの鳥がどこへも飛んで行かねえ中に、わしはあそこへ行かにアならん。

クウニイ　（ネスタアをしつかりつかまへて）さあどうだ、今までぐづぐづ云つてゐた貴様が今度は自分で鳥を捕まへはじめたのか。

ネスタア　どうか後生だ、わしにここを通して下され。お前にわしはもう何も云ふ事アねえ。

クウニイ　さあ、これでも鳥が三文にもならねえと云ふつもりか！　俺にア貴様ア何か魂膽のあるちう事はよく知つてるだぞ。何がこんなものがええ立派な智慧者だ！　あの時貴様が智慧を貸したちうのは、おのれ自分に貸したのであらうがな。

ネスタア　そんな大きな聲を出して、あの鳥が今とまつてゐる枝から逃げてしまはねえ中に、どうかここを離して下されといふに。

クウニイ　貴様は貴様は、俺が金をぬすんだでねえか。さうして俺のかうして儲けた金がどうしても俺の手に入らねえやうにかくしてゐるのぢやねえか。

クウニイ、「ムーアの璦言暦」をひろひあげ、それでネスタアをなぐらうとする。

シビイ　これアここで人殺しが始まるかも知れねえ、あれあれ皆の衆、氣をつけさつせ。

シビイはネスタアをつかむ。

ミセス・プロデリックはクウニイを止める。トミイ・ナアリイは兩手を翼のやうに動かしてゐる。

ネスタア　トミイ・ナアリイ。お前どうか後生だから警察へ行つて巡査を呼んで來てくれ。

クウニイ　ええツ！　ここは一體、そんな巡査をよばにアならんやうな恐ろしい獸の住家なのか！　そこへ俺はやつて來たのか！

ネスタア　本當に本當に、無禮千萬な奴ぢや。

クウニイ　みんなよつてたかつて俺一人をいいやうにと思つてゐるだな。俺の身を亡ぼすやうな罠をみんなで作りアがるだな。

ネスタア　この人がわしに對して腹ア立てるやうなわけ、わしにア一寸もわからねえだア。

クウニイ　何を貴様が。貴様はそもそも最初から、キャベツ畑の山羊のやうな面をしてちつと俺の札に目をつけてゐやあがつた！

ネスタア　お前さんは片手に餌を持つて、片手には匕首を持つて入つて來たのだな。

クウニイ　何だと！　も一度ぬかせ。手前の首の骨はたたき折つてしまふから！

ネスタア　オーウ貴様は貴様は、おそろしい惡ものだなあ！

クウニイ　あーあツ！　貴様のやうな奴、絞め殺してやつたら、俺の胸も晴れるだらう！　貴様をたたき殺したら、俺も胸がすくだらう！

ネスタアをめがけてムーアの璦言暦をたたきつける。ネスタアは手にしてゐた新聞の束を投げつける。

ネスタア　この野郎！

チモシイ・ワード大急ぎで入つて來る。そしてすぐ戸をしめる。

ワード　さあー　みんな靜かにしねえか！　判事さまたちアここへやつてござつただぞ。

ミセス・プロデリック　そ、それア大變だ、あーあ神様お助け下されませ！　一體何事で裁判所から出てござつただ。

ワード　裁判願つて出た人も證據人もみんな鳥をさがしに行つて一人もゐねえ。それで判事様たちア、その大鑛山をもつてるお人をよんで一緒に、ノーナンのホテルで晝御飯を召し上りたいと仰しやるだ。

ジャックダウ

クウニイ　何と人間がかくすつもりでも、馬の方が飼主の側へよつて行く。どうだ化けの皮が現はれたか。あーあ世の中アやつぱり爭はれねえもんだ。

ワード　ところがその人はどこへ行つても見つからねえ。しかしその人がこの家から出て行くのをまだ一人も見ねえちう事が判事様たちの御耳に入つただ。それで判事様たちアみんなでこへたづねにござつただ。

ネスタア　何も心配するにア及ばねえだよ。何もかも、この事アわしがあの衆にみんな説明してあげるよ。

ワード　巡査も一緒について……

クウニイ　それぢあこの邊一帶がみんな計企にかかつたのかしら。

ネスタア　判事さんたち心配してゐなさるのは、そんな大金を持つた人だから、もしも殺されたんぢやあるまいかと云つてござるだよ。

クウニイ　もしもその人が殺されたとすれあ、それアへえ百が百まで間違なく、殺した悪者はそれここにゐる。（ネスタアを指す）

ワード　もしあの衆らその人を捜し出す事が出來なけれあ、この店にゐるものをみんな捕縛してしまふのだ。

クウニイ　そんならここは逃げるが勝だ！

戸口の方から逃げ出さうとする。

ワード　おつと、そこにア巡査部長のカルデンさんがついて判事さんたちがゐなさるよ。もうどうにかしなけりアならんのなら、ネスタアさん。かくれてしまふが一番だ。

扉の外に足音、話聲、それからノックする音。クウニイは幔幕臺の下へかくれる。ネスタアはベンチの上に横になつてその上に新聞紙をひろげる。ミセス・プロデリックは幔幕臺の後にはひる。

ネスタア　（顔のところの新聞を上げて外をのぞきながら）　トミイ・ナアリイや。お前さまに五シルリングやるからどうか、「チツト、ビツト」を引つぱつて私の足の上へかけておくれ。

解題及び原作者奥書

ジャックダウといふ鳥は、愛蘭土にはかなり澤山ゐる鳥で黑色だ。で誰か評論の中でこれを「烏」と譯してゐたのを記憶してゐるが、一寸面白い工夫だと思ふ。何故なれば、愛蘭土人がジャックダウといふ名を聞くのは、我々が鴉といふ名を聞く樣に親しいに違ひない。事實、ジャックダウといふ原名のまゝ劇中へ出したくないとは私も考へたが、「口利烏」だの「おうむ烏」などの言葉は猶更耳ざはりだし、思ひ切つて烏と譯すには、他に明瞭に烏といふ鳥がゐるし、又鴉だけでは譯し足らぬ氣持があるので、臺詞の中に交つては生硬な嫌はあつたがジャックダウと原のまゝにしておいた。人語を眞似する鳥だから、幸、色も黑いので九官鳥としてはとすすめてくれた人もあつたが、作中「外國にゐて故國を思ひ出す親しい鳥には丁度いい」といふ意味があるが、わざわざ邦語にして九官鳥としたとて、決して我々に親しい感じは出ないのを思つてこれも採らなかつた。

この作の初演された一九〇七年は、愛蘭土劇の最も活躍した時代で、實に多數の新作を上演し、それがいづれも後世に殘される名作であつた。殊に例の騷動を起したシングのプレイ・ボーイは此年の初めに初演されたものである。グレゴリイ夫人の活動も頗る盛んで、此年新作として初演した脚本九篇の中、五篇まで夫人の手になつたものである。

「噂のひろまり」から「ヒアシンス・ハルベイ」を經た夫人の農民喜劇は、同一系統に屬する「ジャックダウ」を發表して、その日常生活から何でもない仄かなテーマを發見して思ふさまそれを開展し、物狂はしい迄に發展させる技巧は極頂に達してゐる。一九一〇年夫人は「滿月」を發表して今一度これとよく似た手法を繰返す。

懸索好きや理窟好きの人には或はかうした作は困るかも知れないけれど、ここまで來ると、かういふ戯曲は又到底懸索好きや理窟好きでは書く事の出來ぬ獨特境である。

その他にこの戯曲の夫人の作として大いに注意すべき事は、夫人の奥書にも述べられたやうに今は見難くなつた夫人の最初の脚本作品の荒筋がこの喜劇中の挿話になつてゐる事である。恐らくは夫人自身も「二十五」を捨てて、そしてその代りにこれを得たもので懷しい作なのであらう。

聖パトリック樣の日にも聖ブリヂット樣の日にも——といふ句が始めの方のミセスブロデリックの科白の中にある。聖パトリック及聖ブリヂットの事は幸に邦文譯になつて、佐藤清氏「愛蘭文學研究」の中に一章を費して說明して居られるから仔細には同書を參考とせられたい。聖パトリックはそれまでは北歐の色彩の强い土着にして自國個有の神話頗る異教的な、多神教的な神話傳說しかなかつた愛蘭土へ、五世紀頃布教に渡來した聖徒で、彼はここに耶蘇教を移植したのみならず文藝學術一切の文化の起るもとを作つた。されば愛蘭土人は聖パトリックの日には今も猶國中が盛んな祭をする、この日にはネクタイを始め贈物菓子類まで綠色に飾る。聖ブリヂットは、五世紀聖パトリック以後第一の信徒で、ダブハチの首長の女奴隷の娘である。そ

らした下賤の出に拘らず彼女は才能と智慧と德とで女の身を以つて聖徒に祭られる程の信仰の一生を送つた。南歐大陸の人々が「マリア」を信仰する如くこの聖ブリヂットは「ゲール族のマリア」といはれてゐる位で、愛蘭土人は中世の騎士道的信仰でこの女聖徒を尊敬してゐる。そして又、聖パトリックが愛蘭土の男たちの守護神なれば聖ブリヂットは愛蘭土の女たちの守護神である。

愛蘭土人の月に對する感念は頗る異教的で神祕臭いものがある。この作中ムーアの月の暦もその例であるが、月の盈虧が人間の頭、精神狀態を變にするなどいふ迷信もある。それは「銅像」の中にも出て來、「滿月」に行くと、それがライトモーチイブになつてゐる。

グレゴリイ夫人はこれには次の奧書を添へてゐる。

* * * * * *

私が最初に書いた戲曲は「二十五」といふのです。この戲曲は私達の劇團の手でダブリン及びロンドンで上演されました。其後米國で採用されて上演された事があります。その筋は、「キルベカンチイのある若者が年來の戀人の追放されるのを救ふ話です。でその男は、戀人の亭主と「二十五」といふトランプのゲームをやつて、わざと五十磅負けてやるといふ話です。」

この戲曲はどちらかといふと構造の感傷的な弱々しいものでした。そして其後しばらく私の作品の場合いつも通有的缺點である所のもので一杯でした。

で私はその幽靈を、この脚本「ジャックダウ」の中へ封じこめました。其後もう前の作に對するやうに感傷的だといふ批評も蒙らなくなりました。

* * * * * *

一九〇七年二月二十三日、この作の初演がアベイ座に行はれた時の役割は、

ジェセフ・ネスタア	F. J. FAY
ミカエル・クウニイ	W. G. FAY
ミセス ブロデリック	SARA ALLGOOD
トミイ・ナアリイ	ARTHUR SINCLAIR
シビイ・フアヒイ	BRIGIT O'DEMPSEY
チモシイ・ワード	J. M. KERRIGAN

救民院病室

人物

マイケ・マキナアニイ　老いたる貧民
ミカエル・ミスケル　同
ミセス・ドナホウ　田舎の老婆

ミカエル・ミスケル　あーあ、あんちふ辛れえこんだか。マイケや。今日この、サン・コルマン樣のお祭でこゝの奴らア殘らずお彌撒さまへお參りしてるちうに、われとうらと二人つきりかうして寢てゐにアなんねえたあ。

マイケ・マキナアニイ　なにを？　ミカエル。われあんだな、背中ア顫はせながら向脛を眞赤にして、圍爐裡ばたのめえで、這えつくばつてゐてえちうだな。われエ勝手にやるがえゝだ。われアその位えの事出來ん事アあるめえ。だがな、うらア切ちねえだぞ。うらが腹ん中ア錐がへえつてゐて揉みこくるやうに痛えだわ。

ミカエル・ミスケル　われが腹ん中、痛えか痛くねえだか、誰が目にも見えちやアゐねえだが、うらなアわれたア違つてるだぞ。レウマチでうらが足アふくれ返つてゐるし、うらが腕アでつけえキヤベツ玉の軸を見るやうに、捻ぢくれけえつてゐるちふ事ア、誰が見ても一目で知れるだ。口先で切ちねえだとか痛えだとか吠えてるなアわけもねえこんだが、痛えとか切ちねえとかいふ事ア、口先で云つてるやうなもんたあ、からきし違ふだぞ。

マイケ・マキナアニイ　うらが體ア、立ち割つて開けて見せる事が出來たら、うらが胸ン中、あばら骨ん中ア、どの位え、せちねーエいてーエだか、われにも知れるこんづらになア。だがな、うらアな、われがやうに看護尼樣ゐなさる時アわめき立てたり、拜んだりやぐるつたりして見せて、うらが分の食ひ物から、牛乳まで自分の方がよけい取らうとしるやうな、いやらしい事をした事アねえだぞ。

ミカエル・ミスケル　あーあ、またわれアさうしてうらを、つゝついたり苛めたりし始めただな。あーあ、うらも昔ア樂に暮してゐたもんだア。うらも昔ア立派な暮しョして來ただア。その事アわれもよく知つてる事だア。うらもわれも二人とも、スケハナフで、樂に暮してゐたでねえか。

マイケ・マキナアニイ　さうよ。二人ともスケハナフで暮してゐたちふ事アうそぢあねえ。だがな、うらたちがあしこで、丈夫でゐた時分、われが樂なくらしイしてゐたちふ事ア、それア當り前の事で、あんにも不思議な事アねえだ。われアいつもうらが罠へ陷ちた鬼を、取つて行つたもんでねえか。

ミカエル・ミスケル　あに？　そんだらうらがチュウアラフで鰻をさして來た時、その鰻をかつさらつて行つたなアわれでねえだか。それうわれアうゐれがもんのやうな面アして、尼寺のお比丘さアたちに賣つたでねえか。あんだと云つてわれア大やましの大ぺてん師で、三千世界のものア塵芥までうゐがもんにつかみこんだでねえか。

マイケ　あんだと。それでうぬれ自身はつかみこみでねえちうだか。あんまりつかみこみすぎてわれが田畑も何もかも腐つてしまふ程かき込んだくせに！

ミカエル　うらが田畑なくしたなアそれアな、うらが世の中ちうものを渡つて行くうちにさういふ運のわりい曲り角にぶつかつたといふものだぞ。うらあなあマイケ、うぬがやうな浮浪漢の博突打ちアなかつたぞや。お袋さアの目えぬすんで身上ふぐひつくしたやうな！

マイケ　あに身上ふぐつただと？　もしうらが身上ふぐつただとすると、さうした奴アわれが外にどこにあるだ？　うぬれといふわりい奴と隣り合せになるやうな災難にせえ逢はにア、うらア今頃ア、うらが可愛いゝ小僧共の顔を見て、自分のうちにねられるはずだつたぞ。一體うらが身上のなくなつたなアどんな風だつたちうだ？　垣根を圍るに錢が要る、壁を塗るに錢が要る、入口を開けさアなんねえ、戸も拵へさアなんねえ、そんでなけア、うぬが碌に餌やんねえので、うぬが家の鷄や家鴨めが、うらが家ん中へ迷ひ込んで來たり、われが持つてゐた四ツ足の畜生どもア一つ殘らず、うらが作物や大事の秣の中へ入りこんで來てみんな食ひ荒してしまふだあ！

ミカエル　だまつてゐれアおのれあにヨ云ひ出すだか！　それでもうらア辛抱して、われウを喜ばすやうに、われに親切にするやうに、どうかしてわれが口からほざき出す惡口をうらが耳に聞くまいと骨折つとるだぞ。それう、われが作物ん中へふんごんだだと？　可愛さうにうらが四ツ足どもあんでわれの家の垣根なぞ越したがるはずがあるだ、ぉーアこの野郎！　たうもろこしの畑ちつとべいある他に、何があるちうだ！

マイケ　何を！　そんだらわれ、うらが畠へわれが豚つ子が二匹入りこんで來てうらがを荒しさばいた事を何ちうだ。あの大木サぶつ倒れた年の事だ、豚つ子奴うらが壁を傷だらけにしてしまやがつただぞ。

ミカエル　きやつは、三百六十五日吹き晒しの壁だもの、傷だらけになつてゐるに違げえねえだぞ。あの大木をぶつ倒した雷様だもの、壁ぐれえに穴アあけるなアなんでもねえこんだ。それに西のかたから吹いて來る大風もあるでねえだか。

マイケ　あに西のかたの大風だと。そんだらその西のかたの大風に違げえねえ、うらが青々したキャベツ玉引つこぬいて行つたやつも。それからうらが改良種のジャガタラ薯をほぢくり返したもそれに違えねえ。ううんにやまだあるぞ、うらが藪のスングリをくつてしまつたやつも。

ミカエル　あによわれいひ出すだア！　あの豚はうらがつひぞ飼つた事もねえ程おとなしいやつだつたで、ちつとでも惡りい事なぞした事アねえだ。それにいつもちやんとつないであつたでねえか。仔豚ア、あん中にものゝ十分とゐたわけでねえぞ。あの頃アまだスングリあ家の豚と

も食ひ得ねえ時分だつたでねえか。あのとげ〳〵のスングリ蔓、われ氣にかけるまではねえこんだわい。

マイケ　あんであの畜生おとなしいどこか。われがあの時飼つてゐたなア、あんでも食つてしまふ餓鬼のやうな豚ばつかりだつただ。まるで狐のやうに氣の荒れえ畜生で、うらが家鴨の雛ッ子みな殺したでねえだか！　四ツ足ア一度血の味覺えてもうへえ、われが手に負へなくなつちまつただ。

ミカエル　そんだらわれ、エセルケリイの市の日、うらがわれの家の前を通つた時の事アどうしるだ。氣違げえ犬ア二匹も飛びかゝつて來て、うらが體サかじりちぎつただぞ。その時の傷とぶつ魂げたなア今によくならねえだぞ。あれからうらこんなぶら〳〵になつてしまつただぞ！

マイケ　われあんだな、あの時見せ物小屋から逃げ出したけだものゝした事をうらが犬だと考へてゐるだな。われがやうな赤眼だつただぞ、そのけだものア。われがやうにいやらしい面だつたぞ。そしてわれがその捻ち曲つた二本足、あのけだものに似てるだア。そんでわれ泥豚ア傷をつけた時にようとめなんだづら。どんな犬だとて腹ん中に魂もつてゐねえはずアねえだから。われが道を歩りいてゐる所を見ちやぶつたまげて吠えつきもしたづらよ。

ミカエル　その時にアうらちやんと訴へて出たでねえか。うぬれがやうな奴ア死ぬまでふん縛つて置きさうなもんだに、ふんとにでつけえ不思議な事だ。イギリスちふ國の法律アとんと俺が腑にア落ちねえだ。

マイケ　あにほざくだ。今思ふとうら、われが卵をそつくりうらが納屋から盜んでうせた時、あんでお上へ訴へて出なかつただか、思ひ出すとうら業が煮え返えるやうだ。

ミカエル　あに！　うらが卵を盜んだだと！　この野郎も一度吠えてみねえだか！　（腕を振りあげる）天にござらつしやる神様、ペテロ様、上人様！　アルドラハンの時うぬれは神様がたにも手をかける野郎だな。山羊の化け物みたやうなわれの傍に死ぬまでも一緒にゐにアなんねえたアうらア一體なんちふ情けねえこんだか。體中嘘ばつかりをつめ込んだ袋のやうな野郎に、うらア縛りつけられてゐるだアア。くくりつけられてゐるだかア！

マイケ　われにとつて情けねえこんだら、うらに取つちアもつと堪えられねえこんだぞ、ミカエル・ミスケル。春夏秋冬ぶつ通して、ミカエルのミスケルが、うらが隣でくつついてゐにアなんねえちふ事ア！　うら達のおんなじ人間の、おんなじ人種の中でな、われが家の名のミスケルちふ名より立派な家の名アうら生れてから聞いた事アねえだ。

ミカエル　あにうらが家の名だと。われが耳せえ聾でねえだらな、われでも聞いてゐるづらに

な。リシーン・クランナフの方へ行つてみるがえゝだ。それから海の方へ出て、またニウタウン・リンチの方。そしてデウラスから二三里が中へ行つてみるがいゝだ。ちやーんとミスケルちふ家の名ア云やア人ア知つてるだ。人々にやダブリンの都の衆の中でも同じこんだ。

マイケ　あに？　クランナフ、デウラスから二三里が中たア一體全體あんちうこんだ。うらが先祖代々はみんな七ツ寺に葬つてあるだぞ。ミスケルちふ家の者であすこに葬れてゐる人が何人ある。さあどうだ。返答してみるがえゝだ！

ミカエル　あにそんだらうらたつた一つわれに云つておく事があるだ。死んだ親父の、あーあ今頃ア結構なとこに居りますやうに！　うらが親父の葬れえの時撒く小麥で、集つて來た本車脇車の程の數、われが家の門からは一度も出た事なかつぺ。それからうらがお袋のかたア、タレアガルエイのカッフの血筋であるだぞ。そしてお袋はそのちやきちやきであるだ！

マイケ　あに、そんでわれその女怪（バンシー）がどうしたちうだ。むかし人間の智慧取らうとしたちうなその化物であつたちうだか。それともその化物、ミスケルの家でもわめいてゐたちうだか。それともクレアガルエイのカッフが名を呼んだちうだか。われあにこくだか。その血筋は六ツきしねえだぞ。ハイネス、ホックス、ファヘイ、ドーリイ、マキナアニイの六ツきしねえだぞ。それ考へるのは大方マキナアニイの血筋のこんだぞ。王樣の子のやうに化物泣いてるちうのは。

ミカエル　あに、あに、あに云ふだア。われたんだ今、バンシイの泣聲を聞いておつちんでしまやアがれ。われがその嘘百萬だらと出鱈目と、それからわれがその高慢話と依怙地とが、出なくなるやうに、バンシイがここでいま、われが名を呼んでくれるとえゝだに！　日輪樣ア照らして下さる世の中に住んでゐる人間の中ぢア、われがやうなものにかなふ奴ア一人もゐねえだから。われアふんとうに、神樣ござらねえ闇ん中の化物と違げえのねえ野郎だ。

マイケ　われうらが死ぬのを待つてゐるだか。うらが死ぬもえゝ、死ぬ時の來るもえゝ、うらのやうな奴と離れる事が出來ろ思ふとそれも却つてえゝこつた。えゝか、うら斷言しるだ。聖書の上へ接吻してもえゝだ。もし何でもうらが思ふ事一つかなへてやるといはれたら、そしてそれイうらが勝手にする事が出來たら、うらがしてえと思ふ事ア、うらたちも土ン中へ埋けられる時にア、われが石塔とうらが石塔との間にア、九ツの溝を掘つて野原ア距ててえだ。そして九ツの峰の山を距てゝえだ。大海の九ツの波を距てゝえだ。

ミカエル　あにを！　九ツの溝だと？　九ツどころか、世界中の溝といふ溝アみんなお裁きの日になるまでわしら二人の間を距てゝくれるがえゝだ。もしどうしても愛蘭土を分ける事が出來ねえだら、うらあの七ツ寺でもわれが側に埋けられるのはいやなこつたア！

マイケル　まだ〳〵それだけぢアねえ。うら今百圓うらが手の中へ降つて來るよりもうらたち

がお裁きを待つてるまで、うらの幻やうらの幽靈が、われの幻やわれの幽靈と一緒になつてうろつきまはらねえでもえゝちふ事を知らしてもらふ方がうれしいだぞ。それよりもうらまだ、浮罪界（ピュルガトリイ）に殘つてゐる方がえゝだ！　さあどうだ。われまだ何か云へるだか。

ミカエル　いへねえでか。時間せえあれアうらいくらでもいふ事アあるだぞ。

マイケ　（起き上る）うらもう起きて行つてわれのやうな奴、ぐんともいへねえ目に遭はしてくれるだ。

ミカエル　あにを！　貴樣、この喧かましい乞食野郎めが。

マイケ　（拳固を振る）見やがれ！

ミカエル　（拳固を振ふ）うぬれこそ見やアがれ！

ミセス・ドナホウ包をもつて入つて來る。綠飾ある帽子をかぶり、肩掛をかけた田舍の婆さん。一寸間ぢつと立つてゐる。それで二人の老人は枕に歸つて靜かになる。

ミセス・ドナホウ　あの衆ら、梯子段上つてかう行けと云つただ。わしイ今迄に一度もここへは來た事がねえだから、これでえゝだかどうだかわからねえでがんす。あんたたア二人の中に、どつちかマイケ・マキナアニイではありましねえだかのし。

マイケ　わしの名前を呼んだなア、一體誰でがんすかね。

ミセス・ドナホウ　あれはア、私でねえか、お前の妹のオノール・マキナアニイだよ、今ぢア、オノール・ドナホウになつてゐるだが。

マイケ　お、さうだつただか。あのお前が、あ、相違ねえ。うら、お前が傍へおつ進んで來るまでアへえ、わからなかつただよ。あーあ、お前とうとうやつて來て呉れただか、うらへえこへ來てもう五年にも、もつとにもなるだ。お前はもう、ドナホウの血筋の衆になつてしまつて、うらが事アもう何でもねえと思つてるに相違ねえと考へてゐただに。それぢア、あの衆がうらア生きてるだか死んでるだか訊ねによこして下さるたア思ひがけねえ事だつたよ。

ミセス・ドナホウ　あーあ、その事アもうへえ、わしイみんなあの衆のお送りは濟ましてしまつただよ。おらがのが一番のおしめえでの、（そつと涙を拭ふ）立派な、おだやかな臨終で、きつとえゝ所へ行かつしやれただわね。あーあ、これだけは皆一度は行かにアなんねえだ。そしてえゝおとむらひもしてもらつただよ。お前も喜んでくれるづらが、和尚さんに御彌撒さままで讀んでもらつただからね。おーお、氣の毒なうらがジョン・ドナホウ。ええ立派な人だつただから、お前ももしあの人と逢つたならきつと好きになつたに違ひねえのだつたよ。煙草をのむ事にそれはそれは嚴しい人だつただよ。盃にアへえ、指のさきも觸れた事のねえ人だつただよ。

マイケ　それでお前は今でもキウランローに住んでゐるだかね。

ミセス・ドナホウ　さうだわね、うらがのが何もかもすつかりわしに殘して行つてくれただよ。それでもが、一軒の家の柱がなくなるちふ事ア、なかなか一通りでねえ、賴りねえこんでねえ。

マイケ　それで、あとあとお前の樂にやつて行かれるだけア置いて行つてくれただかね。

ミセス・ドナホウ　あゝそれアお前、それアお前、家も大きい結構な家だし、廣い草原もあるだし、……それが石の間から生えてる草で、まことにええ草だがね。それに濱の方ちア、年がら年中、いつでも何か取れるだからねえ。流場にええ細螺も澤山あるし、それから海扇もあるだよ。海ちふものはけがらはしいものもたんとあるだけれども、海扇ちふものは、神樣の前へお供へ申してええちふ位え立派なものでねえかた！

マイケ　それがみんなお前のものだわな！　そして一體、家ン中にアお前だけで外に一人の男もゐねえだかねえ？

ミセス・ドナホウ　その事だわね、わしが考へてるのも。お前さんが來てくれりア、わしも相手が出來るだよ。何もわしが親身の兄さんを、こんな所においとくちうわけはねえだからねえ。

マイケ　俺は行くともな。こんなとこからは一寸も早く出してくれ。さうすれアへえ世界中へマキナアニイちふ家の名譽となるだ！

ミセス・ドナホウ　さうだかねえ。わしイお前がかうして寢てばかりゐるちふ事ア知らなかつただ。

マイケ　なアにな、全く寢てばかりゐるちふわけではねえだわな、たゞ時々腹ん中に疝痛の起る時があるだけだわな。わしの腹ア、お月樣の變り具合でいつも直ぐによくなりますだよ。それにわしイお前の傍で暮したいだよ。あトあ、うら有難くてならねえだよ、オノール・ドナホフ、かういふ時お前がわしを助けてくれるちふ事ア！

ミセス・ドナホフ　それアね、お前にも火をくべてもらつたり、鷄の餌に雜炊を煮てもらつたり、また門口で車から驢馬ア解いてもらふとか山羊から乳を絞つてもらふとか、それからきつと、時節になれあキヤベツをこいで貰ふ事も出來るしね。それア本當に、諺にもあるやうに、「年寄が死にア畑も死ぬ」ちゝ位のもんだからねえ。

マイケ　そんな事アへえ、間違なくわしやれるだとも。それに種薯だとてわし切つてあげるだとも。男手がねえちふなら全くへえ丁度いゝ幸だよ。そして、お前のそこにもつて來たなア、それアあの、きりものでねえだかな？

ミセス・ドナホウ　さうだわな、お前もキウランロウへ來てわしらア近所の衆の中へ入るのに、なるべく立派ななりになるやうにもつて來ただよ。

マイケ　まあ何ちふうれしい事だか。お前はふんとにわしを立派につれだしてくれただよ！

あーあ、早くここを出て行かにアなんねえー（寢床の上に起きあがり、その服をひろげていそいで着てみる）あーあ、これアへえすばらしいもんだ、上等の粗毛羅紗でねえか。……そしてこの帽子はこの頃の流行もんでねえか。（帽子をかぶる）

ミカエル　（吃驚して）それぢアわれアここを出て行くだか？　マイケや、マクナアニイー

マイケ　おめえ聞いちアねなかつただか、俺アもう行くだわな、俺アもうキウランロウへ行くだわな。俺ア行くところはどんなええもんでもねえちふもののねえ所だわな。

ミカエル　そんでそんなららアへえ、われが行つてしまふのに、一人で殘つてゐるちうだか？

マイケ　（歌ひあげるやうに云ふ）　どんなええもんでもあるだー　山羊もゐるだア仔山羊もゐるだア。羊もゐれア仔羊もゐる。牝牛ア走り廻つてゐて、そいつらからア乳が出る。畑を作つて種を播く。クリスマスにア花が咲く。鶴公鳥は一年中、夜になれア啼いてゐる。

ええ？　われいま何か云つただか？……

生垣にア麥が伸び上り、家賃の間代のといふ話しアねえ。川にア鮭がおめえ、笹の葉のやうにたんとゐる。使つても採つても減るもなアねえ。遊んだり樂しんだり歌つたり踊つたり。年なんか消えてしまつて、おれアも一度若くなる。鶴鳥や七面鳥は何百人前でもあるし、酒は世界中の人が飲む程ある。

ミカエル　あーあマイケや、それぢアわれアそれウ本當で云つてるだか。われア本當にうらがとこから行つてしまふだか。俺を一人この荒れえ衆の中に殘して置いて、町の衆の中に殘しておいて、この組合の、いろいろよその村の衆ばつかり集つてゐる中にうらを一人殘しておいて、行つてしまふちうだか。うらア誰一人何とも思つてくれねえ衆の中に、相手にもしてくれぬ衆の中に殘るだか！

マイケ　うるせえなあ、俺ア今から行くんでねえか。……うらの煙管は？（ミカエル、パイプを取つてマイケの手に渡す）それぢあミカエル、おおッー　われにアこれから、煙草をなア、オノール・ドナホフさんが時々煙草を少しづゝ、送つて下さるやうに頼んでやるからなア！　近所の衆が、十一月の市に出て來る時と、それから五月の市の時にア。

ミカエル　あーあ、煙草がへえ、なんになるちうだ。うらが頼むも、欲しがるも、煙草なんぞでねえ、たゞ話がしてえといふ事だわな。これからは、俺の心のどん底に、ひよつくりとどんな事が湧いて來たとても、それウ話す人ア誰もなくなつてしまふでねえか。ここに一人つきり寢かされたまんまで、ちよつぴり話をする人も、ねなくなるたア、情けねえこんだ、うらいやだいやだ！

マイケ　う、う、……ねえオノール。……俺がよく聞いたこんだが、「二ツは一ツの二倍がけ、」

ちふ事があるだ……さうでねえか、お前がもし穴だらけのズボンの古を持つてゐたとしたならば……スカートだとて同じ事だ……そんな古ズボンだとて、もう一つまるきしそれと同じ位えのぼろズボンと二ツせへ重ねてはけば、二ツが一緒になつてとにかくちやんとして見劣りのしねえ、一ツのズボンになるでねえか。

ミセス・ドナホウ　あれはア、お前なにをいつてるだ。このお前のとこへもつて來たズボンにア穴なぞは一ツでも開いちアゐねえだよ。そして、わしがうらが人のにと思つて拵へた時のまんまで一寸も痛んぢやゐねえだによ。

マイケ　俺アかう思ふだよ、ねえオノール。……此頃は俺も時々切ちねえ時がある……運ばうとする荷が、うらが脇腹へめりこむやうに切ちねえ事があるだ。……それにこの男もときどき、足がむくれ上つて、えれえ時がある。……けれども二人が一緒になつて、二人ともが一緒に悪りいちふやうな事アまアあるもんでねえ。わしら二人を一緒に連れて行つて下せえ、ねえオノール。どうぞ後生だ。頼むによつて、わしらも二人一緒になれア、きつと一人前の丈夫な男になるだから！

ミセス・ドナホウ　えゝッー　とんでもねえ。お前何を云ひ出すだか。ひよつくり逢つた他人をわしに連れて行けなぞとたのむたア。

ミカエル　いえいえ、おかっさま、わし他人どころか、わし古りい昔からのお隣のもんだよ。うらかういふ事がたのめるちふ事がわかつてゐれア、自分でとつくにお願したに相違ねえ。わし、ミカエル・ミスケルでござりますだ、スケハナフで、お前様がたのお隣の家に暮してゐた！

ミセス・ドナホウ　ええッー　まあー　ミカエル・ミスケルさんだとね？　あーあ、それぢやよけイいけましねえ。お前さんとマイケとの二人がよると、一分でも喧嘩をしずにゐられねえ二人でなかつたか。喧嘩をするか我鳴り合ふかとつかかる！　まるで犬ころのやうに兩方とも、いれ上つて蹴合つたり、野良犬のやうにいがみ上つたりしてゐたでねえか！

マイケ　あれアお前、あしこにゐた時分のいがみ合ひは、あれアみんな俺の方でしたこんだ。それあミカエルもすぐにいきれ立つけれど、またすぐ風ェ消し飛ぶやうになほつてしまふだわな。ねえ、どうかあいつも俺と一緒に連れて行つてやつて下せえ。な、オノール。さうすれア神様の功德にもなるだ。

ミセス・ドナホウ　それぢや、わしミカエルさん連れて行きますめえ、そしてお前もへえ連れて行くのはやめにしべえ、どうしてもへえお前が解らねえのなら。……そんならお前は、もうどうしても來る氣はねえだな？

マイケ　うーン、それあなア、お前……さうでねえか、今日はあすこ、あすはここと、方々の

土地をうろつき歩るいて一生くらし、七十になつてもまだ迷つて歩くといふ事ア、人間ちうものにア、あんまり淺間しい事でねえか。

ミセス・ドナホウ　ふ、そんならお前のええやうにしるがええ。わしアたゞ、その年になつてお前が、難儀やむごい目に遭つてるのを助けてえと思ふからいふだけの事だけれど。

マイケ　そんならわしらを二人一緒に連れて行つて下され。それでねえちふなら、わしもうこを出て行くなア、へえいやだわな。

ミセス・ドナホウ　ふん、そんなら仕方がねえ。こんな結構なきりものわしイもらつて行かにアなんねえ。（着物を掻き集めながら）それぢアわし、又勝手に誰かさがすまでだ！

マイケ　おーお、さうしるがええだとも、お前そんなに依怙地でむげちねえのなら、勝手にどんな野郎でも捜すがええだ！　がツ！　婆！　勝手にしるがええ、うらへえ、死んでもわれなどと一緒に行くもんでねえ！

ミセス・ドナホフ　ちえツ！　馬鹿氣たこんだつた。お前なんぞ相手にしてゐて、大きに暇アつぶしてしまつただ。もう路イ出れア日イ暮れてしまふ。……それぢアいつまででも二人で一緒にここにゐるがええだ。わしはもう二度たア來ねえだよ。神様ア猶太人をおすてなされたやうに、うらもお前にアもうかまはねえだぞ。

老婆去る。

二人の老人寂たまゝしばらく無言。やゝありて。

ミカエル　マイケや。うらこんな氣イしるだがなア、どうもあの婆様の家イさう大してでつかくはねえだによ。

マイケ　あに、でつかくねえ？

ミカエル　はア、あしこらの濱邊にアみんな汚ねえ家ばつかりあつたでねえか。

マイケ　あんだと、われどうして大きい家などを知つとる筈があるだ。われがもつにアへえどんな家だとて大きすぎて困る位えだ。われあんにも入れておくものもねえくせに。

ミカエル　うらが家ん中へ何を入れておくだとて、立派なええもんばつかりで、をかしなもなア一つもねえだぞ！　あの婆様の細螺を見るがええだ。細螺などはへえ、腹へりの食ひもんでねえか！

マイケ　ええ頃にして默つて舌のさき愼しまねえと、われえらい目に遭はせてやるぞ。うら我慢出來るうちア生みのおやぢやお袋のつもりで出來るだけは我慢してやるだが、本當に腹ア立つとへえ、荒縄の端をぶつくれるだぞ。

ミカエル　俺アへえ何も、細螺食はすとけえなど連れて行つてくれたア一寸も賴んだもんでは

ねえ。

マイケ　（起き上って）うぬれ、われア俺を！　喧嘩さしてえだか。

ミカエル　（つぶやく）ううんにや、たゞ神様アゐなさるだ！

マイケ　よしそんなら何とでもええから呪つてみるがええ。さうしたらわれ罰が當つて死んでしまふだぞ。

ミカエル　うら何もわれが氣に障るやうな事一言もいやアしねえわな。うら細螺など食はされちやへえ、又腹ん中、針がぶつくすがるべえと思つていやだと云つただけの事でねえか。

マイケ　何だと、一體全體世界中の誰がわれにそんなものを食はすと云つたちうだか。われア滿潮の中アはねまはる雜魚よりもいけずるい野郎だ。

ミカエル　あに、いけずるいだと！　野郎ぶつ死んでしまへ、ぶつ死んで地獄のどん底へ陷ち込んでしまやアがれ。

マイケ　手前の體から骨の髓まで蛆蟲にしやぶられやアがれ。（枕をひつつかむ）

ミカエル　うぬれ、俺の分まで地獄へうせアがれ？　このどろつきの大山師め。

マイケ　何を畜生！　うぬれその頭の針金一本なしにむしつてくれうか。（枕を叩きつける）

ミカエル　（同じく枕をなげつける）野郎、この惡魔め！　この亂ちき野郎め！　うぬれこの弱い者いぢめめ！

マイケ　（更にも一つの枕を投げつけ、更に湯呑をひつつかむ）うぬ、これでも食らへ、この丸太ン棒め、泥棒野郎め！

二人は手あたり次第何でもかでもぶつけ合ふ。湯呑、聖書、煙管、其他。

――幕――

解題及び原作者奥書

「グレゴリイ夫人の最上の作は」といふ質問に對しては、勿論その人の好みにより種々な答があらうけれど、今の所一般の定評となつてゐるのは一九〇八年初演の「救民院病室」The Workhouse Ward である。

奥書の中に夫人自身が述べてゐる如く、夫人がこの着想を得て後、ゲール語復興運動の先鋒として有名なドーグラス・ハイド博士と合作して「貧民院」The Poor house なる作を得た。そしてこの脚本は一九〇七年アベイ座に初演された。ずつと以前、歌舞伎といふ雜誌に小山内氏が「貧民院」として譯してゐられたのはこれではないかと思ふ。英文ではアベイ座叢書「噂のひろまり其他」の中に納められてゐる。

しかし後夫人はこれを改作し、前には科白は主としてハイド博士の手になつたものを、今度は一切自分一人で作り、全く面目を新たにして發表されたのがこの「救民院病室」である。

愛鬪士には實に樣々の化け物がゐる。そしてそれはいづれも極めて傳說的で異教的である。妖精の觀念なども極めて强い、イエーツの「心願の國」、マルチンの「メーブ」「まどはしの海」等を始め其他これに取材したものは無數にある。不思議の白鳥、魔の霧、龍、眞黑な魔王、巨人、豫言鳥、俄かに現はれる手、その泣き聲を聞くと忽ち人間を恐死せしめるといふ怪叫鷹等、其後まだ頗る多數な怪異が信じられてゐる。ここでパンシーといふのは卽ちこの怪叫鷹の事である。

それから、救民院は已に「ジャックダウ」中にも出て來るし、「マクドナウの女房」や、「銅像」の中にも出て來る。これは愛鬪士の共濟組合で建ててゐる救民院だ。「マクドナウの女房」の中「組合の衆」といふ言葉が屢々繰返されるが、これも卽ち、農村共濟組合の意味だ。

グレゴリイ夫人はこれに次のやうな奥書を添へてゐる。

* * * * * *

私はかつて救民院にゐる一人の老人について こんな話を聞きました。たしかその老人はかみさんと何か激しい喧嘩をして、そのかみさんからナイフをぶつけられたのがもとで、その後はもうずつと働く事が出來ないのだといふ事でした。

ところが其後、そのかみさんといふのも年が寄つて病氣になり、到頭かみさんも亦その救民院に連れこまれたといふ事を聞いたのです。私はそれを聞いた時、その二人がさうして救民院で久し振に顏を合せた時は一體どんなもんだつたらう、二人はまだ昔のとほり喧嘩をつゞけて行つたらうか、それとも外の他人ばかりの中にゐるよりも、お互の弱點をお互に一番よく知り合つてゐる二人が、一緒になれたのを喜んだらうか、どつちだらうと考へずにはゐられませんでした。

私がこの劇の筋書を書くと、ドーグラス・ハイド博士がこれを筋に取つて自分で科白を與へて脚本にされました。といふのは當時私たちは、愛蘭土語の劇運動といふものは我々の劇場のためにもなると思つたからです。其後私は我々の劇場のため、役者を三人つかふだけの芝居に作り直してみようと思ひました。かそれを考へてゐる中に、科白も全然新しく改めねばならんといふ事を感じて來ました。で原作ではたしかに救民院の病舍の人々の中で話してゐるらしい二人の老人も、私の改作の方では取り除く事にしました。

私は時々思ひます。私の作中で我鳴り合ふこの二人の老人は、これは愛蘭土に於ける我々の象徴だ。——「二人で淋しがつてゐるよりは、二人で喧嘩がしてゐたい。」——といふ人たちだと思ひます。あの獰猛な爭闘好きな人種、Raiper 共が、「もうお前たちも平和なる大英帝國の支配の中なる一州となつたのだから、今後は一切、殺伐な事をしてはならない」と云ひ渡されたら、其後彼等は人殺の代りに、阿片を吸ひ始め、それにふけるやうになつてしまつたさうです。つまりそれと同じわけです。でもまあ幸に、コンノートにはまだまさか、罌粟畑は出來始めやアしませんがね。

* * * * * *

一九〇八年、四月二十日、アベイ座初演の役割は、

マイケ・マキナアニイ	ARTHUR SINCLAIR
ミカエル・ミスケル	FRED O'DONOVAN
ミセス・ドナホウ	MARIE O'NEILL

マクドナウの女房

人物

マクドナウ　笛ふき
第一の老婆
第二の老婆

共他、毛剪人、近所のもの等大ぜい。

舞臺　ガルウェイのある極めて貧しき家の内部。外および奥に通ずるドア。戸の外よりは、市場の騒ぎが聞える。第一の老婆は爐邊にすわり、第二の老婆は入口の戸口の傍に立つてゐる。

第一の老婆　まだマクドナウのやつて來る音は聞えねえかのし。

第二の老婆　聞えねえのし。さつきから二三人さがしてゞさつた衆があるだけれど。今に市が終へたら酒屋へ吹きに來てくれちうてな。

第一の老婆　ふんとうにどうしたこんだか。いまだに歸つて來ねえたア、それに今日このガルウェイにア市が立つちうだに。

第二の老婆　あの人、もしも今日晩までにけえつて來ねえだら、死んだ御新造、いけるちうにも、誰一人見送りしてくれる人もねえだし、土饅頭の土をなほしてくれる人せえ一人もねえやうな事になつてしまふでねえかのし。

第一の老婆　御新造、もう此世のお暇乞ひだちうのに、誰ぞこの近所の衆の中にだとてその位えの事してくれる人アありさうなもんでねえか。

第二の老婆　それが一人もねえだわな。あんたア云つたとほり、「わしいパット・アルボローに頼んで見ただけれど、「ガルウェイの町にア立派な女の人多すぎる程ゐるだア、その衆のお葬えならこつちから頼んだとて喜んでお伴せにアなんねえだが、何處の馬の骨ともしれねえ他國の渡りもんで、この町へ來たとて一寸も何のたしにもなんねえやうなもんの事を、一々氣にかけてゐられるもんでねえ」と云つてるだよ。

第二の老婆　そんだらあんたア、わしが話しといたやうに、クロスフオウド婆さんのとけえ行つて、どうか息子さん二三人よこしておむれえ申してえと頼んでみただかね。

第一の老婆　アゝあの鬼婆め！　うらもへえ、ええ馬鹿もんだつたよ。あんな鬼婆アにお前云つたとほりを云つて頼んでみただが、益にもたゝねえ事にたゞ口に風を引かしただけだつただわな。わしアあんた話したとほりを云つて頼んだだわな、いめえめしい。「マクドナウの御新造、俄かにへえ頓死をしておつちにましただが、亭主は遠くへ行つてゐて居りましねえだ、それで御新造の棺、家から吊り出すちうに、手エ借して下さるやうな衆は一人もありましねえだ。」

第二の老婆　それう聞いて婆ア何と云つただね。

第一の老婆　鬼婆アめ、それう聞くと割れるやうな聲をほき出して笑やアがつただよ。さうして云ふにア、「ついでに惡魔と一緒にくたばれアよかつただに、何せこれからあの化け物、町を歩かなくなれア町中がせえせえしてええこんだ。あの阿魔今頃、どこの山の天頂を見下してゐやうとどうしてゐやうと、あんでうらがあんな奴に關係があるもんだ」と、さう吐かしアがつた

だよ。

第一の老婆　そんぢア御新造いけるちうに誰一人來てくれてもねえちうだのし。

第二の老婆　それアあんた、マクドナウだとてあんまりへえ氣イつよすぎるだよ。あんまりえばりすぎるだわな。あんな女ア女房に引張りこんで、あれどうせへえ本當の祝言などしてねえにきまつてゐるだよ。うんにヤ生れだとてどんな生れだか知れたこんでねえ。アニどつかのしくじり子かそんでなけア、ごろつき鑄掛の餓鬼位えのもんだか知れたこんでねえ。それうマクドナウも、自分の嬶の生れから名前まで人に話さねえでおくだもの、マクドナウもあんまりだわな。

第一の老婆　何にしてもあの御新造はへえ氣まぐれもんだわのし、うんにや、マクドナウが第一、氣まぐれもんだわな。どうかしるとへえ、手もつかねえ無頼漢（ならずもの）だかと思やア、又どうかしるとわしらアぶつ飛ばされるだかと思ふ程えばり込む事があるでねえかな。

第二の老婆　全くへえあの人ア遠慮ちう事一寸もしらねえで、自分の女房、世界中で一番の別嬪で一番の偉れえ女でもあるやうに、みんなアあの女の前へ頭アさげさせようと思つてるだものの。

第一の老婆　だがまア、今度といふ今度ア、マクドナウも、えつぽどぐつさり金ウ持つて歸り、

挽き歌衆や人夫を頼んで來ねえやうぢア、組合の衆にやつてもらふちうならへえ、あの衆はどうしてなかなか御新造の機嫌とつてやつちや呉れねえだよ。棺ぐんぐんかついで行つて、どけえでも好きなところへいけてしまはれるだわな。

第二の老婆　だが今度あの人歸つてくれアへえ、金は間違なしにぐつさりと握つてゐるだわな。

第一の老婆　そんな事をあんたアどうしてわかるだね。

第二の老婆　あの市の西の方で、誰か牧場もちのえゝお百姓に雇つて貰はうと思つて待つてる澤山の毛剪衆が話してゐただよ。此間、クレグルスタにどえれえ毛剪があつて、そこであの衆らがマクドナウに逢つたちうだもの。

第一の老婆　それアへえ一體いつの事だかのし。

第二の老婆　先週の今日だよ。

第一の老婆　そんぢアもうへえこの市の前にちやんとガルウェイに歸つてるはずでねえかな。

第二の老婆　その毛剪イすんで、毛をみんな袋ん中へつめ終ると、そのあとが、どえれえ大振舞で、さかんな踊りもあつたちうこんだ。そんでマクドナウが夜通し笛を吹いてたちふ話だよ。毛剪衆の話ぢア、「出て行く時にやマクドナウ、貰つた金の重みで、目方ア二倍にもなつてただ」と云つてただわな。

第一の老婆　ふんとうにあの人ア笛にかけちアどえれえもんだのし、どんなとこだとてあの人行きア、ぐつさり金をもらはねえちうとかアねえでねえかな。

第二の老婆　あの人の親父ちふ人ア、またあの人よりも上手だつたちふ話だよ。あんでもへえ。そのわざア覺えて來たなア、違いよその國からだちう事だよ。

第一の老婆　ふんとだとも。あんでもへえらく遠い國からならつて來たちうこんだわな。その國でデンマーク人と懇意になつて、その衆ら、自分の商賣にしてる事を敎へてくれたちうこんだよ。その親父さん、笛を桷の上へのせると、笛アひとりで鳴り出して歌アうたつたちう事をわしイ聞いたわな。

第二の老婆　それアあんた、親父さんばかりぢやねえ、マクドナウが置いてもやつぱり鳴り出すちうこんだ。あーア、だがこれアわりイこんだ。ふんとによくねえこんだよ。マクドナウの吹く歌ア、あれアたゞの人間の歌ふ歌ぢやねえだわな。あれアどうしても、魔物の歌を吹いてるにきまつてゐるだ。

第一の老婆　ふんとうにあの人ア、何ちうえれえ名人だかのし。

第二の老婆　お前、あの人が「ここへ來い來い」を吹いてみるがええだ。いくらどんな人だとてあれにアみんな正體なしになつてかかつてしまふだよ。これアへえわしイ自身でやつたゞんだから本當の事だがねえ、わしイ一度、町ん中でマクドナウの笛に憑つてしまつてリールを踊り出した事があるだよ。丁度學校の子供ア立ちどまつてわしイ踊つてるのを見てはやしてるでねえか。わしイ氣がついてあんまり業が煮えるだもの、マクドナウにむしやぶりかかつてやつただよ。ちやんとした女アこんな事をしるちうなアなかなか恥なこんでねえかのし。

第一の老婆　それアへえ、今日だとて、もし市にゐてあの人たゞその氣になりせえすれア、フリーズを着た連中に道ばたで釘づけの靴のかかとのからからいふのを足拍子で一踊りさせる位え何でもねえこんだ。

第二の老婆　さうだとものし。さうすれアへえ生革の靴をはいたアラン島の衆らでも、忽ちええ氣持でフランスかドイツの王樣になつたやうな氣になつて、終ひにア頭ア雲ン中へ屆く程のけぞり返つて踊り出し、前にでもゐれア誰でも蹴とばされちまふ。お巡りさんいくら澁い面アしてゐたくてもげらげらと思ひ出してしまふだ。まるでへえ極樂の藪ん中で黒鳥囀つてるのを聞いてるやうな顏をして。

第一の老婆　ふんと、あの人アまアどうして來ねえだか。あの人あクレグルスタであんまり金を澤山貰つて持つてたで、途中で殺されてしまつたのぢアあるまいかのし。ひよつとしてマクドナウはどつかの塀の角へでも頭ア叩きつけられてぶつ倒れてゐる。マクドナウの大事な御新

造はここで組合の養育院の衆の手で埋けてもらふちうやうな事だつたら、これアへえ一番とんだをかしな事になるでねえかのし。

笛の音聞ゆ。

第二の老婆　あれー　あれー　笛の音だ、笛の音だ。マクドナウだよ。マクドナウに違ひねえだよ。

第一の老婆　（立ち上つて）わしあの人がここへ入つて來ちア、わしおつかねえわな。あれは無法者で無鐵砲で氣短かな人だでのし。目の前に御新造、死んでるのを見たら、あの人一體何いひ出すだか知れたこんでねえ。何方にしても御新造死んでしまつてるのをみるなア堪んねえ事に相違ないだからね。あの人の事だからひよつとしたらうらをぶつ食らはせてこの家から叩き出す位の事アしかねないわな。

第二の老婆　あの人飛びかかつて來さうだつたら、何もあんたアそれより先にむしやぶりかかつてやるがええだア。

マクドナウ上場。

マクドナウ　カスリーン！　カスリーンや！　鼻はどこへ行つたい？　カスリーンはどこへ行つたい？

第一の老婆　お前の御新造はわけがちがふ。他所の御新造はみんな女中のやうによく働いて、ちやんとお膳をつくつておくとか、日曜に着れるやうにちやんとシャツの洗濯をしておくとかいふもんだが、どうせお前の御新造はいつだつてさういふ衆たアわけが違つてゐるでねえか。

マクドナウ　あたりめえよ。俺らが鼻、あんで手前らのやうな梅干婆と一緒に家に引込んでゐるものか。年の若いきれいな女が、何で手前らのやうな惡たれ婆アの愚痴話を默つて聞いてゐるもんだ。外の市にア面白い遊びや見ものが山程あらア。

第一の老婆　ふん、そんなら市を探してみるがええわな。どうでお前の御新造はお前が留守になるといつでもあつちこつちとうろつき歩いてゐるのがおきまりといふのなら。

マクドナウ　（老婆の肩をゆすぶつて）おい。云はねえか。一體鼻は何處にゐるんだ。

第一の老婆　鼻より一體あんたクレグルスタを出て今日が日までどこにしけこんでゐたちうだ。

マクドナウ　鼻がさう云つてゐたのけえ——それともあいつア俺の歸るのを待ちあぐんで何處かへ出かけたとでもいふのけえ。

第一の老婆　御新造もうここにアゐねえだよ、マクドナウ。

マクドナウ　ばかな、嘘をいふねえ。嘘つき婆アめ。

第一の老婆　わし眞面目でいふ事を嘘だちうのなら、お前の勝手にしるがええだ。

マクドナウ　それぢア手前は、俺が女房が誰ぞ他に男でも作つて逃げて行つたとでも云ふつもりか。さあ云ふなら立派に云つてみろ。手前がその黄色い喉笛、扭ぢちぎつて呉れうから。

第一の老婆　まあお前、この手をわしから離してくれつちやア。さうしてあの奥の戸をあけて見な。わしが云つた事が嘘か本當か、さうすれアお前、わかるだから。

戸口まで行き立ち止る。

マクドナウ　ここにアゐねえ。ここにゐれアもうさつき、俺の笛の音を聞いて飛び出して來る筈だアな。

第一の老婆　御新造、笛の音ぢやもう起きちあ來ねえ、此世のもんぢやどんな音でも、もう御新造ア起きちア來ねえだよ。

マクドナウ　（震へながら）えゝえツ何？

第一の老婆　御新造アもう生きちやゐねえだ。御新造はもう死んでしまつただ。

マクドナウ　あの、嚊が死んだと！（老婆につかみかかる）

第一の老婆　昨日だよ。鐘なつてる時だつた。顏を南イ向けて、御新造は死んでしまつただア。御新造死んでしまつたちふ事、わしが氣がついたなア、丁度お晝の時だつた。今この市のあるちう時でお客様大ぜい泊りにござるちう時に、おらえらい損をしただ。

マクドナウ　いいや、それやうそだ。何で嚊が死ぬわけがねえ。

第一の老婆　まだ産み月ぢやなかつただが御新造子が産れてしまつただよ。あーあ、神様お救ひ下さりませ。そして御新造とうとうしまひに死んでしまつただわな。

マクドナウ　それぢア手前、あいつが産氣づいたとわかつた時、せめてもう獸目だと思つた時、何で俺をさがしに使をよこしてくれねえのだ。

第一の老婆　まだしばらくはもつだらうと思つただよ。何しろ急で、和尚様に來てもらふ暇もなけれや、又最後の息を引取る時にマリア様の御衣の布、握らせる暇もなかつただよ。

マクドナウ、奥の部屋の中に入つて行く。しばらくして、怖えたるが如く出て來る。そして壁に頭を凭せかけて祈禱し出す。

"An Athair tha in Naomh, dean troaire orainn! A Dia Righ an Domhain, dean trocaire orainn!
A Mhuire Mathair Dia, dean trocaire orainn!"

第二の老婆　（怖々彼に近寄る）マクドナウ。御新造の事あんまりくよくよしねえがええだよ。誰がどうしたとていつ迄でも死なずに生きてゐるちうわけにはいかねえだからのし。御新造も死んで却つて苦勞が絶えてええとところへ行つただかもしれねえだよ。

マクドナウ　なに！　この婆め、出て失せろ！　この死損ひめ！　貴様らアべらべらと縁起でもねえ事ばつかりしやべれアがるでこんな事おつぱじまつただ。手前ら俺が嚊死んで行くのをどうもしねえで見てゐたんだな。それを俺がうぬらをぶち殺さずに置いてやるのを有難てえと思やアがれ。

第二の老婆　自分が死にかけてみるがええだ、どうする事が出來るもんだか！　そんな無理な事、どんな人にだとて出來るわけのもんでないぢやねえか。

マクドナウ　うせろといふに。さつさとこの家を出て失せろといふに。それでねえと、うぬ身のためにならねえぞ。

第二の老婆　お前あに馬鹿いふだ。お前のいふ事、まるきし理窟にねえ馬鹿な事でねえだか。あの恐かねえ死神人をさらつてゆくのを止めろなどと、そんな無理な事アどんな人にだとて出來るわけのもんでねえわな。

マクドナウ　なんだと。俺がここにゐてみろ。なあにこの窓桁一寸も中へ死神を入れるどこぢあねえ。どんな面をしてゐようと、どれ程力が強からうと、俺が何で負けるものか。取つつかまへて捩ぢふせて、こつぱ微塵に叩きつけてやる。嚊の體に死神め、あの憎らしい爪を立てるまでにア、あの痩せ落ちた六枚肋骨、叩き折つてへし碎いてやる。捻いて粉にしてけし飛ばしてやる。

第一の老婆　そんなに我鳴つてどうなるちうだ。それよりもまあかうなれア、これから先のすべき事、やり始めるが一番ええだよ。

マクドナウ　うぬれこそ何で死神の前に立つてゐなかつただ。さうすれア死神はうぬれを身代りにかつさらつて行つたに違ひねえ。兩足ア棺桶に突込んで、灰も同然な手前らア、その位の事アするが當り前だ。

第一の老婆　まあ靜かにしねえだか。何事もみんな神様の思召しでねえか。本人の御新造でさへ騒ぎも暴れもしずに死んで行つただに。わしも出來るだけの事アしてやつてゐるでねえか。體アちやんとあふむけにして、まはりにア丁度いい位の白い布をかけてやり、兩の鬢まで叮嚀に撫でつけてやつてあるでねえか。

奥の方をむいて、

マクドナウ　あーあー　手前は死んでしまつたのか。カスリーン。あーあー　手前は小枝に咲いた花のやうだつた。

老婆、呻めくやうに泣く。

手前は死んでしまふ。そして俺だけ一人きりあとに残るたア、一體これア何ちうこつた。こ

んな思ひをしたものがまたと世の中にあるものか。

老婆の號哭一句ごとに響く。

旅に連れて行けア手前は、申分のねえ道づれで、申分のねえ歩きてで、西風を食つて歩いて行く奴等の中の一番の申分のない奴だつた。西風ア吹きまくる。ひらひらと手前の肩掛は踊る。俺ア歩き疲れて氣のふさいでゐる時にでも、手前が笑ふのを見ればいつもにつこりとさせられた。手前と一緒だと思やア、俺ア果しのねえ街道を歩いてゐるちう事も忘れてゐる。俺アこの國中を歩きまはつても構はねえ。

踊に連れて行けア手前は、他の奴らをみんなへとへとにするまで踊つて踊つて踊りぬく。宵の中から夜明けまで、手前は一寸もかはらず踊りぬく。次から次へと限りなく輕い手前の足拍子は、丁度敷石を打つて降りかゝる驟雨のやうだつた。手前の踊りに敵ふものは、コンネマラ中さがしてもなかつた。いいや、愛蘭土の國中をさがしてみても一人もなかつた。

あーあ、なぜ俺は、草木の枝葉のしをれたのを少しも知らずにゐたものか。手前の笑ひが止んだ時、この世の中から笑ひ聲は消え、野山の草木の枝葉はみな、萎えしをたれたに違ひないのに。あーあ、冷たい冬が籠のあたりに忍びより、俺の心は今日から痛みで閉されてしまふー

第一の老婆　いつそ戸を閉めてしまふ方がええかもしれぬ。市の騒ぎのいつそ聞えねえやうにした方がええかもしれぬのし。

マクドナウ　あーあ、市の奴等アなんちう奴等だ！　あいつが死んだといふに、ちつと堅く冷たくなつてしまつたといふに、夢中であきなひや金儲けをしてゐやアがる。

第一の老婆　御新造、日の中に埋めにアなんねえだよマクドナウ。先刻、書記さんがどさつてさう云つてゐただよ。

マクドナウ　なに？　書記が來た。そんな書記など死んぢまふがいい。丸太ン棒めー　死んだ俺が鼻にア、野郎夜伽をする身内がねえとでも思つてゐやアがるんか。

第一の老婆　先刻棺に入れるやうにと云つて人をよこしただよ。御新造は、日の暮にア持つて行かれてしまふだよ。

マクドナウ　いいや俺アあいつのためにでつかい御通夜をしてやるだ。その位な事をせずに埋めるなんて、それぢやあいつの名にかかはる。蠟燭に菓子に酒に煙草を山ほど積む。こんなテーブルぢや小さすぎる。隣近所でテーブルをうんと借りて來にアならねえ。

第一の老婆　さうは出來ねえだよ。さつきの男がいふにア、「ここは普通の合宿だから、死人を他の者と一緒におくわけにはいかねえ」と云つてただよ。何せ、相手は法律や規則でやつてゐるだでねえ。それうお前がいくら思ふやうにしようと云つても、それアお前、出來ねえこんだ

よ。

マクドナウ　それでも、この位の事あいつのためにしてやる事が出來ぬといふのでは、俺アそれぢアあんまり心殘りだ。

第一の老婆　「今に棺を運び出すやうに組合から若い者を二人つけて車を寄越すから」と云つてゐただよ。

マクドナウ　なに、組合からの若い者だと！　そんな奴等に一人だつて、あいつの身體にさはらすもんか。あいつを墓場へ連れて行くのにどうしてそんな車たんかを使ふものか。どうしてそんなひどい事が出來るといやアがるんだ。

第一の老婆　けれども、その他にどうも持つて行きやうがないぢやねえかえ。やつぱりむかうの云ふやうにまかせておくのが一番ええだよ。

マクドナウ　なに持つて行きやうがねえ？　近所の衆や知り合の衆、どんな人でも喜んで、あいつの棺なら運んでぐれる人はいくらでもあるぢやねえか。

第一の老婆　その事なら、みんなもう先刻斷りを云つてよこしただよ。御新造、ガルウェイの町ぢやあんまり好かれちやゐなかつただから、誰も手を貸してくれるちう人ねえだよ。

マクドナウ　ええッ！　それや本當の事か？　それとも俺ゥ困らさうと、手前たちの作つた嘘ぢあねえか。

第一の老婆　なに嘘であるものか。冬ア寒いちう事と同じに本當の事だ。お前の他にア一人も手つだつて曳いてくれるちう人アねえのだよ。

マクドナウ　ガルウェイの阿魔ら、さては妬んでゐやあがつたのだな。うぬらよりも七十倍もいい女が、ひよつくり他所から出て來たので、それでいまいましさにのぼせ上つてゐたのだな。あーあ、俺こそ口惜しくてぢつとしてはゐられねえ。何でこんな奴等のところへやつて來たのか。何でこんな糞婆共のひん曲つた足に合せて笛を吹いてやつたり、歌を聞かせてやつたりしたのか。こいつらア、魔物の笛にでも合せて殺されちまふがよかつただア。そして世間の大笑ひになれあがるがよかつただア。俺の嚊の棺を運ぶのを斷るなどといふ事ア、愛蘭土の國の恥だ。この上もない業曝しだ。おお、コリップ河！　貴樣の水が溢れ出して、堤も土手もぶち破り、こんな町の上へは山のやうな大波になつて打寄せろ。そして、殘つてゐる奴等も皆一緒に、こんな町は跡型もなく亡びてしまへ。

第一の老婆　ああ、まあ靜かにしねえか、お前。もしも外の市にゐる衆に聞えたら、みんなどんなに怒るかわからねえぢやねえか。

マクドナウ　ええッ！　あの市にゐる奴等ア賣手も買手もみんなくたばつてしまやアがれ。百

姓たちにア腐り病が降つて來い。あいつらの播いた種は、畑の中でみな腐り、青田は取り入れ時の來ねえ中に東風に吹き枯らされてしまやアがれ。市から市へと四つ足を連れて歩くあの羊飼や牛飼にア、悪りい疫病が降つて來い。取引の固めに唾をはいて手打をする、あの大百姓にア俺の魂の呪ひがかかれ。牛は疫病にとつつかれ、羊は肝毒でぶつ倒れ、クリスマスの大祭にならねえ中に、どいつもこいつも虹だらけになつてしまやアがれ。あーあ、ぢつとしてゐられねえ。美しい髪をした俺の嚊が、現在淋しく棺の中に入つてゐるのに、その悲ひを手傳はうともしねえで市にゐる奴等の、手が全體、何で曲りも震へもせずにゐるのだか。

第二の老婆　（戸口で）お前近頃、けちになつただな、マクドナウ。お前澤山のお金そこにもつてゐるでねえだか。お前早速また新しい嫁を貰つて、家を買つたり、土地を買つたりするつもりだな。そんで財布の口を堅く締めてゐるだな。それで立派に挽き歌唄はせる女たのんだり、街ん中御新造の棺をかついで行く男たのんだりしようとはしねえだな。

マクドナウ　もし俺が手にそんな金があるんなら、なんで人手を借りたり、頼んだりするものか。

第二の老婆　なに、もし金を持つてゐたらだとな？　お前が金をもつてゐるちう事ア、わしはちやんと聞いて知つてゐるわな。「あそこの毛剪のあとの踊ぢや、立派な女衆一人盆をもつて立

ち上り、まづ自分が眞先にその中へ十圓札を投げ出した。そんでそこへ來てゐた立派な旦那衆、それう眞似ない人ア一人もゐねえんだ。どんな料理屋でもどんな家でも、あの位え金がたんと集つたなア見た事がねえ。」といふ話をわし聞いただわな。さあその十圓札五十枚も、一體お前どうしたちうだ。

マクドナウ　えゝツー　どうしただと。

第二の老婆　お前はその金を、あの奥に死んでゐる御新造のために使ふのが惜しいちうだかな。

マクドナウ　俺がさういふ事をするかしねえか、そんな事ア手前も十分知りぬいてゐるぢアねえか。

第一の老婆　懐ろの中に金をうならせてゐるくせに、何もそんな頑固な事を云つて、さうして部屋中走りまはつてゐる事ア理窟にもねえ、何ちうこんだ。

マクドナウ　（ポケットをひつくりかへして見せる）出かけた時と同じで鏡一文だつて殘つちやゐねえ。

第二の老婆　まさか、そんな仰山な金、みんな使つてしまふちふ事アあるめえに。

マクドナウ　銅貨一文、鏡錢一枚の影も殘つちやゐねえんだ。

第一の老婆　それぢア歩いて歸つて來る途中、追剝にでも出逢つてすつかり取られてしまつた

ちうのか。

マクドナウ　（どつかり椅子に腰を下ろし、自分の體をゆすぶりながら）あーあ、これが追剝にとつかまつて身ぐるみ剝れたといふんなら、その方がいつそどんなにいいか知れやしねえ。泥棒。大泥棒。その泥棒はこの俺だア。昔から今日までに亭主と呼ばれた男の中で、俺ほど不實な悪りい亭主はあれアしめえ。俺だ。俺だ。この俺だアー

第一の老婆　それぢアお前、つい知らずになくしたとでもいふだかな。

マクドナウ　ええツー　どうしてそれうなくしたと？　俺アそいつを知つててなくした。心に承知でなくしたのだ。帳場へ抛り出したり酒屋の土間へばらまいたり、酒につかひ祝儀につかひ、親しい仲の友達や、平素の顏の知合ひや、知らねえ奴らやごろつきや宿無したちにも奢つてやつた。それからアルドラハンやレイベンの村角でそこの奴らにまいてやつた。酒をくらつてぐてぐてに、正體のねえ宿無しやごろつきが、到るところにころがつてゐらア。（兩手で頭をひつかかへる）

第一の老婆　それぢやお前が笛で儲けた金はみんなそんなになつたちうだか。何んでそんなに急いでなくさにアなんねえちうだア。やれやれ可哀さうなのア、經帷子もなしで奥に寢かしてあるあの御新造だ。

第二の老婆　お前がさうして金をみな使つてしまつたといやあ、もう六道錢一文も御新造につけちややれねえでねえか。

第一の老婆　とにかくお前、お前と一つ床で寢た身でねえか。膝の皮擦りむくほど、お前は御新造にあやまらねえでは濟まねえだぞ。それうお前が他の人を呪つたり、食つてかかるちう法はないわな。お前こそ死ぬ時ア經帷子も何もなしの素裸で、土ん中へ埋める時、雨ざんざんと降つて頭からずぶぬれになつたとて、わしそれア當り前の事だと思ふだよ。

マクドナウ　俺なんざあどうなつたとてかまやあしねえ。俺ア手前らに何といはれやうと腹は一寸もたてやあしねえ。

おおー　カスリーン。俺アもう表の木の枝ででも首をくくりてえ。そして俺の死骸なぞは、久しく餌にありつかねえ野良犬にでも食ひちぎられてしまふがいい。俺の骨なぞは、旗もいらねえ、石塔もいらねえ、何のしるしも立てるにア及ばねえ。そして、一時は人にも知られた俺が名前も、みんなきれえに忘られてしまふがいいだ！　（すゝりあげて泣く）

第一の老婆　もう大分表も暗くなつて來たやうだのし。車アもう來やあしねえかあんた一寸のぞいてくれねえかのし。

第二の老婆　先刻に、ちよつくら市のむかうの隅に見えてゐただよ。大方人混みの減るのを待

つてゐるにちがひねえだよ。

第一の老婆　それにしちあ、あんまり遅いぢやねえかのし。

第二の老婆　あれあれ、組合の貧民院の仕着せを着た人が、人混みを分けて此方へ來るのが今ちらと見えただよ。

第一の老婆　おゝ組合の衆が佛を連れに御座つただよ。マクドナウ。もう何とも仕方はねえだよ。佛はもうお上で埋めてもらはにアなんないだよ。

マクドナウ　おお！　カスリーン、カスリーン。手前に俺アこんな恥をかかせたのか。俺が、この俺が！

第二の老婆　お前あんまり氣にかけすぎるだよ。死んでしまやあ、誰が穴を掘らうが、誰が棺の上に土をかけやうがなに大した違あるもんでねえ。

第一の老婆　さうだとも。此世の事ア見えなくなつてしまふだもの、送りてがあらうがなからうが、なあに大した違があるもんか。

マクドナウ　なに！　うぬらさう思つてゐるのか、うぬらガルエイの古婆たちはそんな事を考へてゐるか。うぬらは薄情な商賣人の中で生れ、商賣人根性の町で育つた奴等だなあ。

第一の老婆　なに、わしらアたゞ、大した違はないと云つただけのこんでねえか。

マクドナウ　大した違のねえ事があるもんか。さういふもんぢやねえといふ事を、俺ア手前らや世間の者に聞かせてやらうか。手前らのやうな考は、町の人間や商賣人やそれでたけあ、ちびりちびりと金をためた商賣人の金持のいふ事だ。そんな奴らア死んだものに手厚くするよりあ、生きてる人間から金でも絞る事を考へる方が得だと思つてゐる奴らだ。

第一の老婆　そんな事云つたとて、澤山の店の中にあ、お前より立派な商人衆いくらあるだかわからねえ。

マクドナウ　だが俺はオルフューズの子孫だぞ。そして俺の體の中にあ、この樂神の血が流れてゐる。それからラフテリイ、カロラン、オウデイリその他この世界の創始から今日が日まで音樂を奏したあらゆる人の血がこの俺の體に流れてゐるんだ。この俺の頭は滅多に世間のがらくた成金の前にやさげられねえ。手前らは自分の云ふ事が素直に聞いてほしいなら、勝手に下司か下郎でもつかふがいいだあ。だがこの俺が使ふのは、東西南北四方の風、そのまた奥の極樂風、人目に見えねえ地獄の風、六つの風を吹きわける、この一管の笛なのだあ。その俺のやつた指輪をはめ、俺と一緒に名を並べ天下晴れて屆けてある、あいつア俺の女房だ。それを何だと！あれの素性が卑しいの、旅をうろつくごろつきの手から手へと賣れてゐたのと、何をしやらくせえ事をいやあがるんだ。さあ！　手前たちと俺たちあ、「わけが違ふ」といふ事を、このマク

ドナウの女房が道をお通りなされる時きあ、お側澤山供ぞろひ、立派な行列でねえと似合はねえといふ事を、このガルウェイの町中に、どれ、俺が今から数へてやらあ！　さあ笛よ。今日こそみごとに鳴つてくれ。ついぞ今日までにねえ程なみごとな聲で鳴つてくれえ。さうして、俺の女房の棺を挽く挽歌唄ひをよびあつめ、聲張りあげて歌をうたはせ、手拍子とらせ、わめかせてくれ。これまで幾度も踊り場へ、多くの人を集めたやうに、いつもの手前のその音色で、今日はみんなを、泣かしてくれ。

戸外に出てゆく。そして悲しみの曲を吹く。

第一の老婆　（驚いて）あの人、髪は逆か立ち、齒を食ひしばつて、何だか不氣味で、氣でもふれたのぢやねえだかのし。

第二の老婆　おのれの女房を、女神様の中の女王様か何かのやうに、みんなをよび集めて敬まはさせるだなどと、偉れえ事を考え出したもんだのし。

第一の老婆　あれあれ。市中の人が、みんなひつそりしてしまつた。あれあれ。皆がこつちへ歩いて來るでねえか！

群衆らしきさゝやき聞ゆ。マクドナウ入り來り、外をむいて戸口に立つ。

マクドナウ　身分のあるものもねえものも、貧乏人も金持も、この市にゐるもの殘らず、この衆に俺ア云ひてえ事がある故に、俺はこの笛を吹いてゐるのだ。さあこつちへ來てカスリーン・マクドナウの名を呼んで、野邊の送りに手を貸して下せえ。さあ手を貸しにやつて來ねえ。ガルウェイの衆、リンチ、ブレイキ、フレンチの衆。デンマーク人の襲きを知つた、このマクドナウの笛がこんなに命ずるのだ！

ガルウェイの商人衆、大工も漁師織屋衆、さあみんなの衆、今からあれの行列を送りなせえ。今日を限り二度とねえ、あれの最後の行列だ。わざわざまはつて練つて行くのだ。ウィリアムゲイトを通る時、リンチの絞首臺、死刑囚の監獄の側を、この行列が通る時あ、水の中の無心の魚も、先き爭つて蹤いて來らあ。

戸口の人々　行く行く。みんな送つて行くだよ。マクドナウ。

他の人々　おいらを眞先に立ててくんな。

他の人々　棺をかつぐなあおいらだよ。

マクドナウ　あゝ本當にカスリーン、手前は今日こそ自由に好きな人が選りどりだ。立派な衆が澤山に、みんなお前に力を貸し、お前を擔はしてくれと云つてゐる。

俺アお前をあきんどなぞにア擔はせねえ。また始め斷つた奴等にも、海岸ばたの奴等にもお前の體は擔はせねえ。

マクドナウの女房

エセルケリイ、モニイン、キルリニイ、その他クレグルスタ一圓の毛剪の衆の他にア誰にも擔はせねえ。笛を好くなああいつらだ。俺の笛を聞きたがるなああいつらだ。

毛剪たち上場。いづれも皆白いフランネルの衣物を着、腰には大鋏を挿み、最初のものは羊飼の杖を手にしてゐる。

最初の毛剪　マクドナウ。佛は奥にゐなさるのかね。

第一の老婆　その戸口から入つて下せえ。棺に入れて、きれいな布が卷いてあるだよ。それに手イおさへねえやうに氣をつけてくれるだよ。市で手が汚れてゐるかもしれねえでの。

一同帽子をとつて入つて行く。

マクドナウ　（奥の方の戸口に向つて）手前は生れてこの方、これといふ程敬はれた事もなく、若い中には隨分惨めなくらしもして來たが、やうやく手前も今日になり、立派に人にも立てられた。これからあ手前の名は人も後々まで覺えてゐやう。

綠の芝生や花壇の間を、絹のスカアトを引きずつて歩いてゐる身分の高い女は、このコンノートにも澤山ゐるが、いざ野邊送りといふ最後の日に、今日手前が送られるやうにこんなに多勢の人に送つてもらへるものは、又と二人はありあしねえ。

このマクドナウの女房の野邊送りの話は、語りつたへとなつて後の世までも殘らうぞ！

毛剪たち奥の戸口に現はれる。マクドナウは笛を押しならしつゝ出口より去る。勝ち誇れるが如き音樂戸外より聞ゆ。

――幕――

解題及び原作者奥書

かの若き希臘の樂神オルヒウスが死んだ自分の妻を求めて死の國に至り、地獄の焔の中で、竪琴を彈じながら妻ユーリヂスをさがす艶麗な物語は、あらゆる藝術に取材されてゐるが、わけてもこの華やかな物語は、至る所、至る時代に於て屢々舞臺化されてゐる。かの歌劇の祖クリストス・グルックに採られた「オルヒウスとユーリヂス」は不滅の傑作として最も華麗な藝術の最初に咲いた花の永久の典麗を示してゐる。巴里のグランドオペラ、シカゴの歌劇協會等では今も猶そのレペルトアルの中として時々出されてゐる。又我々に親しい、オヘンバツハに近代樂化されては「地獄と天國」と題つてゐる。そして愛蘭土劇の中を見ると、ここにも亦、グレゴリイ夫人の手で氣持のいい一幕物の喜劇、「マクドナウの女房」になつてゐる。

明るく華やかなこの希臘の樂神の物語は、勿論それを灰色の百姓國愛蘭土に移し植ゑれば、その色彩はまるで變つて來るはずだ。しかしこれを愛蘭土劇なりグレゴリイ夫人の一般の作に比較すると、珍らしい程華やかで明るいものである。楠山氏はロスタンのシラノを佛蘭西の助六といはれたが、恰もこの劇がそれで、江戸時代の助六と愛蘭土のマクドナウはいかにもよく似た劇だと思ふ。共にその話の筋よりも、朗らかな氣分を主潮とした作で、共に見てゐて兎角の理窟を云ふべきものでなしに、いい氣持になれる劇である。すばらしく派手な科白、劇の基調になる氣分を表象される中心人物に對する集中力、その氣分の發展の大がかりな、しかしそつのない段取等のいかにも裝飾的である事まで、兩者の大體から來る感じと共に、全く相似通つてゐるではないか。

グレゴリイ夫人はこの作に對して次のやうな興味ある奥書を添へてゐる。

*　*　*　*　*　*

私の子供の頃には、私の故郷、ロックスボロー――といふよりも愛蘭土語で呼べばクレグルウスタ――の邊では、毎年一度づゝ盛大な羊の毛剪が行はれて、それが數日續くのです。でそれが終つた最後の晩には、毛剪人やそれを手傳つた人たちのために盛んな踊りの會が開かれたものです。そしてそれには必ず二人の笛吹きが招かれて、笛吹は穀物箱を積んだ上に腰かけて踊りの衆のために笛を吹くのです。その笛吹きの中一人は、いつも必ず、マクドナウといふ男でした。この男は、その時分、方々の家から家へと呼ばれながら旅して歩るく笛吹きの中で一番の上手でした。私が、ダンクリンからお隣のキルタータンへ嫁入りをして行く事になつた祝言の夜、うちの小作人たちを呼んで踊りの會をさせたのですが、その時もが、このマクドナウが來て笛を吹いてくれました。それから私の子供の婚禮にも彼に來てもらひました。マクドナウは其後間もなく死にました。私がマクドナウに逢つた最後は、何でも市が立つとかなんかで人の出盛るやうな事があ

るからそこへ行きたいのだが、金がないから汽車賃を貸して貰ひたいと云つてやつて來たのでした。むろんこんな古い馴染ですものまさか貸してはやりませんわ。で十圓ばかりやつて氣持よく話して別れました。全くこの男はすばらしい上手な笛吹きでしたから死んで二三年する中に、マクドナウについていろいろな神話めいた話が起るやうになりました。私もこんな話を聞いた事があります。一體マクドナウの父親といふのが、デンマークの山のチュアサ・ドタアナンの太古神祕の人々の中へ連れて行かれて、そこでさういふ人たちからすべてあの笛の曲をさづかつたのだと。それから又、その父親といふのが持つてゐた笛は非常に神變不思議なもので、垂木の上へ投げ上げれば、どうしなくても自然に鳴り出したといふ話が傳はつてゐました。しかしマクドナウの笛にはさういふ事はありませんでしたが、それらの神祕な曲をマクドナウは自分で吹く事が出來たといふ話です。その後私は、この戯曲の中へ取り入れたあのマクドナウが、クレグルスタの毛剪り祝ひで千圓も貰ひ、しかもそれを忽ち近所の村で使ひ果してしまつたといふ話も聞きました。「私はあの男に云つてやりましただ」私にそれを話してくれた人は云ひました。「そんな事をするよりはおかみさんのところへええものでも土産に買つてけえるがええでねえかと。だがあいつがいふにア、『へん、何でも欲しい時にア、俺アこの笛せえ一寸持ちアそれで出て來るだア』……と。」私の取拔つたかみさんの葬式の話は所々方々で聞いた事です。私のこの寓話の、それからこの話の中に含まれてゐる感情といふものは、思ふに、つまりどの時代の藝術家も抱くところの古今不易の誇りではないでせうか。

我れ人の世の伶人は
夢の世の夢作るなれ。
あゝ過ぎゆきし年月に
地上の夢は消え行けど
我れ悲しみを吹く時は
ニネヴエの宮となりぬべし
我れ喜びを吹く時は
バベルの塔ぞ築かるる。

私がこの小さい戯曲を書いたのは去年の九月、シムリック號で太西洋を渡航してゐる時の事でした。これを書いて後、私がキンバラへ行くとある人が「マクドナウは威張つた男でした、どんな家の祝言だとて自分に來てくれといはれた家でなけや決して此方から出掛けて行くなんて事はしませんでした。そして決して町を吹いて歩くなんて事はなかつた。」だからかみさんの葬式の時でも、それはたゞ、誇のための誇であつたのです。

この夏ガルウェイで、マクドナウの死ぬ所にゐたといふ人の話によると、「彼は立派な臨終でしたよ。だが貧乏な死に樣でした。夜長になつたら又一稼ぎするつもりで夏中にすつかり使つてしまつたあとでしたから

ね」それから又云ひました。「あの人とレリイと、それからまた他に笛の上手な人が三人その年の中に死にましたよ。だから今頃はきつとどこかで、あの衆が寄つて立派な音樂會を開いてるに相違ありましねえ。」

*　*　*

この戯曲は最初一九〇二年、「マクダラフの女房」Mac Darragh's Wife としてアベイ座に上演された。だが夫人は一九一三年、戯曲集「新愛蘭土喜劇集」New Irish Comedies を編んで出版した時、その中へ改作し「マクドナウの女房」Mac Dough's Wife として入れたのである。そしてこの改作の方は當時まで、まだ上演されてゐないと斷つてある。

銅像（三幕）

人物

トーマス・コビンガー　石屋の親爺（マンスター地方の生れ）
マリイ・コビンガー　その女房
マラチ・ノートン　奥山地の羊飼の男
ブライアン・ホスチイ　小百姓（コンノート地方の生れ）
タアビイ・コステロ　海藻をかついで賣り歩く男
ペギイ・マホン　非常に年寄つたとりあげ婆
ピーター・マニオン　使走りの男

場所、ガルエイ郡ドルイナカン岬の一漁村。（ムンスター地方）

第一幕

舞臺　村の街道。西側に墓碁の家、共に野呂の白塗。其の一方は殊にみすぼらし。
積石の塀越しに、遠く灰色の海と灰色の山見ゆ。墓石數多その塀の所々に寄せ掛けられる。その
一つには「トーマス・コピンガー記念の碑」と彫まれてある。
トーマス・コピンガーはその墓石を見てゐる。
その女房マリイ・コピンガーはその石塔と反對の方を向いて塀越しに遠くを眺めてゐる。

ミセス・コピンガー　（塀の上にほしものをひろげながら）昨夜よちう、あんな騒ぎが聞えてゐながら、朝になつたらへえ、こんなにしんしんしてゐる。わしイ何事だかと思つてのぞいてみただ、全體、近所の衆はみんなどうしただか、さつぱりわしには合點がゆかねえ。

コピンガー　それあうらも不思議に思つてるだ。ブライアン・ホスチイもタアビイ・コステロも何處にもゐねえ。他の衆もさつぱり姿ア見せねえ。あれあれ、たんだ一人、山男のマラチの氣狂野郎が濱の方からこつちへ歩りいて來るやうだ。

腰を下ろして墓石を彫り始む。

ミセス・コピンガー　わし本當にさうして死人相手の紙仕事をしていやともおもはねえあんたの氣が知れねえよ、トーマス・コピンガー。わしならそんなへえ陰氣くせい仕事をするなアいやなこつたがなあ。

コピンガー　そんな事があるもんか。この位え生き甲斐のある面白れえ仕事が又とあるもんか。よしよし、それぢあ今からわれに一つ聞かしてやるかな。先づ、けだもの飼つてる奴らア、勝負の今始まるちう間際になつて、そのけだものをつれて市を出にアなんねえだとか、また、他の衆みんなア、駈けつくらだとか、裁判だとか、その他へえ何でもええかういふやうなもので集つて行くちうその時、船から魚アおろさにアなんねえだとか、沖イ出て行かにアなんねえだとか、さういふ事であるなれば、いろいろの騒ぎを後にしておのれが小せえ家ん中へ歸つて來るちう事ア、まことにへえ辛氣な思しるに違えねえ。だが、とむれえから歸つて來る、その衆はへえ、寢かされたなりもう物もいへねえ、そんで雨降りア、雨ア土をしみ通して頭の上でも濡れて來る。友達アみんな悲しがつて泣いてるちうに、うぬれア丈夫で生きてるでねえか。さういふ時こそ、うぬれが家イいくら小さくても、お通夜の酒盛の場のやうに輝いてる氣イしるもんだぞ。かういふ時のお通夜の家ちうもなア、全くへえ踊り場と一つこんだから。

ミセス・コビンガー　この村ぢやさうでもねえだよ。何の遊びもなけア、樂しみもねえ。何のさわぎもあれアしねえ。たゞもう、人の噂アしるだけで、うぬれらの馬鹿話しながら、タバコばかり吸つてるだ。

コビンガー　それからア、もう一つの事ア、いつでもうぬれが心は、もうへえ土に歸り灰になつてしまつた衆の事ぎし考へてゐて、その衆がこの世に生きてゐたちうのもどんなにへえ僅かの間だつたかを考へてみて、そしてうぬれこそ永劫常住の國へ行けるやうに後世を願ふ。これが一番に魂ちうもののためになるだ。ソロモンのやうに金銀財寶山のやうにあり、お妃ア七百人ももつてる王樣せえ此世の事ア仰しやつたでねえか。「むなしき榮の中のむなしき榮」と。

ミセス・コビンガー　あんたや、あんたアもういつもわしィ頼んでる事を聞いてくれて、わしをもうメリケンへ連れて行つてくれる時になつただよ。あんたの仕事アもうへえ全くなくなつてしまつただ。あんたア自分自身の石塔の他にアもう此世の中に何にも手えつける事がなくなつたでねえか。これからアもう今までのやうにお通夜もねえだ。とむれえもねえだ。生き殘つてる人も今ぢやもう昔の半分もなくなつたでねえか。

コビンガー　この濱アまことに體にええ所で、若いものはみんなよその國へ行き、双物騒ぎもなければ人殺しもねえ。それに俺が考ぢア、死ぬ人はもう大方みんな死んでしまつただ——ただ、まだ一人殘つてゐるなアあの向うの家のペギイ・マホン婆さんだけれど。

ミセス・コビンガー　あの婆ア、此世に生れて來る赤坊を何人も取りあげただし、また死んでしまふところを助けられた女は澤山あるだが、おのれの命がもうしめえかけて來ただ。あの婆さんこんな風であつたら全く死んでたに違ひねえ人も澤山あるだ。しかし今度ア婆さん自分が行ぐ番が來ただ。ふんとに意地の惡りい氣むづかしやの婆アだよ。死んだとてもうへエ一寸も惜しい事アねえ。

コビンガー　あゝそん事をいふもんでねえ。日頃から近所の衆にア、惡りい事のねえやうに、なるべく災難のないやうにと思つてるのが俺のいつもの心掛けでねえか。

ミセス・コビンガー　自分の名前を彫るなんて、ふんとに結構な仕事さ。おまけにそれが三文になるちうわけでもねえのに。それならそれで、「トーマス・コビンガーの墓」と彫るのが當り前でねえか。一體いつの事とも見當のつかぬ自分の死ぬ時でなけれアそんなもの立てたところで何の益にも立ちアしねえだ。そしてその時にアきつと、此世の旅を歩いた事など何の覺えもなくなつてしまつてるに違ひねえだ。

コビンガー　いいやそんな事ぢア十分でねえ。さういふのは何事も人のためになる事をした事のねえ人だとか、また何にも偉い事をした事のねえ普通の人の石塔の上へ彫る文句だ。

ミセス・コビンガー　そんなら毎日毎日堅い石をこつこつやつて、どうやらかうやら其日の煙を細々と立てて一生くらし、そしてこのムンスター側のドルイナカン岬で死んだといふ事の他に何をお前の石塔の上に彫りつける事があるだア？

コビンガー　いいやどんな暮しむきをしてゐたとてええだ。今に何かひよつこりやつて來る、誰か偉い人が訪ねて御座つてわしの名前を後の世まで傳へるやうに記念碑を立てなさるかも知れねえでな。その人が死んでしまつたあとにア愛蘭土中に笑聲がなくなるちうやうな偉い人が御座つてな。

ミセス・コビンガー　バー　あんたアそんな人が死ぬの何のと云つてたところで、そんな人ア第一まだ此世に生れてゐるだかどうだかもわかれアしねえだ。その人のお父さんやお祖父が生れてるだかどうだか解つた話ぢやねえだよ。そんな人ア大方今の世界が一度滅びてでもしまつたら生れて來るかも知れねえ。あんたの話アへえまるで夢でも見てるやうな取り留めのねえ事ばつかりだ。

コビンガー　アーに、世の中にア夢のやうな事は澤山ある。千年目毎にアどうも必ず何かでつかい事が起つて來るらしい。ノアの大洪水だとか、またミレジアが愛蘭土になるだとか。それアお前世の中にアまるで夢のやうな事ア澤山あるだとも。

石塔の方へ向いて又彫りはじむ。マラチ左手よりのそのそ入つて來る。そして二人を一寸見る。

ミセス・コビンガー　あゝマラチ・ノートン、お早いなし。何かいい話はねえかな。どうもお前さん色澤がよくないよ。何だか話にきくと、お前さんとこの鶏アみんな狐に盜られてしまつたちうぢやねえか。全體、お前さんは何だつてあんな話相手もねえ山ん中アやめねえだか氣が知れねえだよ。もう一寸友だちのある所へ出て來て住むがええでねえかな。

マラト　町といふとかア人のうようよとゐていつもどつたけえつてゐる嫌なとこだ。道イばかにだだつぴろくてじめじめしてるでねえか。そして村は村で廻し者がまぎれこんでるだよ。それから謀叛人だとか、口を利くも汚らはしい奴らア一杯だ。どいつもこいつも皆腹黒もんで、おまけに酒で性根腐つてねえ奴一人もゐねえ。わしイ一人ぎりでゐる方がどの位エ、ええだかわからねえ。何にもしず、腹ア空れア藪ン中へへえつてすんぐりでも食つてる方が餘程ええ。

ミセス・コビンガー　今日はここにア人ア一人もゐねえ、誰の姿も見えにア、誰の聲も聞こえねえ。

マラチ　さつきまではさうでもなかつただよ。（コビンガーの方に向き直つて）ねえトーマス・コビンガー、お前さま昨夜の騒ぎイ聞いただかね。

コビンガー　あの騒ぎを何んで聞かねえちうわけがあるだ。まるで雷様みてえぢやなかつたか。

まるで雲ン中から、天から響け渡つてるやうでなかつただか。丁度をとしケレイの衆の漁船、ガルウェイから消し飛ばされてしまつた時の雷様のやうだつただ。だがもうすつかりお天氣は上るらしいでねえか。天にあつた毒氣を雷様アすつかり祓ひ清めておしまひなされただ。

マラチ　天の雲ちうものはそんな事しるちうはずのもんでねえ。雷様ちうものは天然自然のもんでねえか。だが昨夜ここへやつて來たなア雷様どころのもんではねえだ。

ミセス・コビンガー　わしだとてあれを雷だたア思つちアゐねえわな。あれアそんなものよりも牛の子でも澤山吠え立ててる聲に似てゐただ。何百ちう人でも水に溺れかけてゐるやうだつたよ。そんでなけアどつかに祝言でもあつて親戚中が揃つて夜中に車をぶつとばして駈けつけるやうな音だつただ。

コビンガー　（立ち上り塀の向うを眺めつゝ）われらアさう思ふだか。ふん、そんなら勝手にさう思つとるがええだア。俺はブライアンやダアビイを捜して來べえよ。あの衆らわれらに雷様か雷様でねえか敎へてくれべえよ。おゝブライアンがあの崖の鼻をこうちへやつて來るやうだ。マリイや、うら長靴をはくだから、磨いておいてくれや。

家の中へ入る。

マラチ　あれが雷ちう事アねえ。昨夜はまことに不思議なお告げのやうな事ばつかりあつただ。

ミセス・コビンガー　お前なんだつてそんな事を云ひ出すだか。何にも不思議がるやうな事ア見えなかつたでねえか。それア大方お前はまたその頭ん中が妙な事になつたのだな。

マラチ　いんや。わしは鶏のまだ小さいやつを一羽持つてゐるだ。そいつが、まだ夜ア暗いちうのに不思議でねえか、しきりに啼き立てただ。まるでよさりはへえ明けてでもしまつたやうに、そして雞めその魂がデンマークへでも飛んでつてしまつたやうに、しきりに啼き立ててゐただ。

ミセス・コビンガー　たゝ木の上に止つてる鶏が、時でねえ時分に啼き立てたとて、そん事アへえ何にも不思議がるにア當らねえだ。お前だとて寢てゐる時、寢返り打たねえちう事アあるめえ。さうしれば、蒲團の藥アきしるにきまつてるだ。そんな事ア何にも不思議な事アねえだ。

マラチ　さうすると間もなく、わしイあの大きな音しだすのを聞いただ。つんざくやうな、水をはねとばすやうな、そして吼えるやうな聲が沖の方から聞えて來ただ。

ミセス・コビンガー　その音なら何もお前ばかり聞いたわけでねえだよ。わしだとてちやんと知つてるだ。へえもうお裁きの日のやうに恐しい音であつただ。わしイあの音の聞えねえやうになるまで、しつかりと薄團の中にもぐり込んでゐただとも。

マラチ　あの音ア空がへえしらじら明けて來る頃までもつづいてゐただ。わしは丁度その時、

山羊が子を產み始めたらしいので見に出てやつただ。さうすると山羊め、繩アぶち切れてゐる、わしイ作つて置いた柵の中の石は蹴飛ばしてあるだ。そして園ン中にア影も形も見えねえでねえか。

ミセス・コビンガー　それで今だにお前はその山羊を捜ねてるだか、それともどこか岩の間でもそいつア見つかつただかね。

マラチ　とーころがよ。わし波打際の方へ下りて行つて見るとよ、山羊めそこにゐるでねえか。今までこいつアつひぞ來ようとした事もねえ所だ。そしてその側にア仔山羊二匹もゐるでねえか。これもまた、今までこいつはつひぞ一つより子を產んだ事のねえ山羊だのに！　それから、お前樣もつとえれえ事があるだよ——

ミセス・コビンガー　なにも山羊が子を產んだちうのなら、お前これからア極樂ぢやねえか。お茶ん中へも乳を入れて飯む事が出來るちうわけだ。

マラチ　二つの仔山羊はその側の波打際にゐて、そして親山羊はお前さま草も食はなけや藻を食つてゐたのでも御座りましねえ、野郎、頗る御機嫌のよささうな顏つきをして、ねそべれあがつて、お前さまどうでがんす。山羊め小さな板ッ切れ口にくはへてゐるぢやねえか！

ミセス・コビンガー　それアお前、山羊ちうものは何でも食はねえものはないわな。いつぞやうちでは一度、隣の山羊が一匹うらがとこの流し棚の上にあがり込んで、お前、壁にかけてあつた、お經の上つた椰子の葉まで食つてしまふとこだつたよ。

マラチ　それだとてお前さま、けだものが板ッ切れ食ふなんちう事を聞いた事があるだかね？

ミセス・コビンガー　あるだとも。愛蘭土の地へ葬るとてコランキラ樣のお體アはるばる海を越してもつて來た時もさうであつたでねえだか。帆柱の上へ方角を彫りつけて、それから陸へつくと、牛が來てそれを甜めたでねえかな。お前聞いたのもきつとこの話の事であらずが？

マラチ　（ミセスの方へ近づき、自分のボロボロのシャツの中から一枚の板切を出して見せながら）ねえおかみさま、あんた字イ讀めるだから、わしに一つこの板ッ切れの上に書いてある字を讀んで聞かしてくらつせえ。

ミセス・コビンガー　ははアなるほどねえ、ここに書いてあるのは、これア字だよ。はてな名前だねえ。エッチ、エッチ、ユー、ジイ、エッチ、ヒュー——ヒューオロラ。

マラチ　はーアー　ヒューオロラ？　——わしもどうもさうだらうと思つてただよ。やつぱりわしが思つてたのと大てえ同じだつた。この字を見た時、わしもこれアきつとどうかいふ人の名前に違ひねえ、そしてきつと何かわしにお告げがあつたのだと思つただ。そこでだ、ねえおかみさま、あんた何かこのヒューオロラちう人の話は知りなさらぬかね？　何か聞いた話はねえ

だかね？

ミセス・コビンガー　かういふやうな名前、たしかに聞いた事はあるだよ。だが、いまどうもはつきりと、どんな顔付だつたか、どんな話があつたか思ひ出せねえ。それアお前、わし一生に聞いた事で忘れてしまふ事ア澤山あるのが當り前だよ。わしどうも嗣忘れをしるだ。いろんな事ア目のさきまで出て來るだが。

ミセス手を目にかざして壁越しに遠方を眺める。

マラチ　これエ何かわけあるに違えねえ。これ何かのしらせに違えねえ。昨夜はあゝいふいろいろな不思議があつただ——沖の方ぢや何千人の聲とも知れんやうな騒ぎ聲が聞えただし、垂木に留つてゐた鷄は鷄で夜中に突然と鳴き出す、そして山羊がこのわしにかういふ板つ切れを持つて來てくれるちう事あ——。ヒュウ・オウロラー　どうもこの名前は何となく立派なやうな名前でねえか。あゝあ、一體この人何んでわしのところへ御座らしやつただか、わしに一體何をせよと仰しやれるだか！

ブライアン・ホスチイ上場。

ミセス・コビンガー　（戸口にむかひ）爺さんや。出て御座らつせ。ブライアン・ホスチイが御座つただよ。

コビンガー　（出て來る）おゝさうか、それアよかつた。わしたづねて行かんでも濟んだ。やあブライアン、今朝はお前、ばかに早くから歩いてゐるだな。

ホスチイ　それアお前、こんな大騒ぎのあつた夜だもの、目も早くさめるし出歩りきもするさ。お前だとてあの音を聞いたら眠ちアゐられなくなつたに違ひねえ。

コビンガー　それぢアお前もあの音を聞いただと見えるね？

ホスチイ　どうしてあの騒ぎを知らずにゐられるものか。あの音は三浬沖だとても一浬沖に思へるやうな音でなかつたか。

コビンガー　あれエ何か、お天氣具合でおつとせえでもでけえ大群になつて荒れ込んで來たのぢあなかつただかね？

ホスチイ　おつとせえの群があんな百の聲え二百の聲にしたやうな、まるでリシーン・クラナハの七つパンシー（怪鳥）のやうな聲立てるちう事ア聞いた事がねえ。あんたもしもあの二匹のけだもの海ん中を大喧嘩して來るところ見ただら、あれを海豹だなどとはいはねえづら。兩方がお互にをどりかゝり跳びかかつて闘つただよ。あいつら吠え始めただからわし出てみただが、ダアビイ・コステロはあのけだものが家ん中へ荒れ込んで來たら大變だとぶツたまげて、跳ね起きて戸口へしつかりと鐵挺掛つてしまつたちう位えだ。

ミセス・コビンガー　なに、あれエけだものだとね？　一體何ちうけだものだつただかね？

ホスチイ　鯨だよ。――二匹の鯨が――喧嘩ぶツばじめて一寸もやめねえで戰つてゐる中に、とうとう淺瀬へぶちあげてしまつただよ。その中に汐は退いて行つてしまふ。鯨は二つともそこへ殘されてしまつただわな。そんで二匹のけだものめ聲を立てて悲しがつただよ。その泣き悲しがる聲を聞いてゐるのはなかなか切ねえこんだつたよ。

コビンガー　それでそいつら今濱にゐるだか。

ホスチイ　居るだとも、どうしる事も出來ねえで、この半島のしかもこの村の濱にゐるだよ。

コビンガー　それぢあ、そいつを汐がさして來てかつさらつて行かねえやうに氣をつけにアなんねえぞ。だが鯨め、きつともう死んだづらな。

ホスチイ　それあもう、むろん鯨は死んでしまつただとも。うらそれからすぐダアビイ・コステロと二人で鯨のゐる所へ行つてみただ。そしてその鯨ア俺がちよつぴりちぎつてみただよ。鯨の肉ちうものは、早え話がまあ雪の解けかかつたやうなもんだぞ。丁度豚ア殺してぶらさげておいてさらしたやつのやうで、ふんとにきれいな眞白なもんだぞ。そんでその大きさといつたら、その上へのつて見りあガルウェイ郡が一目に見える位えだぞ。

ミセス・コビンガー　その中にお前脂はなかつただかね。鯨ちうものからはええ値になる脂が採

れるちう事をわしはどつかで聞いた事がある。

ホスチイ　脂？　俺はちやんと麥藁を取つて鯨の横つ腹へ突つ通してみただ。するとそいつをつたはつて脂ア鹽水の上へ走り出て來ただ。だがその脂妙だぞ、鹽水たアへえ一寸も交つてしまはねえぞ。あの二匹の鯨の中にあゐ脂はきつと愛蘭土中の湖の水をみんなと、それからシヤノン河でも何でもあらゆる水の上を包んでもまだ餘る位あるに違ひねえ。

ミセス・コビンガー　爺さんや、あんたつね日頃考へてゐた運がいよいよ本富に向いて來たらしいわな。それぢや今からすぐ、どんなものでも脂入れる事の出來るやうなものはどんなもんでもありつたけ集めにアなんねえ。桶もあるし壺の大きいのもあるし藥罐もある。

ホスチイ　コンネマラにゐたある醫者は鯨から採つた油一ガロンに一磅も拂つたちう話を聞いた事があつた。王樣の血は魔物でも退治する事が出來るちう位えだから、鯨の油はきつと腫物や癌をなほすええ藥になるに違ひねえ。

ミセス・コビンガー　それアもうへえでつかい金の成る木だ。わし早速、乳溜桶の牛乳をどつかへあける事は出來んか見て來る事にしますべえ。

コビンガー及び婆さんは家の中へ入る。

マラチ　（ホスチイの方へ進みながら）鯨だね？　あんた今、昨夜入つて來たのは鯨だと云つただ

かね。

ホスチイ　あゝさうだとも。さう云つたよ。

マラチ　そんぢアそのけだものは廣い大海の中を、あんで選りに選つてこの岬のしかもこの村へやつて來ただかね。

ホスチイ　あんで來たちう事があるもんでねえ。奴らア波ん中でお互にあんまり叩き合ひ投り合つて泳いで來たもんで何も知らずに、ひよつくりとここへぶちあげてしまつたづら。

マラチ　はてね。そんぢやそのけだものがきつとあの名の書いてある板つ片を持つて來たもんに違ひねえ。だがさうなるとこの廣い三千世界の中で一體だれがヒュウ・オウロラちう人の事を知つてるだかわからなくなつてしまつたぞ！

マラチ退場。

ミセス・コピンガー戸口に現はる。

ホスチイ　（彼女にむかひ）マラチの氣狂め何だかをかしな事を云つてゐただが、あれア一體何の事を云つてゐただね。ミセス・コピンガー。何だか一寸もわけのわからぬ事を云つてそして不思議さうな顏付をして行つてしまつただよ。

ミセス・コピンガー　あーに、あんでもねえだよ。あいつアいつでもあゝいふ奴でねえかね。あ

の人の頭ん中にあ、もうへえちよつくら狂ひかけた機械があるに違ひねえだよ。あいつの考へてる氣あ、あんでも世の中にねえやうな、とてつもねえ馬鹿氣た事ばつかりだよ。

ホスチイ　それアその通りだ。（容器を見ながら）それアさうと、ミセス・コピンガー、今度アあんたたちも世間並みのええ割り前がたつぷりと貰えるに違ひねえよ。さうすれあこれからアもうトーマス・コピンガーに石屋などさせねえでもよくなるよ。

コピンガー　（扉口にもたれ顏を出しながら）俺の事なぞ、手前が大きにお世話だよブライアン。東へでも西へでも行つて聞いてみるがええだ。うらが云つた事一度でも間違つた事があつたかどうだか。われ死にかけたらその時分にア、うらがちやんとわれの石塔を拵へて名前を彫りつけてやると此間われに云ひ聞かせたところでねえか。

ホスチイ　大きに御親切な心がけだぞ。トーマス。だがな、それよりもわれアおのれがくたばらねえうちにさつさと手前の石塔を作つてしまふ事でも氣をつけさつせ。

コピンガー　そんな事あちやんとわけがあれアこそだぞ。うらが石塔はナ、他の衆のより立派で偉さうに見えるやうな名が着くかも知れねえと思ふから待つてゐるだ。

ホスチイ　なに、われが名前、どんなに彫つてみたところで、たんだトーマス・コピンガーといふ他に一體どう仕樣があるちうだ。

ミセス・コビンガー　あるかも知れんでねえか。グリーンカレッヂ（ダブリン市にある大學）を出て英國土へ行き國會議員になる人を見るがええ。寢床へ入る時ア何でもねえ唯の人だが翌る朝目をさましてみるといつの間にかへえ華族樣になつてるでねえか。わしや爺さんが領地の二百町もある華族樣になつてくれりやええと思つてるだぞ。

ホスチイ　へんムンスターの奴らア自分ではえらい氣になつて威張りくさつてゐるが、うらそんなとこに住む事なんざあいやな事だと思つてるだ。あのきれいなコンノートの田舍に生れてさことに仕合せだと思つてるだぞ。

ミセス・コビンガー　そんならお前勝手にいつまでもこのコンノートを讃めてるがええさ。だがね、お前の云つてるなあ大方この世界にあるコンノートぢやあるめえ。そんなとかアどつこにもあるわけはねえ。うらが目ではどうのぞいて見たとて。コンノートだとて、わしらが國と一寸も違ひねえ國で原つぱちう原つぱはみんなたんだ草萬蒲と刺々の鬼薊とがあるきしで何にもない土地でねえか。こんなところ俺ア一寸も住みたいたア思はねえ。こんな偏鄙な狹苦しい土地でくらしてゐて何でおもしろい目を見る事が出來るもんか。あゝあ、うらメリケンへ出かけてえなあ。あそこにアいつもええ風が吹いてゐるだよ。

ホスチイ　ふん、お前さまメリケンちう國をどんな風に考へてゐるか、うらにアちやんとわかつてる。メリケンぢやみんな飲んでるのはデンマークのビールだ。蜜はギリシャで採れる上等で、指輪、襟留め、それからそんなやうな女衆のいろいろなものア山程ある。立派な家柄で、贅澤な暮しで、チリンチリンとベルをぶつたたくとすぐ家來が用事を聞きに出て來る。銀の蒲團で、その四隅には緣飾がついてゐる。そいつにおのれア反り返つて女王樣のやうな偉れえ顏をして一日中腰かけてゐる。そして外國の話だとか戰爭の話だとかばつかりしてゐたいちうのがお前樣の頭ん中にある考げえであらず。だがな婆さん。ええかね、覺えてるがええだよ、このわしイ昔メリケンで暮して來た事があるだよ、このわしイ。

ミセス・コビンガー　お前が暮して來ただとて紐育やボストンに立派な家がねえちうわけアねえでねえか。あそこぢやさういふ事に金を湯水のやうに使ふちう話だもの。

ホスチイ　どんな風に使ふか知らねえが、俺が見たところぢや、火なぞは一寸も見る事の出來ねえ眞黑なストーブで、家ん中に煙突はなくてたゞ曲りくねつた鐵の管になつてゐるちうだけの事だ。そしてどこから來るだか知れねえがメリケンちう國の椅子にア一寸もいいばねがついてゐねえで、みんな濕氣で赤銹びになつてる國だ。そして一寸くら散歩に行くちう時にでも電車べえ乘つて、歩くちう事をかきしねえ國だ。もしもこの國にねえ程の甘めえものと云つたら、ただバタだ、バタだけだ。あゝそんでもバタだけは全くうめえとこだつたなあ、あのバ

夕は！

コピンガー　ええ加減にして二人ともいがみ合ひしるのをやめねえだか。アレアレむかうを見ろ。ダアビイ・コステロ、えれえ勢で駈け出して來るでねえか。まるで若い小僧牛が蠅につつかれて焦れ上つて走つて來るやうでねえか。四方から猫に追ひ詰められた鼠のやうな勢で走つて來るでねえか！

ミセス・コピンガー　（跳り上つて）あの人に訊いてみさつし。一體自分の脂の割り前をどうしるつもりだか。そしてあの野郎、自分の家のすぐのお隣のうらがりを出しぬいて自分が餘計とる腹でゐるのぢやねえか。よーく氣イつけて見てゐにアいけねえだぞ。

ダアビィ・コステロ息を切つて走り込む。

ホスチイ　おいちよつくら待て！　われあの鯨の脂の割り前どの位あるだか、正直にうらたちの前で云つてしまへ。

ミセス・コピンガー　うぬれ勝手にいくらでも手前のもんに掻き込んでみるがええ！　お裁きの日までもでも藻などもう採らねえでも暮せる程つかみ込むつもりだな！

コステロ　アアーどうしてこの事を話したらええだか。あのその鯨アー——

ミセス・コピンガー　あにがあんだと。云つてしまはねえだか早く。われ一體何をどの位え取るつもりでゐるだ！

コステロ　アア！！　うらが他に何を思つてるもんでねえ、たゞ仲よくしるちうこんでねえか。おだやかにしるちうこんだ、辛抱ちうこんだ、腹あ立てさせめえちうこんだ、もしも他の衆うらをいぢめるなら法律ぢやねえだ、愛ちうこんだ。——お前らもうへえ云ひてえ事をみんな云つてしまつただら、たんだ一秒でええから、もううらに物を云はしてくれつちア。さうすれアあにをうらが云ひたがつてるだかわかるでねえか。

コピンガー　その脂からアうらたちは一ガロン一磅とらにアなんねえだぞ！　かういふええ仕合せはうらたちみんなが分にアなんねえだぞ！

コステロ　アアー！　ちよつくら俺が話す間待つててくれるちう事が出來ねえだか——そのみんなの取り前になるものがいくらもなくなつてしまふかも知れんだぞ。たんだ今、この國中の奴らアどしどしとあの鯨んとこへ集つて來ただから。みんな船に乘つて四方から集つて來た。そしてあの鯨の分け前のはじつこにでもありつかうと思つてまるでへえ砂の上の藻のやうにたかつて來ただ。

ホスチイ　そんな事を云つたとて第一そいつらあの鯨について何の權利があるちうだア。あの鯨アうらたちが一番早く見つけて、そして一番最初にあの皮へしるしをつけておいたでねえ

か！　なんでわれアその時立ち上つてさういふ道理をあいつウに聞かしてやらねえだ、われア。

コステロ　うらそんな、あの澤山の人集つてる眞中で立ち上るなんちう事、出來るこんでねエ。いいけえ、奴らあオラモアからもフィネバラからも、デュウラスやベリンデレンからもぞくぞくやつて來てるだぞ。ケリイの奴等漁船にのつてあいつの側についてただが、恐ろしい奴等にその船ひつくりかへされてしまつただよ。

ホスチイ　そいつら第一何の權利があつてうらたちの濱へやつてうせただ！　どうしてそいつらうらたちの得物をもつて行つちまふ權利があるちうだア！

コステロ　そんでうら何とかしてきれいにおだやかに話をつけようと思つて骨を折つただが、あいつらあ、一緒に一杯やるときたアへエまるで違つたおそろしい顏つきになつて、鐵砲もち出して敵でもねらふ時のやうな目をしとるだ。それに一人うらをめがけて石をぶつばなした奴さへゐただ。あの時逃げ出さなかつたら、うらへえ今頃はあいつらに殺されてゐたに違ひねえ。うらが道を走つて來る間中、うらを目がけて、でつけえ岩をほうつてよこした位えだぞ。

ミセス・コビンガー家の中へ入る。

ホスチイ　よし、そんならうらが行つてやる。そして一人の姿も殘らねえやうにみんな追拂つてやる。ピチピチと波ん中はねまはつてゐる魚の下へつゝき込んで來るから、舟を一艘かしてくれ。

コビンガー　（道具をとりあげながら）俺アそんならこの鑿と鎚を持つて行つてあいつら一つとつちめてくれべえ。ダアビイ。そのでつけえ犂やスペードなどをうらによこしてくれっちや。そしてだれかバイロン樣の進軍の歌の戰爭へ出るところを一つ歌つてくれっちや。ホスチイ。奴等の膽つ玉一つぶツつぶしてやるべえ。追ひ散らしてやるべえ。

コステロ　（腰を下して）あゝアうら何ちう恐ろしい事だつたか。うらもう十分にやつて來ただ。うらが命はもう三秒たアねえと思ふやうな事をやつただ。命より大事なものはねえ。命をなくすよりえれえ事アねえ。

コビンガー　なんだと、うら敵に後を見せて逃げ出すなんちうことは死んだとてしねえぞ。えええかよく聞くがええ。うら一生涯この位え氣持のええ事アねえだ。うら一寸もしりごみなぞしねえぞ。われが出逢つた位えの事ぢやうらえれえなどと云つて切ながるやうな事は決してねえぞ。蜜蜂が飛んで來て刺さうとどんな事であらうとわれが出逢つた一番恐ろしい事だとて、俺ならきつと何とも思ふやうな事アねえぞ。

コステロ　いいや、よしんば世界中の海の鯨をみんな俺にやるからといはれてもうらもうへえ、二度とあんな目に遭ふ事アいやだよ。お前ら知らねえだが、そいつらあみんな荒くれもんばつ

かりだぞ。警察の衆の中にでもあんな奴をよろこんで捕まへに行くなんちう人は澤山はないに相違ねえ。

コビンガー　それアわれのやうな老ぼれでろくに歩るく事も出來ねえ足腰のがくがく親爺ぢや當り前の事だよ。

コステロ　何、うらがそんなひでえ年であるもんだ。うらが足の弱つたのは若い中にあんまり使ひ荒したからの事だ。われこそ寢床にばかりへばりついてゐて自分の仕事一寸もはきはきとしねえ爺でねえか。

コビンガー　なんだと。うらが仕事の出來ん年寄りだと？　うらまだ一寸も年寄りなどちう程の事アねえぞ。髪の毛はみんな劍のやうで齒は一本もねえブライアン・ホスチイよりは俺の方がどの位え若いかしれねえだぞ。

ホスチイ　なに、うらに齒が一本もねえだと。そんならふんとにうらの齒が一本なしになるまでわれアうらが口ん中へ指を突込んでゐて見るかな。

ピータア・マニョン上場。

ミセス・コビンガー　何か用だかな、ピータア・マニョン。お前今日車つけて町へ行くだか？

マニョン　いま和尚さまと沖番（おきばん）の旦那と二人の衆が、あの他處の村の奴らが二匹のでつけえさかなンとこへたかつてゐる奴等の所へ行つて下さつただ。

コビンガー　わしらも今、丁度出かけようとしてゐるとこだよ。そしてあいつら一人殘らず海ん中へ掃き捨ててくれようと思つてるところだ。

マニョン　和尚さまと沖番の旦那と二人の衆があいつらみんな自分の村へ直ぐ失せるやうにして下されただよ。和尚さまはうんと叱つて下されただし、沖番の旦那は法律の事を云つて嚇して下さつただ。

コビンガー　そして二人の衆はみんな追拂らつて淸めて下されただか？

マニョン　若い奴も年寄りも、みんな、たんだ一人の影を留めずに。

コビンガー　本當に利巧な和尚樣で有難てえ事だ。和尚樣の前にアどんな間違起つたとてきつと立派に始末をして下されて、自分の檀家のためになるやうに筋道を立てて下さる。

ホスチイ　今度の鯨の事ぢあ誰よりもへえ和尚樣仰しやる事が一番大切だ。

マニョン　わし云ひつけられただが、お前さまらの中の誰にもあの鯨からの收入（あがり）を取つちやいけねえさうだよ。

コビンガー　なに、何をわれ云ふだ。やうやうの事で到頭今度うらにも運がむいて來たと思つてるだに。

マニヨン　和尚様と沖番の旦那のお二人が仰しやるにア、この二匹の海のけだものからの上り高や儲はあの人にやるとかこの人にくれるだとか、又誰の褒美だとか誰の分け前だとかにするのはよくねえ、それよりもこの濱全體の、この土地全體の爲になるええ事に使はねえぢやなんねえと仰しやれるだ。

ホスチイ　鯨ア上つたのはこの岬でも、コンノート側だぞ。それにあんでムンスター側の奴等にもやらにアなんねえちうわけがあるだ。

ミセス・コピンガー　いいんや、わしらさう仰しやればその通りにならにアいけねえ。たとへこの位の損はしてもそれア辛抱しねえぢやいけねえ。何事でも和尚さま困らしたり和尚様仰しやるのにさからふなどいふ事あ、何よりいけねえこんだ。

マニヨン　お前さんたちの中ぢや誰が一番の年頭だかね。

ホスチイ　なんでそんな事を訊くだ？

マニヨン　わしイ云ひつけられただが、鯨から取れる收入の處置について早速相談がしてえだから、「一番の年頭の衆に」――和尚様仰しやれただ――「かういふ事を決めるにア一番年頭の衆が一番ええ」と――それから沖番の旦那仰しやれるにア――

ホスチイ　收入の處置について相談だと？　それア へえ誰にしたところで大變な事だ！

ミセス・コピンガー　（コピンガーの腕を取つて前へ押しやりながら）さあ立つて行つて來るだよ、トーマス・コピンガー。そしてあんた考へる事を云つて來にアいけねえぞ。何と云つてもこの邊で一番にさういふ事に適り役はあんたの他にアねえだぞ。あんたアもうへえ、七十に近い年だから。

マニヨン　そしてあの沖番の旦那ア仰しやる事にア――

ホスチイ　（彼をつき飛ばして）何んでこんな奴が一番適り役だといふだ。俺の方が餘程年上でねえか。まあこの顏の色艶生々してるのを見るがええ。われ俺がやうに年寄らしいむしやつぽいとこはねえでないか。

マニヨン腰をかけてパイプに火をつける。

ミセス・コピンガー　さうぢやねえだよ。お前の頭の上に乘つてるのはちりちりの縮れ毛だし、顏つきもしやむづかしい顏してるだからいかにも年寄くさく見えるだ。もしも氣イつけて身ぎれいにしてゐれア、本當はまだ元氣よく見える年だとも。トーマスさあ自分はいくつだか皆の衆に話して聞かせねえだか。

コピンガー　どうして俺ら自分の年いくつだなんて事が他人様に云はれるもんでねえ。人間ちうものは七十にもなつてみるともうへえ、年のたつて行く事などわかるもんでねえ。譬へ和尚

様の前へ出されたとて、うらもうこれ以上何にもいふ事ア出來ねえ。

ホスチイ　そんぢやわれは全體、たんだ今半時とたたねえうちに二十も三十も一度に年を食つただか。どうだ。うらが目の前から消えちまひたからうが。われがロアまるで笛吹きのやうにいろいろな音を出すだな。

コピンガー　なにうらが年は六十だかもしれねえ。がよく數へると七十だかも知れねえ、それともその上へもう一つ七十たすだかも知れねえだぞ。だがわれアな、われこそはおのれの年を吹つかけてゐるだ。われのその體つき、まるでリボンのやうにぴんとしてるでねえか。

ホスチイ　うらが體が眞直ぐだと？　當り前の事だぞ。うらムンスターの奴らたア違ふコンノート魂もつてるだぞ。そしてわれたちより行儀作法せエしつかりしてれば當り前の事でねえか。まだこの濱に地曳網なぞ出來ねえで海でも魚とりつくされてしまはねえ前の事だつた。われが濱へ出てかれいえだのひらめだのその他魚ちう魚は何でもやたらに取り込んでゐたのを知つてゐるぞ。

コステロ　いいや、うらお袋を覺えてる。搖籠ん中で眠てゐる時に兄貴がその上へぶつたふれて來てお袋に叱られるのを恐れてその日一日藪ん中にもぐり込んでかくれてゐた。その兄貴は死んだ時七十三だつた。

ホスチイ　アツー　この野郎。まだわれが生れねえさきにさういふ事があつただか。われアうらたちの中で一番の若僧だぞ。しかしあのでつかい大風のあつたなア、あれアうらが生れて六ケ月目の事だつたぞ。さあどうだ。これこそ嘘でねえ證據でねえか。

コステロ　この野郎あにこくだ。うらあの大風なら自分でよーくはつきりと覺えてゐるだぞ。その外の事であの時分の事ならみんなよーく覺えてゐるだぞ。うらへえ子供の時分餘程ぼんやりでうかつに暮して來たのでなきや、そんな事位え知らねえわけがねえ。

コピンガー　うらがお袋は――あゝ神樣お袋の魂やすませて下さりませ――お袋が云つた事がある。うらプライアン・ホスチイより一つ年上だと。うらがお袋はキララへ佛蘭西の兵隊が上つて來た事でもちやんと覺えてた。

ホスチイ　覺えてたー　そしてデンマーク人が愛蘭土の地から追ひ出され、――さうだらう――その時樂隊はプライアン・ボールウ進軍の歌をやつたとでもいふだかー

ペギイ・マホン婆さん自分の小舍の戸口へ出て來る。

ミセス・コピンガー　丁度いいところへ、婆さんが出て來た。婆さんならこの話をきつと何とか鳧をつけてくれるにちがひねえ。年の事に就いてわからん事があつたら婆さんに聞くが一番でねえか。ペギイ・マホンは百年近くこの村に住んでゐる古婆アだから。――ペギイ婆さま、ちよ

つくらここまで出てござらつせ。今晩寢る時にわしお前のお茶へ牛乳を入れて飲ませてあげるだによ。

コピンガー　アー、あんな婆様、もうへえおいぼれてがたがたなつてるでねえか。あんな婆様に何を訊くことがあるもんで。婆様、昔の事を讃めるのとかびの生えたやうな古い話の他何があるもんで。

ホスチイ　阿母ア。ちよつくらこつちむいてくだつせ！　わしが一番上の餓鬼生れた時わしが家へあんたが來てくれてから、もう六十年にもなるだてのう。その時あんたア云つただ、この子は神様からの贈り物だと。

ペギイ　あゝあ、さうとも、さうとも。赤ん坊ちうものは、どの赤ん坊でも、みんな神様お惠み下された、贈物だとも。人間は神様にアよくおつかへ申さにアなんねえ。われたちこの世に生れて來るも神様、死んで行くも神様、この世の事はみんな神様がおさせなされるのぢや。あの星の世界ぢや、一人の女の人が御座つてどんな事でもその神様がしてゐなさるぢやが。

コピンガー　婆様もうへエいくらか氣イ變になつて思ひ出す事出來ねえだな。

ペギイ　うゝーんにや、思ひ出すだ。思ひ出すだ。年寄ると心さみしくなるだで、うらいつでも、段々と昔の事を思ひ出してゐるだ。

コピンガー　そんなら一つ昔の事をたぐり出して行つてみなせえ。わしがいまの婆アをのちぞへにもらふ前の、わしの始めの女房の產をした時お前來てくれてからもうへえ何年位になるづらのう。

ペギイ　あゝあ、のちぞへなどはまつぴらだ。嫁入りちうものは一度にきまつたもんだ。あゝあ、あの人はわしには一番ええ友だち相談相手だつた。氣の早い人だつた。天國に御座らつしやる萬能の神様どうぞうちの人の魂を御守り下さりませ。あの人ア死んで了つてから何にもねえが、あれからもうへえ二千五百年も經つてゐるだかなア。あの人死んでこの明るい世界にゐなくなつてからは、わしは一人きりになつてしまつただ。鳥のやうに一人きり殘つてしまつただア。

ミセス・コピンガー　（コステロ）に婆様いつでもパトリック・マホンの事ばかり云つてるだよ。婆様いふ事を聞いてるとパトリック・マホンちう人アこの濱中の名譽になる位えの人のやうだけれど、わしみんなの話に聞いただが、なあに何でもねえ、背の低い、ちつぽけなみすぼらしい男で、おまけにどもりだつたちう事だよ。

コステロ　婆様もうすつかり老ぼれて、頭ん中に出て來る事ア何でもへえありつたけ饒舌つてるだ。

コピンガー　そんで結局、わしらの中で誰が先達になるちうお裁きは一體どうなるだ。

マニョン　（立ち上り）さあ、お前様らもうわしのいふ事を聞いて下さる時だ。私和尚様仰しやれただよ。「一番の年頭の衆」と。それから沖番の旦那ア仰しやつただ。「一番年頭の衆三人」と。そしてその三人の衆の中の二人のきめた事に和尚様もお從ひなされると仰しやるだ。そんでわし馬の用意の出來次第、すぐに監理院評議所に坐つて御座る御役人衆のところへ行つて、あんたたちどういふ風にその金を使ふ事にきまつただか屆けて來にアなんねえだ。

マニョン退場す。

コピンガー　よしそんぢやうらこのええ運を逃しちやいけねえ。どれそれぢや今から一寸その事を考へる事にしますべえ。

ミセス・コピンガー　そんぢやお前の考へはどうだかね、ブライアン・ホスチイ。お前は兎に角うらがすぐお隣でそして何につけうらたちが一番の相手のお前の腹はどうだね？　さあ、一つコンノート人ちうものがどの位えうまい智慧もつてるもんだかわしら一つ見てえもんだ。

ホスチイ　うら決して嘘いつはりはいはねえだ。うら今神様にお誓立てででも云ふだ。もしうらに今、雜貨屋のダアマア程の金があつてそいつが自由になるちうなら、うら何を措いてもやりてえと思ふ事ア他でもねえ。うらがいま住んでるこの情けねえあはれな村のこのかさかさした見つともねえ土塀などこはしてしまつて、シャノン河から海まで掘割を作つて二つの土地の境をしてえだ。ムンスターの氣狂婆たちのべちやべちやしやべる聲の越して來る事の出來ん程、でつけえ掘割が作りてえだ。今日この時から最後のお裁きの日の尻の穴が出來るまでコンノート女の優しい聲の他何にも聞えねえやうにしてえと思ふだア。

コステロ　オウー　ホスチイ、お前そんな旅をうろついて歩りく貧乏人でも云ひさうもねえやうな汚い事をいふちうなあ、お前さんもあんまり近所仲がわりすぎるちうもんでねえか。

ホスチイ　なに！　われそんなにひねくれてうらが云ふ事に理窟をつける位えなら、われどうしたらええだか自分の腹云つてみるがええだ。それがどの位え立派な考へだかどうだか。

コステロ　うらどんな人にでも逆らひたくねえと思つてるだ。でうらこの事ア早速委員の衆におまかせしてえと思ふだ。

ホスチイ　ふん、さう思つてるだか。成程な。そんぢやわれ、ひとのいふ通りになるちうだな。そんぢや婆様の許可出たら今度はコピンガーが自分の腹ア聞かす番だ。

コピンガー　自分の商賣ちうものアどんな人でも可愛えゝもんだ——それでうらとても自分の商賣どうかしてうまくやつて行きてえと思つてるだ——そんでうらいつも考へてるなア岩や石の事ばつかりだ。

ミセス・コビンガー　さうさう、その通りだ。それからケリイの衆の舟がぶつつかつて難船したあの岩の事を云はにアいけねえよ。あの衆の船はその岩のうへへのりあげただ。それで殘つたのはたゞ棒ちぎれぎり。あの岩アこの港へやつて來る舟に取つちやまことに危え岩だ。もしあの岩取る事が出來たら、何にも邪魔しるものなしにすぐこの村からメリケンへでも世界中のどこの國へでも、行く事が出來る通路になるだ。あんた、常々何か一つでつけえ事してえと云つてたぢやねえかな。それにこれア丁度もつてこいのええ事だよ。彼地ぢや紐育の港、此地ぢやドルイナカンと、この二つ港で太西洋がむすびつけられるちう事になれア何とすばらしい事でねえか！

ホスチイ　（笑ふ）どえれえ事を思ひついただよ。婆さんお前は。ワハハハ。ミセス・コビンガー、お前は全體紐育ちう港はどんな町だと考へてゐて、この村を紐育のやうにしようと云ふだ！あそこの入口にアでつかいでつかい「自由の女神」の像が立つてゐるだ。世界中の國から帆前船や蒸汽船が集つて來る。

マラチ上場。

ペギイ婆さんの戸口の所へ腰をおろす。

ミセス・コビンガー！　何、そこに銅像が立つてるちう寓位えが何だちうだ。銅像位えどこにでも立つてるだ。あの海を渡る衆の命を護つてて下さるセント・ジョセフのキリスト様だとて、あれ一つの銅像でねえだか。

ホスチイ　へん、そんでそれうトーマス・コビンガーが石割りの鎚で作るつもりで夢にでも見てるちうだか？

ミセス・コビンガー　何だと！　なんでうちの人があれを作つちやわりいちうだ。うちの人があれを作らうとしてゐたらそれが手前にどうしたちうだ。うちの人は永年手にかけてゐるで、どんな石だとて慣れ切つてゐるだぞ。

ホスチイ　なに、銅像ちうものは石で拵へるもんぢやねえだ。銅像ちうものア鐵を型に入れて、われ丁度羊の脂で蠟燭作るやうにして拵へるもんだぞ。

コビンガー　うら何も、鐵ちうものが石と同じ質のもんだとも、同じもんだとも云つた覺えはねえぞ。

コステロ　さういふもんの中で一番ひんのええもんで、一番によく釣合ふものちうなら、それア石膏ちうものだわな。そしてその上へ屋根をふくがええだわな。さうすれア第一鐵のやうに錢かからねえで濟むだわな。

ホスチイ　あにそんなもんより、鐵の方がどの位ええか知れねえだ。そして費用だとても第一

に、何より鐵は値段が安くてすむでねえか。それに仕事アしやすいし、それからあとになつてからだとて、一番ためにええだ。

コステロ　そんだら、その銅像置くにええ臺を作るにア、セメントちうもんが一番ええだが、その事にアわれ何と返答しるだ！

ホスチイ　もし銅像作るちうなら、あんでもかんでも鐵で作らにアなんねえだぞ。

コビンガー　そんだら、われアその鐵の銅像なぞをどうして立てるつもりでゐるだか！　そんなとてつもねえ、地獄の鞴で作つたやうなもの、仲々ちよつくら動かす事も出來んやうな重いものになつてしまふでねえか。

ホスチイ　あんだと、そんだら、われ石の重い事アあんちうつもりでゐるだ。われ自分のあの石塔を見るがええだ。たんだ二年そこそこの間壁にもたしかけて置いただけでせえ、往還の方へ大穴ぶち拔いてしまつたでねえか。

コビンガー　あの穴そんで明いたではねえだぞ。あゝいふ穴入用な時の用意に、始めからちやんとあけてあつただぞ。

ホスチイ　もしうら錢せえ持つてたら、賭けてでもええだ。どんな事をしたとて、今のまんまあれうあの場所から一寸でも動かす事は出來る事でねえ。

コビンガー　なに、うらきつと動かしてみせるがどうだ。燕麥の袋のやうに、あれウ納屋の天井裏の梁の間を投げ越さしてでも見せるがどうだ。

みんな石塔の方へ寄る。

マニョン登場。

マニョン　さあ皆の衆、あんたたちアどういふ風にしたらえゝだか話アついただかね。わしもう町の監理局へ屆けに行かにアなんねえだけれど。

ホスチイ　今この議論をやつと片づけた所だもの、まだどうしてその話つくわけねえでねえか。

コビンガー　ねえピータア・マニョン。お前どつかで、鐵が石よりも銅像を作るにええもんだなんて事を聞いた事があるだかね？

コステロ　ねえピータア。セメントはいつまででも持つもんだちう事お前思はねえかな？

マニョン　そんな事よりあんたら一寸も早く腹ア決めるがええだよ。この村にアまんだ年を取つた人ゐるだから、あんたらいつまでもぐづぐづしてると、その間にその衆らぐんぐん年を食つて追ひ越されてしまふぞ。

コビンガー　だがまあ、ちよつくら待つてくれ、うら今からこれアへえ全くこの石塔が重いせえでねえちう證據をブライアン・ホスチイに見せねえぢやなんねえだから。

コピンガー石を持ちあげようとする。ホスチイとコステロは皮肉に手をうつて彼に力をそへる。

コステロ　いくらわれが體のありつたけ力ア出したとて、あんでその石がびくとでもしるもんでねえ。

ホスチイ　どうだ、上るか？　それう動かす程の力があれア、われはフィン・マッカンヘイルだ。

ミセス・コピンガー　（ダアビイ・コステロを引張つて來ていふ）ダアビイ・コステロ、あんたア友達甲斐のある衆でねえか。ブライアンはあゝいふ片意地もんだけれど、あんたアいつもわしがいふ事を聞いてくれるおとなしい衆でねえかな。さあ、どうか銅像を作つてそれう立てる事に極めて下せえ。そしてそれうどうぞトーマスに引うけさせてやつて下せえ。うちの爺さんは本當に仕事がしたくてたんねえでゐるだから。——そしてもう石塔ばつかり作るのをやめにしてさういふえゝ仕事をするやうになれア誠に有難え事だから。

コステロ　たとへわしさうしたところで、あのブライアン・ホスチイがとてもわしがいふ事なぞは聞きさうもねえだよ。あの男はどんな事にでもなんとか彼とかきつと天邪鬼をいふ男だで。いくらあんただとて、あの男ばつかりは行儀をなほしてやる事ア出來ねえだよ。

ミセス・コピンガー　この仕事ア本當にうちの人にア結構な仕事でねえか。何と云つたとてお隣り合ひより親しい仲あるもんでねえだよ。この仕事出來れあ、あの人もきつと元氣づくし、それにひよつとしたらわしをメリケンへ連れて行つてくれるやうになんねえとも限らねえだ。だが萬一これう失敗れア、もうへえ戸を閉められてしまつたも同樣だ。——お前さんさういふ事にしてくれて、トーマスもさういふ事にすれあ、二人と一人になるわけでねえか。

マニョン　（ホスチイやコピンガーの方から婆さんの方をむきながら）一體この衆は何の事を議論してゐるだかね。わしにおかみさん聞かして下せえ。

コステロ遂に逃げ去る。

ミセス・コピンガー　銅像を立てるちうだが、それにア何を使ふかちう事がきまらねえでゐるだわな。

マニョン　そんぢや皆んなが相談して選んだ計企は銅像ちう事にきまつただね。

ミセス・コピンガー　うそと思ふならダアビイ・コステロに訊いてみなせえ。オヤ、あの人はどこへ行つただ。アツ！　あいつ何にも出來ねえ何といふ臆病者だ！　ううん、さうきまつただとも、そんでなきやなんで皆があんなに銅像々々と云つてるもんでねえ。

マニョン　はてな？　さうかなア。それにしても、あの衆ら妙な事を考へついたもんだなア。うらにア全く腑に落ちねえだが——まあそんならうら、ことづけをみんな覺えとかにアならん——あの店へ蠟燭——和尚樣んとこへパラフイン油——あの店の衆に靴を一足——それから監

理局の評議所へ行つて鯨からの上り高では銅像を建てますちう事を話す……と――

獨言をいひながら退場す。

コピンガーは一生懸命で石塔をひつくり返さうとする。石塔大きい音を立てて倒れる。

ホスチイ　はゝア、われもちあげるたアぶつたふす事だつたのか？

コピンガー　まてまて、そんだら俺もう一度やつてみるだから。

ミセス・コピンガー　爺さんや。もう牛に芻草(かいば)くれてやらにアなんねえ時分でねえだか――あれあれ、ブライアン・ホスチイ。あんな所にあんたの羊がゐるぞ――ひよつとしると石だかも知れねえだがな――羊とすれアあほむけになつてるだ。死にかけてるらしいぞ。

ブライアン・ホスチイ大急ぎで塀を飛び越して退場す。

コピンガー　しかしまだこれぢやどつちが負けたのでもねえだぞ。

ミセス・コピンガー彼を家ん中へ押し込みながら、

ミセス・コピンガー　お前にア仕合せと、ためエ思つて世話アしてくれるもんがゐるだ。爺さんや、わしがいふ事信じるだぞや。お前今段々とええ運が來かかつてゐるだぞや。

――幕――

第二幕

舞臺　前幕と同じ舞臺。但し夜、月光。コピンガーの家の戸半ば開けられ蠟燭及び圍爐裏の火輝く。家の中よりミセス・コピンガーの歌を唄つてゐる聲聞ゆ。

マラケ　（道を歩いて來る）とうとう夜になつてしまつたな。だがうらまだあの人を見つける事が出來ねえ。東でも西でもうらどうしてもあの人のわかるまでは捜しに行くぞ。東でも西でも――うらが山へ行くとあの人ア洞穴へ行く。うらが洞穴へ行くとあの人ア山へ行く！

ペギイ・マホン婆さん牛乳壺をもつて小屋から出て來る。

ペギイ　お前どうしただか、マラチ・ノートン。家に死人でもあつただか？　そんねえなところを走りまはつてゐるたあ？

マラチ　（一寸立ち止り）あゝあんたあもうこの世の中に長くゐなさるだ。ねえペギイ婆様。あんたア澤山の人の生れるから死ぬまでの事を知つてゐなさる。そしていろいろな昔話もたんと聞きなされただ。ねえ婆さま。あんたヒュウ・オウロラちう人の話を何か聞いた事アねえかね。

何かあつてねなさらんかね。

ペギイ　なんでうらそれう知らんだなどといふだア。ヒュウ・オウロラ――ヒュウ・ベッグ・オウロラ。

マラチ　オウー　それそれ、それだよ婆さま、あんた知つてただかね！　――うらも、あんたア知つてなさるに違ひねえと思つてただよ。あんたア盛りの時分生きてた衆の事ア皆知つてねなさるだから。

ペギイ　（ミセス・コピンガーの家の入口のところへ腰を下して）知つてる。だが、わしこの話をお前に聞かしてやらねえわけはな、あんまり長い話だからうらが話してる中にお前が立ちくたびれてしまふだア、そして足を痛くしちまふだらうから何にもいはねえだぞ。

マラチ　いんにや、話して下つせ、話して下つせ。あんたアもしこの話するに七年かかるちうのなら、うら七年でもぢつとして聞いてるだ。

ペギイ　あーあ！　もうへえ大方消えて行つてしまつた。かういふ事アみんなへえ消えて行つてしまつた。過んでしまつたもなアだんだんと磨り減つてなくなつてしまふ。

マラチ　あんたアどうしてもそれう話して下さらにアいけねえ。不思議な事があつてこの名前わしが手に來ただ。ええかね婆さまア、これたゞ事で來たのたアわけがちがふだア。

ペギイ　あゝお袋さま捨てて家を出て――

マホン　ふうん成程。この人もお袋の家をぬけ出しただかね。かういふ人が家を捨てて出てくれなんだら、世の中ア今頃どんな事になつてるだか知れねえだ。この人アどうしたとて、巡査みてえに毎日家ン中でくすぶり込んで足を灰の中へ突込んで暮らしてねなさるやうなわけがねえ。

ペギイ　そして旅から旅へと荒れ歩りいた。

マラチ　愛蘭にア昔から今日まで、いつもさういふえれえ人が澤山あつただねえ。それう今の奴らアどうだ。あばれる奴ア一人もねえ。たゞのろのろしてゐるだけで、嘘つことばかりついてゐるでねえか。

ペギイ　荒れて荒れて荒れぬいただ。それでとうとう終ひの果にア首切り役人につかまへられてしまつた――恐ろしい首切り役人に。そんでもあの人、どうやらかうやらその役人の手ェ逃げ出しただ。

マラチ　ササナフもさうして命をなくした、首切り人ちうものア何ちう恐ろしい奴だか。アーア神様御助け下さりませ。恐ろしい奴らだ、爪の先まで恐ろしい奴等だ。それからその人アどうしただね。婆様。次を話して下せえ。一方の手ではあの鯨を波にたゞよはせて此處へよこし、

も一方の手でわしをあんたのとこへよこしてこの話を今の世におつげ下されるだ。

ペギイ　（機嫌わるく）ミセス・コビンガー、わしに牛乳くれると約束しただが一體どこにあるだか。うらもう話しるなあいやだ。うらもう話しるに疲びれはてただ。それにうらお茶は石炭の上で眞赤になつて煮えけえつてるだ。うら新しい牛乳ちよつぴりくれると思つて待ちくたびれてしまつただ。ミセス・コビンガー。あんた出ちや來ねえだか。

ミセス・コビンガー　（家の中から）今ちきにあげるだから、もう一寸くら待つてて下せえよ婆さん。

マラチ　皆いまにうらがいふ事を聞くやうになるだ。うらがかういふ人の名アさがし出したと話したら、皆いまにうらがいふ事を聞くやうになるだ。ヒュウ・オウロラちう名搜し出して、これう世界中の人の耳に入れにアなんねえちうお告げは、どうしてもうらの手へ下つたに相違ねえだ。オホー　この名アもう明日からアいかなる事があつても忘れられねえもんになるだ。いかなる人の心からも消えねえもんとなつてしまふだ。

ペギイ　そんだらお前にア、自分の身の中にアどうしても忘れてなんねえちうやうな人ア一人もゐねえだと見えるな。死んだおのれの身内のもなア一寸も構はねえで、縁もゆかりもねえ赤の他人のために、そんなにヘエ骨を折るちう事ア。

マラチ　ナニ赤い他人どこか、この人アうらに取つちアヘエどんな人より大事な人でねえか。はだしでうらが世界中走り廻つてるのもこの人のためなれアこそだ。そこらまで出れアいくらでも居るやうな、否らしい根性曲りの唯の人間のためだつたら、いくらうらだとて何でこんな事をしるもんでねえ。うらと一寸も變りのねえ、同じやうな顏付してる唯の人間だつたら、なんで辛れえ思ひなぞして歩りき廻るもんでねえ。

ペギイ　いいんにや、血筋の中にも、身内の中にも一人も忘れられねえちう人もねえたあ、われが生れて來たのは一體どういふ血筋だか。どうでへえつまんねえ山男の血筋位えに相違ねえ。

ミセス・コビンガー　（話を聞いてゐたが、戸口の所へ現はる）醫者は死神を魔物といひ、死神は醫者を魔物だちう！　ふんとうにお前さんたち二人のいふ事を聞いてると、全く醫者と死神のやうだぞ。二人とも一生懸命で云ひ合つたり我鳴り合つてるだが兩方とも三文の値打もねえ事ばかりだ。町の中一坪程の値打もねえ。眉をぴくりと動かす程の値打もねえ話だ。

マラチ　あんたらアすぐ皆でわしをこきおろすだ。そしてわし何にも知つた事アねえちう。だがわしだとて、どうしてお前さまらの中の一番の智慧者程の智慧もつてるだかも知れんでねえか。ヒュウ・オウロラちう名ア命よりも大事だぞ。たとへ林檎が何百あつたとてええだ。神様アー寸御覽なされアへえそいつを盜んだ奴ア、誰が何と思つたとて知れねえぢアねねえだぞ。

ミセス・コピンガー　ペギイ婆さまや、あんたも、もうあんな奴と議論しるのはやめにしなされや。こんな男と議論しるのは風と云ひ合ひするのに變りはねえだから。同じ爭ふにも他にもつと爭ふ値打ある事いくらでもあるでねえかな。

ペギイ　世の中の人ア墓より此方の世の事ばかりに氣イ使つてゐるだが、墓一つ越したむかうの世の事をなんで考へようとはしねえだか。うら自分で見ただ。十人二十人も百人も二百人も、まるつきしほんの隣りの家から隣りの家一寸たづねて來たやうに、澤山の人が此世へ生れて來て、此世から死んで行つた。いのちちう着物着古してそれがやがてすり切れてしまふと又もどの暗の中へ歸つて行つてしまふだ。人間の體ちうものはボロボロにすり切れるもんだが、魂ちうものはいつまでも變りのねえもんだ。魂ちうものはアダムの中へ神様ア吹き込んで下された息で、今だとて魂は神様のもんだから。うらうちの旦那がいまどこに暮してゐなさるかよく知つてるだ。そして神様わしを御召になる時が來るとわしがどこでうちの人に逢へるだかそれうよく知つてるだ。

ミセス・コピンガー　そんな事が何、わかるもんか。自分で地獄へ行つて見て來た人があるわけぢやなし、また極樂から歸つて來たちう話ア聞いた事がねえ。それとも極樂へ行くと皆あんまりええのでしがみついてて離れねえのかな。そんな當てどのねえ事より、わしらは婆婆にゐるうちによく見ておくが一番だ。死んでから逢へるだかどうだか、たとへ逢へたとて、この婆婆で逢つたときのやうに嬉しいだかどうだかわかつた事ぢやねえ。死んでしまつた人の事ばかり思ひ出して泣いてるかはりに、婆さんも若いうちにもう一人ええ相手を拵へておくと一番よかつただよ。殊にお前のやうに死際近くなつても、誰一人死水を取つてくれる人もねえ一人ぼつちで、おまけに、自分の子といふものは愛蘭土中さがしたとて一人もねえ人はさうしとかにアうそだつただよ。

ペギイ　お前などはわしがパトリック・マホンをたゞの一目も見た事アねえでねえか。隣同志で暮したちうわけでもねえ。知り合ひだつたちうわけでもねえだぞ。そんでそんな事をぬかすだ。わしら二人が別れるちう事ア身と心とが別々に暮らしてると同じ事だ。あの人は、ええだか、遂に一度も汚れたとこへ足ぶみした事もねえし、また他の女と内密話した事もねえ、さういふええ人だつただぞ。東だとて西だとて何處へ行つただとてあんなええ人が又と一人見つかるもんでねえ。あの人わしに用のある時だとか又その他の時などに、わしら二人は堅え約束しただ。わしら二人の仲へはどんな人だとても入れるこつちやねえ、わしら二人の仲はどんな人にも裂かせるこつちやねえと。あの人死んでから、わしに一人男の人を世話して呉れた衆があつただ。そしてその男の人をわしのうちへ連れて來てくれた事があつただ。だがわし云つてやつただよ

「うら汚らはしい塵の子などと一緒に暮す氣は一寸もねえだ。」と云つて、そいつらみんな叩き出してやつただ。（立ち上る）あーア、わしイまア時々に生暮さへいただいて居られる中ア、それから食ひ物のなくなる七月に玉蜀黍の粉ア、ちょつぴりとせへ頂ける中ア、わしイいつまでも約束を守つていくだ。「あの人ア死んだからとて、あんでわしがまた他の男をもつちうわけがあるだ。」と、わしイ云つてやつただ。「わしが連れ合ひ、死んで他處の女と一緒に寢てるちうわけぢやねえだ」と。

ミセス・コピンガー　それアわしとは違つてゐる。わしならネ、まア一日も早く、可愛がつてやる事も出來、世話したり食べさせたりしる事の出來る人間を捜し出すわな。たゞそんなお勤めだとか法事だとかいふやうな變な事のほかどうしてやりやうもねえ影なんぞ大事にしたとて、死んだ人がなんで此方が忘れずにゐるとか思ひ出してくれるなど思ふもんか。

ペギイ　いいやあの人にア解つてるに相違ねえ。だが、うらまだ一度もあの人死んでから逢つた事がねえ。姿みたり、又しらせがあつたりした事アねえ。あーア、わし何度夜になるとあの人をさがしに出かけただかしれねえ。しらせも姿も見た事アねえが、わし寢てる時にア何遍も何遍も來て呉れただ。あーあ、神樣立派な所においでなされて、そこでわしがあの人の所へ行けるちう時になるのをうら一生懸命で待つてるだ。（自分の家の入口の方へ歩いて行く）

ミセス・コピンガー　それアお前、あの人の所へ行けるかもしれねえ。――だがそれは確かだかどうだか知れたこんぢやねえ。お前にだとてそれがどうしてわかるもんでねえ。

ペギイ　なに！　おれにわからねえ？　確かに解るだとも、解るだとも、おれア神樣の保證を立てていふだア。解るだとも、解るだとも。

ミセス・コピンガー　ふふん、それや何より確かな證據づら。――だがな婆さん。わしらが死んぢまつてから、他の衆にわしら見えたりわしらの事が解かるかどうづら。その間にア長い年月が立つて行くでねえか。

ペギイ　そんな事いふでねえ！　そんな言葉アロん中からほき出すでねえ！　われアうらとうらの立派な連れ合ひとの間へわれが心の毒を入れて引き裂くつもりだな。

ミセス・コピンガー　わしさういつたからとてお前さんさう騒ぎ立てるたア思はなかつた。さあさあ婆さま、ここに手から取りたてでほかほかの牛乳があるだよ。

ペギイ　（自分の牛乳壺からその牛乳をぶちあけてしまふ）いらねえ。うらこんなものいらねえ。われがくれるものなどうらもう何にも欲しかねえ。われアうらの希望を盜んでしまつただ。うらこの望が絶えてしまうたら、うらが心は絹糸のやうに切れてしまふだ。あーアあの人にうらが解らねえだか。あーア、パトリック！　何んちう悲しいこんだ。解らねえだかも知れねえ。うら

アへえ世の中うろつきまはるよぼよぼ婆だ。そしてお前はまだ若くて綺麗だ、さうだとも、われア天の神様の子に違ひねえ！

老婆家の中へ入つて戸を閉めてしまふ。

ミセス・コピンガーも自分の家へ入る。

コピンガーとコステロが出て來る。

コピンガーは戸口にむいて十字を切る。

コピンガー　やれやれ、これでまアやつと忙しい一日も濟んだ。どれこれから一つ、あの鯨の上り高をどう始末するかきめにアならん。（腰を下ろして帽子をぬぐ）

コステロ　（腰を下す）わしら事を決めるにもつとうまくやらにアなんねえ。ブライアン・ホスチイは方々走り廻つて片つぱしからわしら云ひかけてる事をくさして歩いてるだ。

コピンガー　あゝー　それアへエ彼奴のいつもの癖だよ。いつでも彼奴あゝいふやつであるだ。ムンスター生れの人を片つぱしから廻り歩りいて自分らの生れた國を自慢してうらたちの生れた國をこきおろすだ。あの野郎あゝいふ意地惡るもんのとこ見れア、彼奴の血筋こそ代々意地惡るもんの血筋に相違ねえだ。

コステロ　うらたち、こんな荷重イ肩に背負ふ力のある人間だかどうだかと自分で思ふだ。

コピンガー　あんでうらたちこの位の事出來ねえ人間だちうだ。その人生れつき利巧なら、他の衆は學問のあるおかげで儲けるものを自分の頭でそれよりももつと澤山のものを儲ける、學問一寸もなくても大學校を出た人より澤山儲けるちう人だとていくらでもあるだし、又ええ運になる人だとていくらもあるだ。わしら一つでつけえ事を目論んで、愛蘭土中評判になるやうな事をしにアなんねえだ。

ブライアン・ホスチイ陰氣な顏をして入つて來る。

コステロ　やあブライアン・ホスチイ。うらたち、今まであんた來るのを待つてただが、とうとう今またあの鯨の賣り上げをどう使ふかちう事を一生懸命に相談し始めたところだ。

ミセス・コピンガー。窓の所へ出て來て話をぢつと聞いてゐる。

ホスチイ　ふん、うらが來てお前たちの大事な話の邪魔になつただか。だがなお前ら、うぬらアもうそんだけ話しや十分でねえか。

コステロ　あゝわれ何んでそんなひねくれた事いふだ。うらそんなにひねくれた事いはれると顏へ上つてしまふだ。

ホスチイ　うぬらそのお饒舌で、その相談のおかげでうらたちみんなの面へ泥を塗つただな。この濱中のものを世間のお笑草にしただな。うぬら二人が勝手にきめた相談で、うらにア一寸

も知らせねえやうにこつそりときめたうぬらが二人の相談で。

コビンガー　なに、うらたち何をきめただ。どんな相談したちうだ。うらたちアまだその事についちア一寸も議論始めてねえだ。

ホスチイ　そんぢや全體誰があんな事を、監理所の評議局へ屆けたちうだ。ドルイナカンの一番の年寄りの三人の者が決めまして御座りまする。——海がわしらの手の中へ投げ込んでくれました此度の金は——村中の利益になるやうな事に使ふちう事にきめました。と申しますのはつまり……何だ！　事もあらうに、銅像だなどと！

コビンガー、コステロの二人も思はず立ち上つて叫ぶ。

二人　え、銅像！

コビンガー　銅像を立てるなんて、そんな事うらたち一寸も知らねえ。そんなものア一寸話のついでに出ただけのもんでねえか。

コステロ　（ミセス・コビンガーが自分に合圖してゐるのを見て）そんぢやきつとピータア・マニョンの奴、わしらが話してるのを聞いてそれを本當にしたに相違ねえ。だがそれも、それう一番始めに云ひ出したなア、ブライアン・ホスチイ。あんたでねえか。

コビンガー　あゝさうだ、われだつたぞ。われが紐育の港の入口にあるちう自由の女神の銅像の話をし始めたのが始まりだつたぞ。

ホスチイ　よし。そんなら、丁度むかうの道からピータア・マニョンがやつて來るから、あいつを一つ神様へ誓言立てさせて白狀させにアなんねえ。一體これア誰がうぬれが仕事にしようとして、そいつを石で彫ると云つただか。

コビンガー　なんだと！　うらが自分の仕事にしようとしただと！　うらたゞ、もしも銅像を立てるとしただら、それにア石で作るが一番ええと云つたまでのこんでねえか！　うら「もしも」と云つて假の話をしただけの事だぞ！

マニョン　（上場しながら）わしら、評議所から歸つて來ましただ。そんでわし、この演のためにあんたらア決めなされた話を評議員の衆へ屆けてめえりやした。そしてあの衆がそれう聞き屆けて下さるやうに賴んで、それからもし金不足でもしるやうだつたら補助して下されるやうにも御願えして來やしただ。

コビンガー　そんぢやいよいよ本當だ。そんで評議員の衆へは、わしら銅像を立てる事に相談きめましたと屆けただな？

マニョン　あんたらア三人さうお決めなされただちうもの、さう屆けねえでどうしるもんだ。

ホスチイ　わしら三人だと？　あツ神様、飛んでもねえこんだ！　わしら三人は決して折合ふ

事などねえちう事ア村中知らねえもんはねえ。

コステロ　あんちう事だ。そんでそれう聞いて評議員の衆何と仰しやれただ。

マニヨン　あの衆ら仰しやるにア、それアまことにええこんだ。この上もねえ思ひつきだ。それアふんとうに立派な仕事だと仰しやつただ。

ホスチイ　ええッ！　そんな事を仰しやつただと。

コステロ　あゝあ、これアまあどうなつて行くこんだか、神様御助け下さりませ。

マニヨン　そんであの衆が――それとも農村監督様らだか――わしどつちがどうだか確かにア解んねえだが――この次の金曜日にア委員を派遣すると仰しやつただよ。金曜日はええ日だから、その衆ら來て敷地の意見を聞き取つて、それから土臺石を据ゑに御座るちうこんだよ。その時アわざわざ代議士の衆を一人連れて行つて演説をし、それから旗や樂隊で立派な會をしるだと云ひなさつただよ。

コピンガー　さうなるとこの村中にアうらが他に記念碑作るにええ人は一人もねねえ！　だがとにかくどんな人のにしろ石塔を立てるちう事は立派な話の種になるだ。うら始めからようく知つてただ。あの鯨ア不思議な鯨でうらがとこへええ運を持つて來たのだちう事ア。

マニヨン　そんで評議員の衆は一體誰の銅像を作るだかその人の名前をひどく知りたがつてね

なさるだ。

コピンガー　誰のだと！

マニヨン　きつと誰か國に忠義な人のでそしてその似顔姿にしにアなんめえと。

ホスチイ　國に忠義な人だと！

コステロ　ブライアン・ホスチイの女神の銅像でも作るがええだ。われがその話し出しただから。

マニヨン　なに、自由などたアなんちう事だ。評議員の衆、あんたたち本當に誰か立派な人をさがしてるのだと思つてゐなさるだぞ。そんでうら明日の夜あけるまでに、早速その事を一言郵便車で行つてやらにアなんねえだ。

町の方へ出て行く。

ホスチイ　それぢや一體この廣い三千世界で、わしら誰を一番えらい人としてさがし出しやええだ。

マラチ　（立ち上つて人々の方へ來る）あんたら、えれえ人の名捜してゐなさるだか。

コステロ　うんさうよ。それと一緒にその人の姿像もほしいだ。

マラチ　そんならへえ、何も骨折れる事でねえすぐあるだ。わしあんたに一人のえれえ人の名

聞かしてあげる事出來るだ。その人の名ア、一度は風に吹き飛ばされたやうに忘れられてゐただけれど、それが今度また、ひよつくりと戻つて來ましただぞ。この名を持つて來たのが、また唯事でねえだ。それが不思議だわな。いくらあんたらだとて、この人が一番ええと云ふのとまさか無理たア云ふめえ。

コピンガー　さうかも知れん。それぢや全體、その人ちうなア誰だ。そして今どこにゐなさるだ。

マラチ　今生きてる人なら、あんで不思議を使ふ必要あるもんでねえ。もし今の世の人だら、自分で何とでもしてあんで人手を借りるもんでねえ。

コピンガー　そんだらそれ誰だか云つてみろ。

マラチ　その人、住みなれて親の家を捨てて飛び出し、そして世界中を放浪して國のために爭つただ。

コピンガー　過去七百年の我々愛蘭土人の間にア、さういふ事した人アいくらもある。それぢやその人アきつとサースフイールドの後をついて亡命しただな。ライメリックの密謀が破れて。

マラチ　その人ア英蘭土に反抗して亡命しただ。

ホスチイ　ハーン、ぢや九十八年の時の人だな！

マラチ　で辛うじて英國政府の手につかまつて殺されるのを逃れただ。

コステロ　ぢや四十八年の時の人だ。九十八年の時の人で逃げおうした人は殆んどなかつただから。

コピンガー　無學の昔の人はいろんな話を間違へて傳へてゐる事がある。一體その人の名は何ちうだか、それう云はにやアその人何だかわしらに解んねえ。

マラチ　その人の名ア立派な名だよ。世界中の大評判になるやうな立派な名だよ。その名を世界の人に思ひ出さすのがそれがこのわしの役であるだ。わしの着てる着物は汚ねえが、わしが擴める話は立派な話だ。あんたらの中に誰か、ヒュウ・オウロラぢう名を聞いた人はねえかな。

ホスチイ　はてな、つひぞ聞いた事がねえ。どうもこの男の云つてる話アあんまり一生懸命に聞いてると終にアうらたちまで馬鹿になつてしまふやうな取とめもねえ馬鹿な話のやうな氣がするぞ。

コステロ　どうも聞いた事がないと思ふ——だがひよつとすると聞いた事があるかも知れん。

コピンガー　その名がもしも偉え人の名だといふに、それうこんな山奥の羊飼ひなどが擴める役だぢう事アねえ。第一、この俺がつひに一度も聞いてねえぢう事アねえだ。

自分の家の方へ歩いて行き、その入口の所へ腰を下ろす。

ホスチイ　山奥の奴等アしまひにアこの國中をひつくりかへしてしまふかも知れねえ。われのやうな、さういふ手もつけられねえ半氣狂ばつかりで、世界中のどんな事にでも遠慮なくすぐに口ばし突込む。

ホスチイはペギイ婆さんの家の入口のところへ腰を下ろす。

コステロ　（ホスチイに）どうもこの男の頭ん中アー、お月様がかけて來るとその度に、影がさすらしいだよ。あの男アやつぱり山陰の自分の家へ歸つて行くが一番ええやうだね。

ミセス・コピンガー　（戸口で）いつも惡りい人間ちやねえが、しかし惡りい人間でねえ奴は、利巧な人間でねえもんだて、こんな男相手にしてロイ利いちや、話す方も聞く方も兩方とも無茶苦茶になつてしまふだよ。

ホスチイ　あの男が、わしらに教へてくれただよ、ヒュウ・オウロヲの銅像を立てよだと云ふ事を。

ミセス・コピンガー　あゝ、さういやアさつきもこの男アわしの頭ん中へそんな話を詰め込まうとして散々わしを挺摺らしただよ。この男、何だか板つ切れを大事にもつてるだよ。そしてそれう胸ん所へ抱き締めてるだ。

コピンガー　メリイ。お前一つ話してくれ。お前は馬につけても運び切れぬ程澤山に歌の本を持つてるだが、その中にどつかにヒュウ・オウロラちう名の入つてる文句を見た事アねえかな。

マラチ　それアねえに相違ねえ。さうその名前もうへえ歌の中に入つてゐる位えならあんで石塔や記念碑を作る必要があるもんで。その名が歌になつて世間で歌はれてゐるだら、誰だとてもうそれで十分だと思ふでねえか。わしが悲哀に思ふなア、今まで遂にこの人の名詩の中にも歌の中にも唄はれてるのを見た事がねえでのこんだ。そんでねてうら自分で歌も詩も作り得ねえで、それが堪んねえだわな。

ホスチイ　饒舌りたきアわれ夜が明けるまでも饒舌るがええ。だが、ここはうらたち相談しる事があるだから、どこかよそへ失せやがれ。

マラチ　（隅へ引込みつゝ）うらあの人のためにその名立てられるやうにと說いただ。うらがしやべるのはあの人のためだ。（石の上へ腰を下ろす）

ホスチイ　さあ、もうぐづぐづせずにさつさと事をきめにアなんねえ。ええかな、いよいよ此村へ銅像立てるとする。そこで評議員だとか代議士だとか監督だとかいふ衆がみんな一體わしら誰れの銅像を立てるちうだがその人の名前を聞きたがつてるちうだ。さてそこで一體今迄愛蘭土から出た人の中では誰が一番偉くて、敬ふべき人であるだかな？　どうだ君らの意見は？　ダアビイ・コステロ、君は何か意見はねえかな。

コステロ　うらそんな事聞かれちアへえ全く困つてしまふでねえか。うらにアとてもそんな、どんな人でもが賛成しるやうな、そしてどんな人でもが悪口いはねえやうな人の名なぞ思ひ出せるわけねえだ。それあミセス・コピンガーに聞いてみるがええ。あの人は此村中で一番の歌の唄ひ手ちう事になつてゐるだもの、その歌の中に讃めてある人なら誰でも讃めてゐるづらに。

ミセス・コピンガー　誰が一番偉れえか、そんな事わけねえでねえか。

コステロ　（溜息をして）いいんや、わけねえ事でねえ。難かしい事だ。

ミセス・コピンガー　（歌を唄ひ出す）

身命賭して至るところ、
身は罵られ縛られつ
母國の爲に戰ひし
彼が名誰か知らざらむ。

コステロ　うまいもんだ。ええ聲だー

ホスチイ　ヒヤヒヤ。おくさん、もう一つ。

ミセス・コピンガー　（一歩前へ進み出し）

愛蘭土の敵を惱ませ
わがグラニエイルをかばひたる
その雄辯は、雷か。
ウエリントンといふなかれ
オウコンネイルの名の前に
誰が名の譽れ優るべき

コステロ　全くだ。本當だぞ。「オウコンネイルの名の前に、誰が名の譽れ優るべき。」

コピンガー　本當にオウコンネルの辯舌は神様特別の天才を下されただ。その原因ちうものはどうしたにしても、あの人の偉れえちう事にア變りはねえだ。

ホスチイ　この世の中に住んでた人間の中であの人はふんとうに一番のえれえ人だ。あのアア誰一人道に迷せた事がねえだ。

ミセス・コピンガー　あゝいふ人を此世に下して下さつたちう事アふんとうに神様に御禮しにアなんねえだ。あの人を代議士に出した時は全く、あのエニスの町は、愛蘭土の國三十二郡の中の一番の町でなかつたか？

コステロ　「一千八百四十七、遂ひに我等はオコネルを、グラスネビンに葬りぬ」うらへえ、ともおかみさまのやうなええ歌唄ひではねえ。

ミセス・コビンガー　盃の中に毒があつた時、あの人はその盃から毒を投げ捨てなされただ。その毒アあの人信心深い人であつたからあの英蘭土人めが入れておいた毒だよ。わしイ一度本の中であの人の畫を見た事があるだ。うら本當の事いふだがその時、その畫に接吻しただよ。

コビンガー　オウコンネルの畫！　いんにやうら本物のあの人を一度ガルエイで見ただよ。うらあの人の側へは行く事が出來なかつた。世界中の國の人がみんなあの人を見ようとして一杯だつたから。

コステロ　あーア勿論うら本物のあの人見ただとも。うら其後もへえあんな偉れえものを見た事アねえ。オウコンネル樣ア靜かに町をお通りなされただ。頭にア油じみた帽子を冠つて、そしてたゞ一匹ぎりの馬に曳かして行きなされただぞ。

ホスチイ　おう俺が見た時にアあの方は、七ツの馬に曳かれた馬車に乘つておいでなされただぞ。八つにしる事ア出來んだからなア。

コビンガー　ああ！　あの御方アもしうらが作つたら、それえどんなに立派な銅像で、どんなにすばらしい記念碑出來るだか！　――

コステロ　おゝそんぢや、お前やるかな！　片手をボストの上へ置いて、合併廢止案の書狀を手に持つて胸の所まであげて――

ミセス・コビンガー　いんや、その紙にア、「解放」と書いてなくちやいけねえ。そしてあの人の他にア誰一人傍に立つててもいけねえ。

コステロ　それぢやもうさう決つただ。非常にええ具合にきまつただ。これやへえ全く申分ねえてんだ。一寸も云ひ合ひも喧嘩もねえで決つたちうなア、ブライヤン・ホスチイ、お前が一寸も角立てたりねぢくれたりしねえでムンスター生れの人の記念碑を立てるのに滿足して承知してくれたちうなあ、全くへえ立派な事だよ。

ミセス・コビンガー　そんだとて、何にオこの人がムンスター生れのものに反對しる事が出來るもんだ。ムンスター人は愛蘭土のどの他の土地のもんより偉くて立派な人間であるだもの。

ホスチイ　うらそんな事認めてるわけでねえだぞ。

コステロ　お前さうしるのが本當だもの、認めた事になるでねえか。銅像――立つてるのを見る人アみんな、お前もわしらと同じ考で同じ意見だと思ふでねえか。お前もわしらと同じムンスター人をほめてると思ふでねえか。

ホスチイ　うらあの時今ほどの智慧があつたら、うらわれなぞのいふ事を承知するもんでねえ。われたちがうらが地方へ走り込んで來るやうな隙を與へたり、われたちをはびこらすもんでねえ。

ミセス・コビンガー　そんだらお前はコンノート地方の人間の中に、どの人でも異存いはねえやうな偉れえ人が、だれがあるちうだ。ムンスターの人らと名ア並べる位え偉い人が、誰があるちうだ。ダン・オウコンネン。スミス・オウブリアン。ブライアン・ボヴリウ。オウスリバン・ビーヤ。――

ホスチイ　あゝうるせえうるせえ。うらもうへえそんな過ぎ去つた昔の英雄の古臭え名は耳にたこが當る程聞いてるだ。そんな人ら今はもうみんな何もかも過んでしまつてるでねえか。そして、今ちやへえ一握の骨殘つてる他に何があるだ。だがな、コンノートの勇士らア今現在に戰つてるだぞ。銅像立てるなら誰か今生きてゐてムンスターにゐる人の銅像立ててみるがええだ。

コステロ　あんで生きてる人の銅像など立てる事が出來るもんだ。終ひになつてその人に反對しるやうに變節しるものが出て來て、その人を叩き落してしまふだかも知れんでねえか？

ミセス・コビンガー　（そつとコビンガーの方へ行つて）爺さんや、決して決して、今生きてる人の似顔などを始めるでねえぞえ。もしもその人の近所の衆でも見に來たら、これはあの人にア顔つきや姿が似てないなどと云ふと大變だからね。

ホスチイ　生きてる人でも死んだ人でも、うらムンスター生れの奴なぞどんな奴だとて讃めるもんでねえ。ミセス・コビンガー。あんたア餘程うぬれを偉え氣になつてゐて自分はうらよりもまさつてゐると思つてるだな。だがな、たとへオウコンネルが立派に仕事をしたからとて、クロムエルが走り歩りいた時代に、われがムンスター地方から誰か一寸でもそれう恢復出來るやうな人が出ただか、うら俺が死ぬ時が來て息を引止るまで、そんな土地の奴などなんで一言だとて讃めてやるもんでねえだぞ！

コビンガー怒りの餘り跳び上る。

コステロ　（彼を制しつゝ）まあまあ一寸くり待つてくれッちやア。そんだら二人が承知の出來るやうな人を誰か考へる事にすべえ。――えーと、それぢや、あー一人ゐるだ西からでも北からでもねえ人が。あのパーネルだわな。この人が今迄の人間の中で一番偉れえ人だと云つてる人もあるだ。

コビンガー　うんんにや、パーネルぢやねえ、オウコンネルが一番偉れえだ。オウコンネルを見ろ、議會の中で帽子を冠つてゐただぞ。こんな事王樣の他のもんにア出來ねえ事だ。

ホスチイ　議會の中で帽子を冠つてゐなかつただとても、パーネルは議會では誠に立派に敵と闘つただぞ。

コビンガー　もしもオウコンネル樣アゐなかつたとしてみるがええだ。英蘭土の議會にアへえ

全く、カトリック教のもんが一人なしになつてしまふ所でねえか！

ホスチイ　もしカトリック教の判事が一人もゐなくて强壓政治を叫んで、陪審制度がなくなつてしまつてるだがどうしるだ！

コステロ　パーネルといふ事に決めるが一番ええだよ。うら話に聞いただが、もしパーネルが持ち堪へる事が出來ただら、英蘭土にも一度對抗しる事が出來たらうちうこんだよ。

ホスチイ　この人ア誰よりも一番に立派にやつた人だとうら斷定するぞ。そしてこの人が今日まで生きてゐただら、愛蘭土は全くへえ、今のやうな狀態たアまるで違つたもんになつてるに相違ねえだ。

ミセス・コビンガー　爺さんや。この人のいふ事ア決して聞いちやいけねえだぞ。さうとも、わしイあの人の肖像を壁に張つといただが今ぢやもうへえ下ろしてしまつただ。和尙樣がこれアかういふ所に掛けといちやいけねえと仰しやつただから。

コステロ　あー！　皆んながこの人にアたつた一つ反對してるだ。だがそんな事、神樣がさうおさせなされたといふより他わしらに何ちう事がいへるもんでねえ。

マラチ　（突然彼等の中へやつて來る）見なさろ！　わしイ捜し出した人をあんたらが承知しなさるやうにあんたらの間にア云ひ合ひが始まつただ、喧嘩が始まつただ、殺し合ひが始まつたでねえか。たとへあんたら最初にわしが云つけた人を承知して下さらねえだとて、終にアあんたらア嫌でもこの人を承知しにアなんねえやうになりますだ。わしイ今に銀のピカピカの銅像が建てられ、その上に赤い金で文句を書かれた銅像の立つのを見るやうになるだ。

ホスチイ　だまらねえだか、マラチ。惡魔ア貴樣の口をふさいでくれるとええだ。うぬれのやうな智慧もねえ痩せ犬、うらたちの話へ口を入れるちう法がねえだぞ！

コビンガー　この野郎、早く正氣にならんだか、いつまでもうぬれの魂ぶつ飛んでしまふやうなお月樣の光にあたつてゐると、われ終にア、自分が心で一番ええと思つてる事を云ふとしても、それが一番惡りいと云ふ言葉になつて出るやうになつちまふだぞ。

マラチ　わしを馬鹿にしちやいけねえだぞ。うらたとへ、このドルイナカンの岬中のものみんなよりも、うらが手に持つてる小さい板つ切れの方大事だと思つてるだぞ！

コビンガー　ナナ生意氣な！　マラチめが、うらたちは物を習つてるだぞ。物を敎へられて育つて來ただぞ。うぬれが何一つ物を知らねえくせに。

マラチ　世の中の奴は皆盲だ。一人も物のわかる奴アねえ。

コビンガー　いいや、舌の先にユダの心の樣な毒をもつた奴がゐる。何ちう惡りいこんだ。

マラチ　うらが事を彼れ是と、お前さんこそ手前の舌ア愼しむがええだ。お前さんは弱い者窘

めちうだ。弱い者窘めの總大將だ。

ミセス・コピンガー　お前一體何うしたんだ。いくら腹ア立つたとてそれア一體何ちう行儀だ。われも、われのこのヒュウ・オウロラちう奴も、きつとどこか異國人か何かで偶像ででも拜む奴に相違ねえ。神樣の十誡一寸も守らねえ奴だらう！

マラチ　この人が何だらうとわれ知つたこつてねえ。うらこの人のためなら、地獄の北の隅に七年でも行つてやるだぞ。われたち束になつて來たとてこの人の髪の毛一筋の値打もねえだぞ！

ホスチイ　これへえどうしても、この野郎の大事な人も此野郎同樣な、馬鹿か氣狂仲間に相違ねえ。そんでなけアこの野郎が、かうへエ夢中になつちまふわけがねえ。（皆どつと笑ふ）

マラチ　われたちよくも笑つたな。われたちうらが大事な人を侮辱しただな。ようし、そんだらうらわれらに吠面かかしてくれるだ。さあ、うぬらが頭ア片つぱしから、壁に石つころぶちつけるやうにカチリカチリと、ぶつ食らはしてやらう。

マラチ板つ切れを振りまはす。

コピンガー　あの丸太ン棒たたんぢまへ。この乞食野郎め！

マラチ　さあ、うらひつぱたいて石こつぱア飛び出さしてやるだ。この七面鳥のぶくぶく野郎

め！　さあ來い。うぬら一人殘らず消し飛ばしてしまはにア置かねえ。（四人はその板をふりまはすマラチを四方から取圍んでつめ寄る）殺せ、殺せ、何にウうぬらに負けるもんだ！

掴み合ひの亂鬪、どつとマラチ倒れる。

ミセス・コピンガー　あつ！　あんたマラチを殺してしまつただか。

コピンガー　なーに、死んだわけアねえ。野郎氣イ失つてしまつただ。

ホスチイ　この野郎、命に別狀なかつたたア馬鹿にア運がよすぎる位えだ。

マニョン上場。

マニョン　まあまあ靜まらんか靜まらんか。お前さんら何だとてこの人をこんな目に遭はしただ。へたばつてしまつたでねえか。

コステロ　何へえ、それアこの野郎の方がわしらに掴み掛つて來ただわな。まるでへえ畠ン中で牛が暴れ出したやうに。

ミセス・コピンガー　こいつ、石の上へ頭アぶちつけた拍子に、腦の中、出血しただな。もうこの上はこいつもどうにもなるめえ。

コピンガー　この下ア丁度今バレーボハンへ出る船があるから、あれにこの野郎乘せて行つてもらふが一番ええ。さうすれア、夜明けねえ中に病院へ連れて行く事が出來るだ。さうすれア

その時分にア正氣もどるだ。マラチ。やーいマラチ、われ立つ事出來ねえか。マラチやーい。

マラチ人々に支へられて立つ。マニョンとミセス・コビンガーがマラチを舟着場の方へ連れて行く

マラチ歩きながら叫ぶ。

マラチ　時が何よりの證據人だ。お前らまだまだ、きつとうらが仕事をやらにアなんねえだぞ。そして終にアあの人の名前は七つの王國中に歌はれるやうになるだとも。天のおさづけなされた事は、人間がどうしたとて無くなるもんでねえ。うら饒舌るのはあの人のためだ。うらあの人のためだ。

マラチ連れ去らる。

コステロ　ふんとに馬鹿なこんだ。わしらあんなに、おだやかに、滿足して話出來かけてゐただに、あんな奴出て來てすつかり無茶苦茶にされてしまつた。

コビンガー　なに、まだお前、も一度相談しなほす位えの時間は十分あるだ。わしらまだ愛蘭土の御聖人樣たちを考へてみなかつただぞ。それに、バーレンの十七人の王樣の事も忘れてゐただ。

ホスチイ　うらにはもうへえ始めから二人の人が反對しるだもの、何で今さら又一度考へ直す事なぞ要るもんでねえ。うらが誰かを入れようと思つて一生懸命で骨を折ると、いつでもうぬら二人は一緒になつてうらがいふ事をぶち壞すでねえか。

マニョン及びミセス・コビンガー歸つて來る。

コステロ　わしら近所の者同志で、お互に反對し合ふちう事ア馬鹿氣たこんでねえか。「お前らは一つになれ」とビヂイ・アーリイ樣ア仰しやつただ。「さうすれば全世界でも從へる事が出來る。」と、何事でも親密にやるちうのが本當だ。まるで選擧の討論のやうに、毆る、蹴る。「人が「かうだ」といふと又一人は「あゝだ」と云ふやうちやいけねえ。

ミセス・コビンガー　わしも一度エニスで誠に見つともねえ選擧を見た事があるだよ。それは丁度今から投票が始まるちう前だつた。

コステロ　ふんとうにあんたアいくらでもええ事を思ひつくお人だねえ。ミセス・コビンガー。さういふえゝ事を思ひつきアどんなことでも片着くもんだ。わしらだとて、その投票で選擧しるが一番ええだ。さうしれアもうへえ何も云ひ合ひするが所は一寸ねえ、どれにするちう事もすぐに決つてしまふ、おだやかで公平で、えこひいきなんちう事ア更になしで。

コビンガー　そんな事をして、そんな事アわれあゝいふ大つけえ投票函だとか投票用紙だとかいふものがどこにあるだ。大きい選擧所が要るだし、そこにア番人が二人きり坐つてゐにアいけねえ、それから——字イ書けるなら——投票人は字イ書くだ——そんでねえなら、てんでに、

うぬが札ア入れようとしてる人の名ア呼び上げにアなんねえだぞ。

コステロ　なに、書記だとか紙だとかたア何ちうこんだ。今あんたペータア・マニョンに何と云つただ。わしらもさうすれアそれでええだ。あの人んとこへ行つて、そつとわしらア心ん中できめた人の名を云ふだ。さうしるとこの人ア誰に札ア落ちただか云つてくれるだ。

マニョン　（進み出て）そんだらあんたら、聞えねえやうにもつと後へ退りなさろ。それから、一人づゝ順にうらがところへ來なさろ。

コピンガー　さうさう、そいつアええ。それちアわれアぢつとしてそこに立つてるだぞ。それこそまるでもうへエそこへ銅像出來上つて立てたやうなもんだ。さうしるとうらたちア一人づつ芝生の稻叢んとこまで行くだ。

マニョン　（眞直ぐに身をそらして直立す）お前さんら、愛蘭土の擁護者の中で、誰でもええから一番に記念碑を立てる値打ィある偉い人だと思ふ擁護者の名を、ここへ來てわしにこつそりと云ひなさろ。それが濟むと、それからわしイ勘定をして、誰に札が入つただか聞かしてあげるだ。

コピンガー　そいつアええ方法だ。だが今度ア、わしら三人の中で、一番始めに札ア入れるのは誰にしるちうだ。

ミセス・コピンガー　それアへえ、ピータア・マニョンが決めてくれるがえゝわな。この人ア交際社會や組合の集會にも馴れた衆だから。

マニョン　そんぢア皆さん、名前の「イロハ順」で來なさる、エイ、ビー、シー、シー、コピンガー！　……おツとコステロかな。シーオウ、コピンガー。シー、オウ、コステロ。やア、こいつア難かしい事になつたぞ。二人の中では一體どつちが先になれアええだか。

コステロ　そんなら、トーマスを先にしなさろ。うらどつちみちへえ、皮切りやるなアきまりがわりいだから。トーマスが最初、それからわしが出掛けるだ。

みんな物影へ去る。ミセス・コピンガーは家の中へ入る。

マニョン　さあ、そんならトーマス來なさろ。そしてお前さんの意見と、良心と、それから望みとで、お前さんの投票をしなさるがええ。

コピンガー　（上場。そして手を口の所へもつて行きいかにも祕密らしく云ふ）　わしが考へるとな、ピータア・マニョン。先刻うちの婆さんが云つてた事アまことだよ。人間の似顔姿を作るちう事やみんなよく知つてる人の姿作るちう事アとても難かしいだよ。そしてそれうみんなが彼れ是れいふとなれア、餘程へえ上手にええ具合に作らにアなんねえ。だが、その人どんな人だか知れねえ人だら、どんなものを見せたとてそれで通るわけだわな。それに、どんなたちの石だと

てわけなく出來るだよ。だが　どんな人だとて、繪で見たり、本當に見たり、歴史の中で段々と讀んだりしてゐて、バルネルや、ダニエル・オウコンネルを知らねえちう人ア一人もねえだ——

マニヨン　何をぐづぐづ云つてるだな。わしイ今こんなとこで何とかしてこつそり戸口からぬけ出さうと思ひ乍らお寺で坊様の説教聞いてるのたア違ふだよ。

コピンガー　あんたどつかで、マラチ・ノートンのいふ人はどんな人だか、その人の畫でも見たちうやうな人を聞いた事があるかね。

マニヨン　そんな人は思ひ出せねえなア。

コピンガー　そんならわしイ、誓つて、そして、あのヒュウ・オウロラに札ア入れるだよ。

コピンガー、云ひ終りて自分の家へ入つて行く。

マニヨン　さあ、次の衆來るだぞ。わしのすぐ側へ來なさろ。ダアビイ・コステロ。

コステロ　（マニヨンのすぐ側へ行き）わしモウ何度云つただかわからねえだよ。ピータア・マニヨン、近所のもん同志で仲がわりいちう事ア淺間しいこんだと。そんでわしイ決して自分で云ひ合ひを始めた事なぞもねえだし、他人様に喧嘩ア始めさせた事もねえだよ。

マニヨン　あんたア一體このわしを、こんな氷のやうな寒い夜中ちう立たして置いて凍え死なすつもりでゐるだか。

コステロ　（マニヨンの腕をつかみ）お前この村に住んでゐてみなされ。又この村の近所にゐてみなされ、容易なこんでねえだぞ。ピータア・マニヨン。もしうらがダン・オウコンネルだと云やア、ブライアン・ホスティはそれこそ、このわしに、食らひついて來るだ。それからまた、もしうらがバルネルだと云やア、ミセス・コピンガーはわしをつつき立ててわしに食つてかかるだ。さうすれアへえ、トーマスもきつとわしの名前の字をわざと間違へて彫りつけるに相違ねえわな。わしイもし死んだなら石塔作つてやるとトーマスとちやんと約束出來て——

マニヨン　（彼をふり拂ふ）本當にお前様、うらがいふ事を聞かねえだか。もううら行つちまふだぞ。いつまでもわけもねえ事ばツかりつべこべと、そんな事あ、空ア吹いてゐる風か、水ん中にゐる川瀬にでも聞かしてゐるがええだ。

コステロ　（マニヨンをつかむ）どうしたら一番ええだか、ええも惡りいもみんな贊成してくれるにアどう云やアええだかちう事アいへるもんでねえだ。そんでうら心から望んでるのは、誰も腹ア立たねえやうな人の名だよ。一寸ぴりとも敵をもつてねえ人の名前だよ。——そんでこれアどうした所であの山奥の羊飼が云つてる、ヒュウ・オウロラだよ。

コステロ退出す。

幕

マニヨン　さあ今度あブライアン・ホスチイ來るだよ、そして早くうらを行かしてくれにアうら困るだ。

ホスチイ　（入って來る）この村にア、うぬれが御立派な腕前をふるひたくて堪らねえでゐる先生あるだよ、一人。（コヒンガーの家の戸口を指しながら）あいつと、あいつの火の玉だよ。

マニヨン　さつさと云ひなさろ。

ホスチイ　あいつらアあんまりええ氣をさしておいて、一寸も頭ア制へてねえぢアとても側に住んでゐられねえだよ。捨てといたらあいつら力味アがつてマルマルチン・ルーテルよりも惡るく暴れまはるに違ひねえだよ。

マニヨン　何をぐづぐづ云つてるだ。それよりも、お前さんあの二人の衆ら選んだ人を承知しるつもりだか。あの衆らは今同じ人を選んだだが。

ホスチイ　なにあいつら二人は一致しただと。それちやあいつら腹ア組んで、このうらとうらのコンノートとをええやうにしる積りでゐるに相違ねえ。わしイ嘘なぞつひぞ一言だとてついた事アねえ、たんだ二度か三度あるきしだ。だからお前うらがいふ事信じてくんなさろ。ええか。たとへダン・オウコンネルが二百人ゐたとて、ミスター・パーネルが二萬人ゐようと、そしてあいつらもしもうらが投票したら一票十圓くれると云つたとて、うらこんな奴にアどつちへでも入れるこんでねえ。そしてうらが入れるのは、うらが間違なしに入れるのは、きつとへえダアビイもトーマスもそれからあの婆もきつとへえいつまでででも惡口をいふに相違ねえ、決してへえ讃めるやうな事のねえ、あのマラチの馬鹿がかついでゐる、ヒュウ・オウロラだ。

マニヨン　（他のものを招き入れて）さア皆さんもうここへ來なさろ。さあ、ミセス・コビンガーも來なさろ。今からわし報告しますだ。私はここにエヘン。ドルイナカン岬の、最も立派なる三人の衆の、三人の選擧人の衆の、判斷と意見とによつて、しかもその三人の衆がまるでへえ、一つ家の子のやうに皆一人の人に投票されまして、この岬に銅像を立ててその名譽と記念とを傳へ、その偉大なる名譽と功績とを後世にまで傳へんとする人は即ち、ヒュウ・オウロラであります！

一同　ヒュウ・オウロラ！

人々手をあげて驚く、そして皆お互に顔を合せてあきれる。

――幕――

第三幕

舞臺 前幕と同じ。但し四日後の事。眞晝中。ミセス・コピンガー椅子テーブル等をならべたり掃除したりしてゐる。コステロはそれを見てゐる。

コステロ　これアまあ大した宴會になるに相違ねえ。ドルイナカンの濱にとつちや今日は全く晴れの日だよ。わしイ石板と鉛筆があつたらこの道を通る人の數を勘定して書いときてえと思つてゐる位えだ。

ミセス・コピンガー　四日前まではこんな事夢にも思ひも考へもしなかつたが、もうへえ今日はその記念碑の土臺石を据ゑに來て貰ふなんて、全くへえ目がまはるやうに忙しいこんだねえ。

コステロ　その筈だとも、四日前にはあの鯨めまだぴちぴちしてゐただからねえ。

ミセス・コピンガー　あの鯨ア今どうなつてるだかねえ。わしイ一度見てえだがそれがどうしても出來ねえだわな。近所の衆は至る所から出て來て、みんなまあその話でもち切りだけれど。

コステロ　うらとてもたんだ一度行つたきりだよ。それもその時ア近くまでは行けなかつただ。何でもトーマスが話してた樣子ぢア多分この次の日曜日あたりに、神樣の御助けを願つて、愈々油ア採り始めるちうとんだ。

ミセス・コピンガー（椅子のほとりをはたきながら）これで椅子は集まるだけすつかりだよ。勿論あの衆らア何百人と御座るだから、お掛けなさるたア思はねえけれどね。あの中には一人も西愛蘭土の人アゐなさらんだからねえ。

コステロ　おかみさん。あんたアふんとにあの衆らの事は何事でもよく盡力して下さつただねえ。あの衆ら立つてゐるやうに場所を作つたなアよかつたよ。わしイ方々で集つてるのを聞いた所ぢアいくらあんただとて十人か二十人づゝピン留めにしとくわけにも行くめえと云つてただよ。みんなへえ演說聞かうとして押し合ふに違ひねえだよ。人の評判ぢア何でも評議員の局長さんちうなアすばらしいしつかりした辯士だちう事だよ。

ミセス・コピンガー　さうだとも。北ムンスター會員で一番だよ。それアへえ堂々としてあの人ア演說しなされてそれでその演說聞いてるとまことに趣味ちうものが盡きねえだよ。その話をした人たちでもとても眞似も出來んし、あの人の半分にも及ばねえわな。

コステロ　（塀越しに遠くを眺めながら）ははアあの濱邊へいくつも天幕や掛小屋を作つただね。どうだね、素晴しい勢ぢやないかね、あの衆やつて來るのを見てるとまるでへえ芝居見るやう

ちやないかね。みんな大潮を待つてるだな。あんたも、このまア長い間何か面白え事を待ち焦れてゐなさつたねえ、ミセス・コピンガー。だからまア今日のやうな日は一日、ええ氣持で過しなさるがええ。

マラチ左手から入つて來る。腕と頭とを繃帶してゐる。

ミセス・コピンガー　おおマラチ・ノートン。今日の宴會にア第一にお前が來ねえぢアなんねえはずでねえかな。それう一體まア何んちうこつたな、そんなへえまるで幽靈が迷ひ出したやうな顏をしてるたア。化けものになつて此世をうろついてる魂みてえな顏をしてるたア。

マラチ　（地面をじろじろと見廻しながら）うらが置いてつたなアこの邊だ。たしかにうらが手を放したなアここんとこだ。

ミセス・コピンガー　救民院ぢやあそこの衆はお前をどんな事して療治してくれただなマラチ。本當の事いふがわしイお前はヘエとても此世のお飯ア食へめえと思つてゐただよ。

マラチ　うらたゞ闘つて爭つただけだ。――闘つて爭つただけだ。――お前さんわしが持つてたあの板つ切れどつかで見かけなさらなかつたかね。

ミセス・コピンガー　板つ切れといやア竈（カマド）の下ア焚きつけに拋り込む他にアわしは見ねえなア。

マラチ　それアへえうら困つた事でねえかな、うらあの板つ切れを盜まれてしまつただよ。あの板つ切れは遙々と波の中ア渡つてわしの手に入つて來ただ、海の種々な危ねえところを渡つてわしの手に入つて來ただ。そしてあんたも知つてなさる通りあれにア名前が書いてあつただ。もしあれうらがとこから無くなつてしまやアうらもう――

ミセス・コピンガー　それアお前燒けてしまつた家はどうしたとてそれを又二度見るちうわけにはいかねえさ。だが、お前の胸ん中のもだもだはすぐに晴れるだわな。お前が一生懸命のあのヒュウ・オウロラちう名は、今にしばらくすると立派な字で書かれるばかりかその上へは、その人のまるでへえ生きて物を云ひさうな正身の銅像が立つだわな、この村へ。その姿ア今日ダブリンからここへ屆く筈の畫や設計圖によつてうちの爺さんが彫み出して呉れるだよ。

マラチ　聞いただとも、うらもその事ア聞いたゞとも。うら始めから、貴方たち何と思つてゐたとて終にアあの人の銅像を作るやうになるに相違ねえと思つてゐただ。この事ア世界中に擴まるだ。そしてあの人を敬つて東からも西からも、みんながわざ〳〵來るやうになるに相違ねえ。だが、わしイあの板つ切れ無くしてしまつたんぢや、わしイあの人に對して申譯なくなつてしまふだ。

ミセス・コピンガー　そんぢや救民所の病院にまであの事アすつかり知れてゐて、お前はあすこで聞いただと見えるね。本當にそんなに早く知れ渡るたア何ちう恐ろしい事だか。

マラチ　それアへえ、病院ぢや一昨日から皆口々に云つてただよ。お醫者様アわしが骨からバケツ一杯になる程の惡血を絞りなされただから、わしイひいひいと云つて叫んでゐただが。わしが體から出た血は三人の人間の體ん中にあるよりも多かつただ。それでもわしイその話を聞くとすぐ、飛び起きましただ。

ミセス・コビンガー　あんな身動き一つ出來なんだお前を、よくまああの衆はかうして出してよこしたもんだね。

マラチ　何んであの衆らの許可アもらつて出て來るもんでねえ。わしイ丁度日イ暮れかけて半分位夜が賣めかけて來てるうす暗がりを幸ひ、內密でこつそりと拔け出して來ただ。路はへえいつもの十七倍も遠かつただが、わしイいつもの半分だとも思はなんだ。わしイ強くなつて、まるで水の上でも歩ける位えだつた。あの人の名前と銅像とが立つちう事を考へると、魂はまるで風のやうに輕くなつてしまつただよ。銅像立つてみなされ、まるでへえ霜夜の星のやうにキラキラと光り輝くでねえか。そして國中の人がそれう拜みに押し合ひへし合ひしるやうになるちうだもの。

ミセス・コビンガー　そんなキラキラ光るちうわけには行くめえと思ふよ。それにア大理石を使つて磨かにアなんめえ。それにドーマスの鑿にア堅すぎるだよ。そして大理石ちうと黑だとか斑だとかで色がよくねえだよ。あの人きつと胸板眞白のシツツを着てゐたに相違ねえ。——一體あの人アどんな人だつたか。色淺黑い人だつたかそれとも赤毛の人だか。

マラチ　その事ならそれこそこのわしが教へて上げる事が出來る。

ミセス・コビンガー　お前にそれがどうして出來る。あの人アもう死んだんでねえか。

マラチ　どうしてと云つて、うら夜になると逢ふだもの。

ミセス・コビンガー　それぢやアお前、あの人の身內かあの人の友達に逢ふちうのか？

マラチ　あアうらまアこの話しねえぢや、胸ん中はち割れてしまふだ。うら四里たつぷりの山アー越してゐただ。うら石の小道を歩いてると行く手に見えるものア何もかも闇ん中に冴え返つて光つてただ。——さうするとそこにア、ハーリングの時より澤山の人がゐるでねえか。うらもうあんな立派なところは極樂でなくちや見られるたア思はねえ。

ミセス・コビンガー　それぢやアその人ら一體何處から來なすつたのづら？

マラチ　二十の市場に集つてる人を一緒にしたよりも多ぜいだつた。うら今まで見た中の一番立派な衆の一族十二集めたよりまさつてゐただ。そしてその衆らの前、多ぜいの馬に乘つた人がかけ廻つてゐただ。わしイ此世に生れてから見た馬駈けなぞはその時この衆の乘りまはしたのに比べるとへえ馬駈けどころか馬の尻イちよくちよくつゝいてるちう位えのもんだ。——そ

してその中に一人一寸も曲らねえ人がゐただ。――はじめその人の體にやア霧のやうなものがあつただ――

ミセス・コピンガー　なんだ、それアお前夜中に何か幻見ただな。それでなけや何か自分でそんなもの見たと思つただよ。それア何に、何でもねえ、誰かの魂を見ただよ。それともこの世でねえ人等の幻だよ。それともあんたア寢てるうちにいつかしらずそんな夢になつてしまつたのづら。

マラチ　（飛び上って）あんたア何をいふだ。夢などぢやアねえ。そんな事いふなら自分で夜中に出て見るがええ。あんたが行つたぢやア唯石つ原に山菖蒲生えてゐるきしだ。かういふもの誰でも見えるちうわけのもんでねえ。わしイもうへえあんたにやア何にもいはねえ。何にもわしイ云はなけアよかつた。あーあ、あの板つ切れ失はにやアよかつた。

コピンガーの家の中へ入つて行つて落ちてゐないかとさがす。コピンガー上場。

コピンガー　うら、お前がきつとびつくりしるやうな話を聞いて來ただぞ、婆さんや。お前、それう聞いたらどんなに喜んで安心するだか。

ミセス・コピンガー　もう此頃のやうにいろんな事ありつたけ續いて起つてるだもの、この上何を魂消るもんでねえ。もしわし朝になつて目え醒ましてみるとそこがボストンのでかい家の中になつてゐたとて、わしイ誓つていふだが、雛つ子卵子の殼ア突つき破つて飛び出した程も驚きアしねえわな。

コピンガー　（テーブルの所へ腰を下ろして）お前、ホスチイとコステロと、それからわしが名前、――わしが名前、親爺の方の血筋だとて、お袋の方の先祖だとて代々、他の奴等に劣るやうな家柄ぢやアねえわさ。――このうらたち三人の名前が新聞に出てゐただ、新聞に。そして種々と讃めあげて出てゐただ。

ミセス・コピンガー　新聞に何を讃めて出てゐただな、ブライアンだとてホスチイだとてあんただとて、皆判事様の前へ出た事もねえし、牢屋へ首を入れた事もねえにさ。

コステロ　お前、一體誰に聞いただね。

コピンガー　あの施藥所の先生様ア、道で車をお留めたされただよ。それから郵便車の運轉手も。あの人ア嘘をいふ人でねえ。それからモリセイがカンニンガムへ山羊を追つて行つただ。あの男は丁度クルーンの市から山羊を一群れ連れて歸る途中だつたよ。

ミセス・コピンガー　一體、新聞はどんな話を書いただね。

コピンガー　三人の紳士……と新聞に書いてあつただよ。わしらが事を。つまりわしらを尊敬しただわな、敬つただわな。それから又新聞にわしらが事を、すべての愛蘭人のお手本であつ

て標本であると云つてあるだよ。一番栗の房だ、ドルイナカンの花だ、そしてゲール人の清い麥の種だと書いてあるだよ。

コステロ　ふんとだか！

コピンガー　まだまだそれきしぢやねえ。評議員の衆は他の二ケ村の組合のものへ、大警告を出しなさつたちう事だよ。あいつらア記念ちう事に一寸も手を出した事がねえし、演說會ちう事もしなけアまたヒュウ・オウロラちう立派な名前だとて讃めもしねえだから。

ミセス・コピンガー　それアええこんだ。本當の事だが、シヤノン河の西にやア評議員も評議所もねえだよ。しかしきつと今日から躍ぎ越し祭まで一緒になつて騒ぎ立てるに違ひねえよ。

コピンガー　なあメリイ、うら本當にお前に聞くが、ねえ本當にお前ら二人に聞くが、どうだ、今までにうら今にきつと運がむいて來ると云つただらう？

コステロ　それぢやお前、本當に世界中の人が見に來るやうな銅像を自分で作るちう自信があるだか。

コピンガー　うら決してそんな自分の腕を疑つたり自分の仕事に背中見せて逃げたりするやうな事アねえぞ。もし銅像三つ要るちうならすぐうら三つでも作るだ。ウスナの三人の子でも、マンチェスターの三人の殉教者でも、バァレンやマクダラやコランキラの三人の聖人の銅像要るちうなら、うらすぐにでもその仕事に飛びついて行くだ。

ホスチイ　（紙を卷いたものをもつて出て來る。そしてベギイの家の戸口の前へ腰を下ろしながら）うら組合の書記さんがダブリンへ人をやつて取りよせて下された繪を受け取つただ。その人の云ふにやアこれは二人のええ腕の男が描いたちうことだ。畫をかくを商賣にして心をこめてる人が描いたちう事だ。

コピンガー　ふうん。それアかういふものを一寸も遲れず直ぐに畫にかいたちうのか。それぢやその人らはたしかに名人で手早い人に違ひねえ。

ミセス・コピンガー　（その中の一卷をひろげながら）どら、集會はじまつて相談しる前にわしら一度これう見ておかうぢやねえか。

それをひろげて皆に見せる。中には極く通俗的な雄辯家風の男の銅像の下繪が畫いてある。

コステロ　はアこれアええ、これア立派だ。

コピンガー　（弱々しげに）これアへえなかなか容易なこんぢやアねえ。どんな人でもそれに似るやうに作るちう事ア。だが他のを見せてくれ。これより一寸やさしいかどうだか。

ミセス・コピンガー　（ひろげる）これアへえ先刻のと大した違ひはねえ、たゞ上着の代りに外套を着てるちうだけの事だ、

コピンガー　それアさうだが、かういふ畫の上手な者が、銅像を石で造るやうに畫を描かねえちう事ア奇體な事だ。この位えの事が洒落れた畫かきの頭へ浮んで來ねえでゐるちう事アどうしたわけだか。

ホスチイ　これう作るちう事アえれえ事に相違ねえ。まことに堂々として立派でねえか。ふんとに兩方とも立派でねえか。こんな畫描くたアこの畫かき餘程ええ腕のもんに相違ねえ。ボタン一つ落さず描いてあるでねえか。何一つ描いてねえものアねえ。だがお前だよ、うら思ふなアお前の事だぞ。この仕事仕上げる事がわれに出來るだかどうだか危ねえもんだぞ。

コピンガー　うら、われに誓つていふだが、うらにアこのどつちだとて一寸も違ひはねえ、手もなく仕上げられねえでか。どんな事したとてこの仕事の執行猶豫など願ひ出すやうな事アねえ。銅像ちうものア昔のもんが一番ええだ。われもあすこのお寺で見るとほり、あの勇士は兩脚で立つてるやうに作らにやアなんねえわけはねえ、丁度われ寢床ん中へ横んなつたやうに、そして眠つてゐねえ時のやうに長くなつて寢てるのを造つたとてええだ。

ホスチイ　その箱の上へ乘るだ、ダアピイ。そして、そいつを一つ持つだ。（コステロそれを首から前と後とにぶらさげて箱の上に立つ）さうさう、さうなるだ、さうなるだ。――今これを決めるのはトーマス、われぢやアねえだぞ。今に評議員の衆が、やつて下さるだ。

コステロ　（箱の上へ立つたまゝ）それア一番ええだ。そんな事までうらたちがしるちうぢや、とてもやり切れねえだもの。あの衆にやアこんな事アわけアねえだ。あの衆はいつも、請負ひだとか入札だとかそれからその他でもさういふ風の事をいつも裁くにやア馴れてゐなさるだから、

ホスチイ　われさういふ事をやさしいと思つてるだか。

コステロ　うら、たゞあの衆は、どうしてええどうしていけねえちう事を決める、自分の仕事によく馴れてゐなさると云ふ事を云つただけの事だわな。

ホスチイ　その畫かきの中一人の男は北ムンスター會員の人の甥だちうこんだ。

コステロ　それぢやアあの衆にその人に決めるやうに申し出してみなさろ。

ホスチイ　そんだけぎしぢやねえ。もう一人の男ア評議員の副長さんの從兄弟だちうこんだぞ。

コステロ　そんならへえいつそ二人とも採る事に決めて貰ふか。そして兩方を背中合せにくつつけるだよ――それでどこからでも見えるやうに何とか工夫するだ。――（箱の上でじりじりと廻り作ら）もし銅像を廻すやうにすれア、どつちもえこひいきがなくてええ。

マニョン　（上場しながら）車に乘つてそして樂隊つけてあのえれえ衆もうお出掛けなされてもええかどうだか、支度出來てるか見て來いと云はれただよ。

ミセス・コピンガー　もう、お出掛けなされるやうに云つてくれ。支度はすつかり出來てるだか

ら。わしらみんなお待ちしとるところだ。この通り、椅子も、テーブルも、それから穴ア明ける石も、それから下繪もすつかり支度出來てるだ。

マニヨン　それからわしイ訊いて來いといはれたのア、銅像の下ん所へ張る書きつけは出來てるだかどうだね。

コピンガー　なに書きつけ？

マニヨン　うん、書きつけだ。ヒュウ・オウロラの名前とそれから生れた年月日と、それから住んでた場所と、壽命は何年だつたか、どんな事をしたかちう履歴。それうよく判るやうにきれいに書いて書きつけにしてわしに下さるだ。

ホスチイ　それア、トーマス・コピンガーにやつてむらふがええ。

ミセス・コピンガー　なんであの人しねえだ。お前字イ書けねえだが、心ん中で自分が思ふ事、紙の上へ書く事出來ねえだか。

ホスチイ　書けねえわけでねえ、われと同じ位えの事ア知つとるだ。しかしトーマスはいつも世界中の骨の上へかういふやうな事ばかり書いて馴れてゐるだから、うらが書くよりもトーマスの手で書く方が、ペンがすらすら動くちうなア、不思議はねえだ。よう、意地惡いふもんでねえ。

コピンガー　ううんにや、そんな事アねえ、そんなわけのもんでねえぞ。どんな人だとて埋けるにア皆んな先様の方で名前と年とを書きつけにしてうらがとこへ持つて御座るが法だ。うらが仕事はそれからだ。それう石塔へ彫りつけるちう大事な仕事があるだ。紙の外へ走り出てしまはぬやうに書くちう事アなか〳〵容易な事でねえだ。それアへえ何でもかんでもブライアン・ホスチイに書かせにやアなんねえ。

ホスチイ　いいんやそんな、歌よみや書記がしるやうに、紙の上へ字イ書きつける事などうら一度も商賣にした事アねえだもの。そんな事ア、ダアビイ・コステロの方が馴れてるだア。ダアビイは、一昨年、荷馬車の軸へ自分の名前と番地を書いておかにアいけねえと警察に云はれて書いたでねえか。

コステロ　あツわれ飛んだ事いふ。うらが事などかまはねえでくれるがええ。うらアへえとてもここへやつて御座るやうな衆のみんなに氣に入るやうにやア書けるわけはねえ

コピンガー　あゝ一體お前ら何を書くつもりでゐるだ。その血筋の苗字も、呼び名も分つてるだし、それからたゞ、世界でもえれい人だちう事を書きやアええだ。例へば「ホーマーは、ギリシヤ語をよく話し、ついぞ嘘間遠ひを云はざりき」といふやうな具合だ。

マニヨン　それアへえきつとそれでええに相違ねえ。新聞社の人らは町で、ヒュウ・オウロラの

生れたところを聞いてゐただよ。

コピンガー　それアへえブライアン・ホスチイ、われが知つてるに相違ねえ、われアうらとは違つて物を覺えとるちう事も一寸もへええれえこんでねえだから。

ホスチイ　いいんや、うらもお前と同じで、その事アすつかり忘れてしまつただ。

マニョン　そんぢやアこの人の事をすつかり知つてる人ア一體何處にゐるだかね。むろんこの人の事アへえいつか一度は何か昔の本の中に書かれた事があるに相違ねえだもの。

コステロ　マラチ・ノートンの他に誰が知つてるもんでねえ。マラチならわしらの思ひ出させてくれるに相違ねえ。

ホスチイ　マラチ、一寸ここへ來るだ。一寸われに聞きてえ事があるだ。

マラチ　（家の中から出て來る）うらに用があるたア一體何の事だね。

コピンガー　この村へ銅像立てる人アどういふ履歴でどんなえれえ事をしただかちう事を知つてるなら、うらたちに話してくれるだ。

マニョン　はーん、何をこんな男知つてる筈アねえ、何をこの男が話せるもんでねえ。

マラチ　何でうらがこの人の事を知つてねえと云ひなさるだ。うらアその人をこの二つのうらが目でちやんと見ただぞ。

コピンガー　なに何んだと、われその人を目で見た？　本當にその人を見ただか！

マラチ　見ただとも、夜、わしイはつきりとようく見ただ。それでなくて何でうらが驚、こんなに跳る程喜んでゐるもんでねえ。

コピンガー　われ本當に正氣でその人を見ただか。正氣だつただかその時。

マラチ　えれえ神様とうらのほか何にも覺えてゐねえ。雲のやうに霞のやうに澤山の人間がゐたのをわしイ見ただ。騎手のやうな人が走り廻つてゐただ——その中に一番の大將のやうな人が一人ゐて、栗毛の馬に乘つてゐただ、——そしてその人はお月様や天道様よりも明るく御光がさしてゐただ。——そしてその人の眼はうらたちの眼どこでねえ、きらきらと光つてただ。そしてそのきれいだつた事ア、うらもうついぞ見た事もねえ程だつた。ギリシヤのわけえ神様みんな一緒にしたとて、あの强さうな人の血の花のやうな一滴にやアとてもへえ及ぶもんでねえ。

コピンガー　この男の頭アこの通り取りとめのねえ事ばかり考へ出すだもの、わしらこんな男にいくら訊いてゐたとて一向埒が明きさうもねえ。この男しやべつてるなアその人が年よつたちうくれえの事の外何にも頭ん中にねえだよ。

マラチ　あんたアまたわしに問答してやりこめて苛めるだな、うらが大事の板つ切れを盜つてしまつたのはあんたに相違ねえ。わしがいふよりも、もつと詳しくその人の事が訊きてえなら、

ペギイ婆さんの所へ行くがえええだ。

コピンガー　なに！　ペギイ・マホンが知つてるくれえなら、その人アこの近所のもんに相違ねえ。だが、ひよつとするとペギイ婆さんの事だから、その人がえれいなんちう事も又いつもの傳で、星の中からでも拾ひ出しただかも知れねえぞ。

ミセス・コピンガー　いいや、とにかく、ピーター・マニョン、あんた一走り行つてあの戸籍帳を調べて貰つて來て下せえ。あの中にやアその村にゐた人の名ア何千年昔の事でもちやんと書きつけてあるだから。

マニョン　どうかすぐ見つかつてくれればええが、そして書記さんがすぐやつてくれればええが。その中から捜し出すちう事アとても容易な事ぢやアねえ。もしもその月日さへはつきりわかつてゐれア、それに書いてある事から何か捜し出す事も直ぐだらうと思ふが、しかしこれアへえ何しろまるで泥炭沼のどん底から捜し出すやうな事だから。（去る）

マラチ　あんたらでもきつとその人をよく見ようと思つて立ち上つたに相違ねえ。その人アまるでへえ琥珀のやうなきれえなきれえな髪の毛だつただよ。そして十二人の美しい騎手の先へその人ア立つて——

コステロ　その人の似顔わしらここに持つてゐるだ。その繪は、その人アきつとこんなであつたに相違ねえと思つて描かれただ。つまり、あゝいふ風のえれえ人がみんなかういふ風をしてゐるちうので描いただ。（畫を差し出して見せる）

マラチ　（畫の方へ一生懸命になつて進みより、まじまじと見、突然はね反る）あんたなにいふだか！あんたアこんなものをヒュウ・オウロラだなんと云ふだか。こんなものにあの人の貴い名前かぶせて見ろ、わしイあんたア呪ひ殺してしまふぞ！（その畫から飛び退く）

コステロ　われ物を知らねえでかういふものがわからねえだからそんな事をいふだ。この畫は何處で描いたと思ふだ。ダブリンだぞ。その衆らちやんと知つてなさるに相違ねえ。

マラチ　うぬれその鬚つ面むしり取つてくれるぞ！　こんなものをうらが大事な人だなどいひ張つてみろ、石の塊で叩き殺してしまふぞ。神樣、こんな野郎は殺して下さりませ。こんな野郎のためにあんなに海が不思議なお告げで一杯になつただちうだか？

コピンガー　それア全く、かうして紙の上に描いただけぢやアまだ十分ではねえだ。これう石で彫つてみると、もつとずつと立派なもんになるだわ。

マラチ　あの人の眼にやア七色の御光さしてゐただぞ。あの人ア普通の人間の百倍よりも美しくて強い人だつただぞ。あの人ア青い刀ア持つてゐなさつて、その中に金色で名前が書いてあつただ。あの人ア世界中ゝ掻ゝ廻す事が出來るだぞ、世界中を叩き壞す事も出來るだ。——これア

何だ、一體これア何ちうざまだ。こんな力のねえ、まるで死んでるやうな、びくりともしねえこれア何のざまだ。惡魔自身が出て來てこんなものはみんなかつさらつて行つてしまふがえい。

コステロ　ふん、われエ、マラチ、われエ恐ろしい事をいふ奴だな。われが舌にやア恐ろしいハサミをもつてるだな。もしこの人ア普通の着物着てゐたら、何にも申分はねえだぞ。

マラチ　（その畫に飛びかかる。けれどミセス・コピンガーが手早くそれを取つてしまふ）それうららによこさねえだか、この不自然な化け物野郎め！　われがロイ頭の眞中まで扭ぢ曲げてしまふぞ。目玉眞白にして齒の色を黑くしてしまふぞ。われが腦の味噌、しやりかうべの窓から叩き出してしまふぞ。うらに棒つ切れ一本あれアわれたち、骨拔きにしてやるだに。うぬれ、その骨を燒いて粉にしてしまふぞ。うぬれ、八つ裂にしるくれえ何んでもねえだぞ。手足イばらばらの三十三切れにされねえうちにさつさと消えて失せねえだか。（さう云ひながら畫に飛びかかる。しかし箱につまづいて、その上へどうと倒れる）うらが大事な大事な人にこんな畫を描いて、こんな恥をかかせるだか！　貴樣ら一人殘らず惡魔にかつさらはれるがえええ、こんなみたくでもねえいやらしいものを立てるなど思ふだら、うらア今からでもうぬれたち祈り殺してしまふだぞ。

マラチ怒り立つて箱が蹴飛ばす。すると箱の下から例の板つ切れが出て來る。ホスチイそれを取りあげながら、

ホスチイ　アツ！　これアあの難船したケリイの衆の青い船の板つ切れでねえか。あの舟え、難船しるが當り前だ。あいつらうらたちの海まで來て鯖を盜つて行つただから。

ミセス・コピンガー　はーん、そんでうら云はねえこんちやねえ、ヒュウ・オウロラちう名はどつかで聞いた事があると始めから云つてただ。さうださうだ、みんなの衆、あの船の名がヒュウ・オウロラといふだとわしに聞かしてくれただつた。

マラチ　（板つ切れをひつたくる）あツ、これ、うらが板だ、うらが大事な大事な板つ切れでねえか。どうだ、これみるがえええ、海の波でせえうらにかくしでゐる事の出來ねえこの板ア、なんであいつらがかくしておけるもんでねえ。

コステロ　マラチ、われ一寸も騷がねえで平氣でゐるな、さうだらう、不思議ぢやねえ。われの大事な英雄がこんな馬鹿なたわいもねえもんだちう事がいくら分つても平氣でゐるだな。成程なア、名前え板つ切れの上へ書かれるだけあつて、われが大事の英雄ちうなア、えれえ人のこんだなア。

マラチ　なに嘘だと？　これが嘘でどうしてうらがこんなに一生懸命に骨を折るもんでねえ。ダアビイ・コステロ。うら今こそ知つただが、われえれえ嘘つ事云ひだな。（板をシャツの中へ扭ぢ込んで）あーあ、俺が大事の大事の心の祕密、うら今にこんな奴らにやア何もわからんやうに

置してしまふから待つてろ。こんな奴らこの事の分るやうな人間でねえだ。この村にやア淺間しい人間ばかりゐるだなア。この村にやアこの名前の分る値打のある奴は一人もゐねえだか。うらもうへえこれぎりにしてこんな奴等を相手にして苦しむのはやめだ。うら自分だけで一人で考へてゐるだ。自分とそれから野の石と。あーあ、うらもう歸るだ。もう歸るだ。そして鳥や獸ん中へ行く方がええ。鳥や獸ならこの人をちやんと敬ふ事を知つてゐるだ。

ホスチイ　うんさうしるがええ。さうしるがええ。さうしたら又お月様ア滿月になつておれが頭の調子を變へて下さると、又あの人の姿に逢へるかも知れねえ。

マラチ　（去らうとして一寸の間あとを振りむき）見るだとも、あの人の姿ア見るだともー　たとへ火の中でも水の底でもうらくぐつて行つてあの人を捜し出す事が出來るだぞ。あの人に逢へさへすれア、われらたちにア解らんでしまつた事がみんなからりと知れるだ。それからもう一つ云つて置く事があるだ。うらうぬらがあの人の變な銅像など造つてくれん方が餘程ええだ。あの人そんな事されねえで、その方が餘程仕合せだと思つてるだぞ。（退場）

遠くに樂隊の聲聞ゆ。

マニヨン　（入つて來る）さあこれだ。丁度折よく書記さんが戸を開けつぱなしておいたところへ行つただ。これが昔からの戸籍帳だ。だがこれアあの大飢饉のあつた年から後でなきアねえ。これより古い方の奴はどこかへ入り込んでしまつただか、それとも誰か馬鹿な奴が捨ててしまつただ。だがよく捜しアあの名前きつとこの中にあるに相違ねえ——

ホスチイ　あるに相違ねえ、それから一寸も傷も難癖もねえ山羊も百匹ゐるに相違ねえ。

ミセス・コピンガー　その中にヒュウ・オウロラちう名があると、書記さんが仰しやつただがね？

マニヨン　仰しやつただ、そして猶つけ加へて——

ホスチイ　名前が戸籍帳に乘るのは獨りでのるのぢやねえぞ。うらそれがジャック・オ・ランソーンちうやうなものぢアねえかと心配になつて來ただ。

コピンガー　この國中が組合や倶樂部にこの名をつけてるだもの、なんでそんな事あるもんでねえ。うらジャック・オ・ランソーンたんちうものになんで石の銅像など作る氣になるもんでねえ。

マニヨン　まあちよつくらお前さんらわしが云ふ事も聞いてくれつちア、書記さんいふにアーくれろ。

ホスチイ　そんならダアビイ・コステロ、その本の中にアどんな事が書いてあるだか讀んで見てくれろ。

コステロ　（本をミセス・コピンガーに渡し）いんや、わしイいやだ。おかみさんに賴むがええ。おかみさんは全く讀む事慣れてゐなさるだ。まるでへえ神様アおかみさんの腹ん中へその書きつけ入れておおきなさつたやうに、すらすらとあの人アよみなさるだ。

ミセス・コピンガー　（坐つて最初の頁を擴げ、ミカエル――ミカエル・モリセイ――いいやこれア違ふ。――一體この人はどこで生れただかね？　――バアリイ・ラビット――そんぢやこれアあのカンニンガムへ羊を追つて行つたモリセイのお親父さんに相違ねえ。

ホスチイ　親類や身内の事を一々調べるのはやめなせえ、それぢやとてもあの名ア見つける事ア出來めえから。

ミセス・コピンガー　トーマス・フェイ、その前がジョセフ・フェイ、それからピーター・フェイ。――ハハア、これアこの本を大部取つてるな、これア皆んなフェイの一族だな。これアこの本はあの衆らだけのもんで、この村のもの全體にそなへてある本ぢやアねえわな。

ホスチイ　ずんずん讀んで、おかみさん。ずんずん讀んで。

ミセス・コピンガー　まあどうだね、あんた何と思ふな、この他にまだここにフェイの衆がゐると思ふかね。この頁にアまるでへえ梯子段のやうにフェイのもんばかりが集つてゐるだよ。

ホスチイ　（本を引つたくつて終りまで頁を繰つてみる）どれ、もう一度讀直して下せえ。――ふせるかはりにもう一度終ひから見て行つて下せえ。昔からぢやずゐ分澤山のフェイちう名のもんが死んでゐるだなア。

ミセス・コピンガー　どうでお前の氣に入るやうな事は容易な事ぢやねえ、お前のやうに性急な人にア、ブライアン・ホスチイ。あゝこれがこの本の一番終ひの名前だが、お前のお氣に入るかどうだか。はてな？　エッチ、ヒュウ――これアどうだ。まアあんたこれを聞いたら何と云ひなさる、これアへえ、ヒュウ・オウロラだよ。

コステロ　それが捜してる人でねえか。

コピンガー　（婆さんの肩越しにのぞき込みながら）成程さうだ。それぢや年を讀んでみてくれや、婆さん。それから日と。うらが腹に落ちるやうにゆつくりと。

ミセス・コピンガー　五月十日、一千九百――おや今年だ！　――をととひだ――いやこれア昨日の事ぢアねえか。

ホスチイ　それアあんた年を間違へて讀んでゐるんでねえか。まだ昨日や一昨日生れたところの赤ン坊だちうに、どうしてそんなものの記念碑を立てるちうだア。

ミセス・コピンガー　よく勘定してみるがええだ。お前それで昔ア石板もつて勘定する事を習つただか。

ホスチイ　（本を取りあげながら）どうしてこれア今年ぢやねえか。この年でねえか――あゝそれともうらが頭ん中雲でも起つてわからなくなつただか。

マニョン　書記さん仰しやつたにア、――まアちよつくらわしにも話さして下つせ。フェイの血

筋のもんが一人あるだよ――

ミセス・コビンガー　フェイも糞もあるもんでねえ。うらたちあヒュウ・オウロラの話をしてるだぞ。それともヒュウ・オウロラちう名を英語讀みにしるとフェイとなるとでもいふだか？

マニョン　フェイの血筋で、あの鐵工場の近くに住んでる男があるだよ。その男が自分のまだ年の行かねえ小さい子を養子にやつただが、昨日その子の洗禮式があつただが、何しろこの通り此頃はこの界隈にヒュウ・オウロラちう名が鳴り響いてゐるだから、その子の名もヒュウ・オウロラとつけただちうこんだよ。

ミセス・コビンガー　なんだ、それならさうと、お前もなぜ早く聞かしてくれねえだか。ピーター・マニョン。お前が匿してゐるもんだから、わしイ何も知らねえで骨折つてそれを捜しまはつたでねえか。そして何もその野郎、自分の血筋でもねえ名前をつける事もねえもんだ！

マニョン　そこがその書記さん仰しやるにア、その家のものアへえたゞ小つちやな家で人間の數も十人もねえだ。そんで今迄に大てい一番有名な聖人様だとか先祖だとかの名前をつけてゐただ。

ホスチイ　そんでやつぱり、本當のヒュウ・オウロラについちやア、結局始めうらたちが考へた事と一寸も違ひはねえでねえか。

コビンガー　そんな帳面、何になるもんだ、うらたち考へてゐるのとちがふ戸籍帳など何になるもんでねえ。あゝペギイ・マホン。出て御座らつせ。そしてどうかお前の知つてなさる事をみんな聞かして下さえ。うらたちお願しるだから聞かして下せえ。

ホスチイ　あんな婆アに訊いたとて何がわかるもんでねえ。たわいもねえ夢のやうな馬鹿氣た事ばかり話してゐるだけの事だ。

ペギイ婆さんがのこのこと出て來るので、皆婆さんを取り圍む。婆さんは腕の中に一匹の猫を持つてゐる。自分の家の前の椅子に腰を下ろす。

ミセス・コビンガー　さあ今度はペギイ婆さま、あんたア、ヒュウ・オウロラに就いて知つてゐなさる事をありつたけわしらに話して聞かせて下さるだ。

ペギイ　ハン、こんな面白くもねえ時に、そんな莫迦な事をするのはいやな事だ。そんな事を話して聞かせてやるなんていやなこつた。この猫の畜生め、わしが飲まうと思つてゐたお茶を滅茶々々にしてしまつたでねえか。そんな他事どころぢアねえ、この畜生、わしがお茶の中へ手を突込みアがつたでねえか。そんなお茶ア表へ捨てるより仕方がねえ。水だとて何だとて猫が手をつけたやうなもの飲むものがどこにあるもんだ。猫ちうものは魔物でねえか、猫ちうものは地球の上を這つてゐるものの中で一番怪體な魔物でねえか。

コピンガー　まあまあ一寸來なせえ。ペギイ婆さん。さうしてどうかわしらに一つ聞かしてもれえてえだ。

ペギイ　お茶が一滴も飲めねえやうな日にアわしイ何を考へる事が出來るもんだ。あゝ一體あの猫の畜生は、何の入用があつてお茶などへ手を掛けやがつただか。猫ちうものの中には、どうしても何か惡りい魔性のものがかくれてゐるにきまつてゐる。

ホスチイ　こんな婆アに何を訊いてみる必要があるもんでねえ。こんな婆さま、もうへえおいぼれて自分の頭ア自分の上へもおけねえよう、かたがたになつてるでねえか。

コピンガー　まアまアそれぢア一寸待つてゐなされ。わしが一つお茶を一杯持つて來てやつてうまくだましてみせるから。

ミセス・コピンガー家の中へ入る。

コピンガー　ねえ婆さまや。さア一つみんな聞かして下されよ。お前さまマラチ・ノートンに聞かしてやりなされた通りによ。ヒュウ・オウロラたア一體どうした人だか、どうしてあゝ有名になつた人だか。

ペギイ　ヒュウ・オウロラ、――ヒュウ・オウロラ、ヒュウ・オウロラたアさういふ名の人であつただ。そしてその人アいつもいつもヒュウ・オウロラと呼ばれてゐただ。これからでもやつぱりヒュウ・オウロラと呼ばれるに相違ねえ。わしイ覺えてゐる最初の頃やつぱりみんなヒュウ・オウロラと呼んでゐただ。わしイまだ氣力な時分から、わしイまだ頭アしつかりしてゐた時分から。

コピンガー　ふふーん。成程なア。そんぢやお前、その人が生れて來た時、あんたが取りあげてやつたちう譯ぢやねえだね。

ペギイ　あーア、うらがお茶の中へ足をつつ込むとは、猫ちう奴は何ちう惡りい魔物だか。

ミセス・コピンガー十杯の茶をもつて出て來る。

ミセス・コピンガー　さアさア、ペギイ婆さまや。これを一口飲んでみなさろ、さうしれあ、直きにええ氣持になるだから。

ペギイ　（ミセス・コピンガーの方へ背をむけて）お前は何んであんな事をぬかしただア、うらが死んだとて、うちの人に逢へるやうな事アねえだなどと。豈ちうもんが明るくて夜になると暗くなるやうにおきめなされたなア神樣でねえか。それだもの、神樣ア人間だとて御入用の時にア、その時が來れアお召しなされるちう事ア誰でも知つてる事でねえか。

コピンガー　（茶碗を取つてペギイ婆さんにすゝめながら）さうともさうとも、お前さまのいふ通りだとも。三十でその男盛りの時だとて、お前さまのいふ通りだとも。

ペギイ婆さん茶を飲む。

コステロ　婆さまその話アよく知つてるだから、なアに今にすぐ聞かしてくれるだとも。ヒュウ・オウロラちう人に就いて。

ペギイ　わしイ知つてるぞ。わしイ知らねえでどうしるもんでねえ。ヒュウ・オウロラにやア立派な面白れえ話があるだとも。

コビンガー　それぢアそいつを、ねえ婆さまや、わしらに一つ聞かしてくれねえかな。

ペギイ　昔、一人の後家婆さんがあつたが。それアへえ今の事ぢアねえ、その婆さまゐだちう事アぜんぜんだ。

ミセス・コビンガー　あゝ？　何だか又いつもの昔の自慢談が始まりさうな事を云ひ出したな。

コビンガー　まあまあ一寸待て。今に何か話し出すだから。

ペギイ　その婆さま、たつた一人の息子があつただ。その一人息子ア名をヒュウ・オウロラと云つただ。

コステロ　ええツ！　これアどうだ。うらこの前もちよつくり思つただ。これアどうしても昔、うらが子供の時分、うらの爺様アいつも聞かしてくれた昔噺にそつくりでねえか！

ミセス・コビンガー　そんでは婆さま、一體そのヒュウ・オウロラたア何時頃生きてゐた人だか。

ペギイ　そんな事がうらにどうして云はれるもんでねえ。そんな事アきつとへえ、昔し昔し大昔し、神代の時分の事であつたづら、ある日息子はお袋様のとけえ來て云ふ事にア、「おつかアよ、うらに今から鶏を一匹煮て、それから菓子を一つ焼いて下されよ。うら今から、王様の御殿へ行つて御姫様をうらが嫁御にして下されえと云つて來る」と云つただ。

コステロ　アツ！　その話ならうらも終えまでちやんと覺えてゐる話だぞ。そんな話ならへえ、何でもねえたゞの根も葉もねえ作り話でねえか！

コビンガー　ええツ！　われ、それア本當の事云つてるだか？

コステロ　こればつかりは間違ぢアねえ、うらあの話の道筋ならちやんと終えまで覺えてゐるだとも。首切り役人が命を取るちうので、到頭終にア家鴨の卵の中へ入つて匿れるちう話だよ。

ミセス・コビンガー　何だ、さうならさうとお前も何故もつと早くその事をわしらに話してくれねえだ。ええダアビイ・コステロ。そんな、ヒュウ・オウロラちうのが、たゞ根も葉もねえ昔の作り噺だちう事を知つてゐたのなら。

コステロ　そんだとてうら、内氣で氣の小せえ人間だもの、あんたら皆が云ひなさる事を何ちう事が出來るもんでねえ。おまけにへえ、わしらみんなその事を本當にしにアなんねえ時だもの、わし一人そんな事疑つちやへえ申譯がないでねえか。

ホスチイ　ふふーん。そんぢアこれアへえたゞ何でもねえ作り噺の中の人の名だちうだか。風

のやうなあてもねえ話の中の人の名だちうだな。一體どうしてそんな事にトーマス、われ今迄一寸氣もつかずにゐただちうだ！　それうマラチめが自分でええやうな事を考へ出してまことしやかに饒舌り立てた話だちう事を。

コビンガー　うらアダムの時からそんな事の何を知つてるもんでねえぞ。魔法使ひでもなけア術を知つてるわけでもねえし。われこそこんな事を一體なんで氣がつかねえでゐたちうだか？

ミセス・コビンガー　どこかにゐたちうくれえの事ア當り前のこんだ。そんでねえものにあんでわしらが記念碑などを立てやうとしただか！

樂隊及び車の音、近く聞ゆ。

ホスチイ　へん、そんな奴はムンスターの嘘つきの作り噺の他に何處にもゐるわけアねえ。あ　あ今にああして道をやつて來る連中のみんなに、うらたちアええお笑草にされるのだぞ。ありもしねえ人の記念碑を造つたなどと云つて騒ぎ立てるだもの、あの衆らみなうらたちを笑はねえでゐるもんか！

コビンガー　あーツ！　そんならへえ、もうすんでの事にうらにええ運を持つて來るとばつかり思つてゐたのに、それがどどのつまりうらが身の上を滅茶苦茶にしてしまふだが！　オーグリムでゲール人が賣られて以來、そんな情けねえ事は又とあつたためしもねえ。

コステロ　そんぢやア村の衆らアうらたちをどんな目に遭はせるか分らねえ　これアへえどうしたらええだか、どうすべえ！　そんならわし海ん中へ飛び込むべえ。そして首だけ出してゐべえ。さうしねえぢや、村の衆、きつとうらを取つつかんで、えらい目に遭はすに相違ねえ。

皆、顔へ上つて椅子の上にへたばるやうに腰を下ろす。

ペギイ　（立ち上り愉快さうに笑ひながら）　ヒヒヒヒ……うぬれらくたばつたな。とうとううぬれらくたばつたな。うぬれらアしやらくせえ。何イ一つ知つてるわけがあるもんだ。こいつが、あのわしをこきおろしただな。「そんなもなアへえ勝手に考へ出しただ。夢を見てるだ」と云つてこきおろしただな。それからこいつア（ミセス・コビンガーを指して）うらが大事な大事なうらの人をこき下ろしただぞ。あの人の事を、何の役にも立たねえ、何のええとこもねえ、他の奴らと同じで、いいンにや、他の奴らよりも悪りかつただなどと云つてこきおろしただな。

ミセス・コビンガー　ダアピイ・コステロ！　それぢやア、これアお前がみんな婆様に告げ口しただな。われアわしらお隣り同志でゐるものの間を仲違ひさせる悪腹でゐるだな。

コステロ　もしわしがハアそんな事を云つただとてそれアへえたゞ婆さま、自分が死んだとて死んだ亭主のゐる所へ行かれねえかも知れんと考へ込んですつかり力を落してゐただから、ただわしイ一寸、婆様力アつけてやるべえと思つて、婆様氣イ休まるやうしてやるべえと思つて

さう云つたに相違ねえ。だがわしイいさ何か婆さまの氣イ休まるやうな事をしてやるべえと考へても、それえへえたゞうらが心の中でしるだけでわしイそれう外へ出す事ア出來ねえだア。それうそんな事を云はれて、まるでへえわしイ背敎者のやうにいはれるたア何ちう情けねえこんだ。

コピンガー　こんな奴らの事ア氣に掛けなさんな、なア婆さま。うらアお前のうちの人に立派に石塔を造つて祭つてあげるだから。そしていつまでもこの世に名ア殘るやうにその石塔の上へちやんと名前を彫りつけておいてあげるだよ。

ペギイ　ああ何んでうぬれにそんな事をさせてやるもんでねえ。うら何にもうぬれなどに石塔も註文しねえぞ。その上へ名を彫つてくれともいはねえぞ。そんな事をしれアどこの馬の骨とも分らねえ奴がそれう讀んで又何だとか彼だとか、碌でもねえ事をしやべるだけのこんだ。くちやくちやと惡口を云ふだけのこんだ。あのええうらが連合の事を、あのええ男振りのうらがパトリックの事を、吃りのみつともねえ一寸法師だなどと云ひ出しアがるだけだ。（ペギィ小屋の中へ入りかけて一寸戸口で振りかへり）うぬらアふんとに不思議な化物だぞ。マラチがうぬらア捨てて行つたちうなア、ふんとのことだ。マラチはよつぽど利巧もんだぞ。誰でもが胸の中に大事な事があつたら、それア人にやア置しとくが一番ええだ。もうへえかうなれア世界中の奴め、みんなうら胸ん中の一大事を嗅ぎつけに來てみるがえええだ。もうへえ今度ア欺されるやうな事アねえぞ。もうへえうらたんだ一口だとてパトリックマホンの事など話してやるやうな事アねえ。一口だとてヒュウ・オウロラの事を話してやるやうな事ねえぞ。ヒュウ・オウロラだとて決してへえそんな町ん中アいくらでも歩いてるやうな奴ちアねえにきまつてるだ。おうーお、さうでなくてか、さうでなくてか、うら今度こそ油斷しるこんでねえぞ。今度こそ氣イつけてゐるだとも。どんな事にでも氣イつけてゐるだとも。ちやんと氣イつけてゐて、夢の事一寸だとて人にやア話すこんでねえ。

小屋の中へ入り戸を閉めてしまふ。マニョン上場。

マニョン　お前さんらもうへえいつがひにもあの鯨ア置いてある所へ行つた事アねえだな？

ホスチイ　何によう！　うらたち承知であの獸ア、あゝして青い海原ん底の厩につないで、えやうに草ア食はしておいてあるだア。それがうらたちのためにもあのけだもののためにも、七十倍もええちう事を知つてるだからやつてあるだぞ。

コピンガー　やれ銅像だア、土臺だア、石だアと云つて、うらにどうして暇があるだ？　うらちよつくら鯨んとこへ行つてみる暇もなしに毎日骨折つてるだぞ。まあまア、今度の日曜日にア神樣の御心にまかせて、うらも一つ鯨ア見に行くつもりでゐるだ。

マニヨン　へんそんならお前、藻や波のうちあげてゐる濱でたゞあのおつとせいの魂がごろごろしてる所でも見て來るがええだ！

コピンガー　何？　われ一體何をいふだ。

マニヨン　ぐづぐづ理窟ばかりいつてる中にあのおつとせいみんなお前らのとこを逃げ出してしまつたといふだア。

コピンガー　あの獸どうしてうらたちに知れねえやうにぴくりとでも動く事が出來るもんだ。あの獸にア足アねえだぞ。どうして歩く事が出來るちうだ。

マニヨン　コンネマラの奴等ア來て一匹の鯨の油アみんなくんで行つてしまひ、そしてもう一匹の鯨アこの大潮で沖へさらはれて行つてしまつただ。

コステロ　ひえッ！　それ一體本當の事だかね！

マニヨン　本當だとも本當だとも。本當すぎて歌にもならねえ。

ホスチイ　鯨アねなくなつちアもうへえこの村アどうしる事も出來やしねえ。それからトーマス・コピンガー！、われが石の立派な銅像もへえ鯨と一緒にお流れさ。

コステロ　諦めなさろトーマス。恐ろしい災難など來るこつちやねえ、愛蘭土へ來れア却つて仕合せになるだよ。あんたアもう銅像せえ作らざア、何も形イ不出來だとか何とか人にいはれるやうな心配はなくなるでねえか。まあかうなつたら氣イ晴しなさろ、お前もし銅像など作つたら、きつとへえ作りぞこなつたに相違ねえ。

コピンガー　うらも本當はさう思つただぞ、ダアビイ。もしうらそれう始めたら終まで仕上げにアなんねえ、さうしたらどんな事になるだか全くへえ分つたこんでねえだでなア。

ミセス・コピンガー　わしらこれからア死ぬまで世間の人に、いろいろ云つてもらへるに相違ねえ。世間にア眞當の事をしてもいろいろな話を殘す人があるだもの、うらたちは、今までに一度もねえ、それからこれからだとてさう滅多にありさうもねえ事をしただもの。

ヂウ・ドネル、アピウが奏する樂隊すぐ近くで聞え出す。ミセス・コピンガーは吃驚して家の中へ駈けこみ戸口のところから表をのぞいてゐる。コピンガーは石場のかげへかくれる。ホスチイは塀を飛びこしてコンノートの方へ逃げる。コステロはペギイ小屋の横へかくれ、たゞ一人、ピーター・ーニヨンだけ舞臺の眞中へ殘る。

樂隊いよいよ近く、ヒュウ・ヂウロラ萬歳の叫び聲手に取る如く。

——幕——

をはり。